

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同様もしくは類似した名前のボタンやつまみが本体にある場合は、本体でも同様に操作できます。



このマークは「高温注意（Hot Surface）」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じことがあります。

商標について

本機はドルビー^{*} デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS^{**}（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、および DTS-HD とシンボルの組み合わせは登録商標です。また DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMITM) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

AirPlay、iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、and iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、TM、[®] マークは明記していません。

「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod、又は、iPhone と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

DLNATM, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIEDTM are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.

“Sony Entertainment Network” ロゴおよび “Sony Entertainment Network” は、ソニー株式会社の商標です。

Wake-on-LAN は米国の International Business Machines Corporation の商標です。

Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、Microsoft Corporation が有する特定の知的財産権によって保護されています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、本製品に使われている技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IIS および Thomson から許諾されています。

“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。

VAIO および VAIO Media はソニー株式会社の登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

MHL、Mobile High-Definition Link および MHL ロゴは、MHL Licensing, LLC の商標もしくは登録商標です。

“InstaPrevue™” は、米国およびその他の国における Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth® とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。

その他すべての商標および商号は各社の所有物です。

FLAC デコーダー

Copyright (C)

2000,2001,2002,2003,2004,2005,
2006,2007

Josh Coalson

改変の有無に関わらず、以下の条件を満たした場合、ソースとバイナリ形式での再配布と使用が許可されます。

- ソースコードの再配布に、上記の著作権表示、本条件項目の一覧、以下の免責条項が含まれていること。
- バイナリ形式での再配布の場合、上記の著作権表示、本条件項目の一覧、以下の免責条項を書類、および／または本配布付属の資材の形式で複製すること。
- 事前に書面による許可を得ない限り、本ソフトウェアから派生した製品の保証や販売促進に、Xiph.org Foundation および作者の氏名を使用してはならない。

本ソフトウェアは「そのままの状態」で提供され、できる限りの明示された、または暗黙の保証を含んでいますが、それに制限されることなく、市場向けの暗黙的な保証や特別な目的への適用は拒否されます。本ソフトウェアの利用によって発生した責任の理由、契約の有無、絶対的な義務、または不正行為（過失またはそうでない場合を含む）の程度にかかわらず、基金またはその貢献者たちは、直接的、間接的、付随的、特別な、懲戒的、または派生的損害（代替商品または代替サービスの調達、利用・データ・利益の損失、業務の中止を含みますが、それだけではありません）について何ら責任を負わないものとします。これは、当該損害の可能性について知らされた場合でも同様とします。

目次

この取扱説明書について	2
同梱品	6
各部の名前と働き	7
はじめに	19
接続	
1：スピーカーを設置する ...	22
2：スピーカーを接続する ...	24
3：テレビを接続する	26
4：他の機器をつなぐ	27
5：アンテナを接続する	32
6：ネットワークに 接続する	33
本機の準備をする	
電源コードを接続する	35
本機の電源を入れる	35
Easy Setup（かんたん設定） を使って本機を設定 する	35
本機のネットワーク設定を 行う	38
GUI（グラフィカル ユーザーインターフェイス） の操作ガイド	42
基本操作	
つないだ機器の画像や音声を 楽しむ	43
iPod/iPhone を再生する	45
USB 機器を再生する	47
チューナーの操作	
FM/AM ラジオを聞く	50
FM/AM ラジオ放送局を プリセットする (プリセットメモリー) ...	51
音響効果を楽しむ	
サウンドフィールドを 選ぶ	52
イコライザーを調整する	56
Sound Optimizer 機能を 使う	56
補正タイプを選ぶ	56
ピュアダイレクト機能を 使う	57
サウンドフィールドを 初期設定状態に戻す	57
ネットワーク機能を使う	
本機のネットワーク機能に について	58
サーバーを設定する	58
サーバーの音声コンテンツを 楽しむ	64
Sony Entertainment Network (SEN) を 楽しむ	68
AirPlay で iTunes から音楽 をストリーミングする	71
ソフトウェアをアップデート する	72
キーワードを使ってアイテム を検索する	74
Bluetooth 機能を使う	
Bluetooth 無線技術に について	75

“ブラビアリンク”機能

“ブラビアリンク”機能 とは?	79
“ブラビアリンク”的 準備をする	80
ワンタッチプレイ	80
電源オフ連動	81
システムオーディオ コントロール	81
オートジャンル セレクター	82
シーンセレクト	83
オーディオ機器 コントロール	83
テレビリモコンか らのメニュー操作	83
MHL 対応機器を操作する ...	84
HDMI 映像信号を出力する モニターを切り換える ...	85

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を 切り換える (INPUT MODE)	85
他の映像／音声入力端子を 使う (Input Assign)	86
バイアンプ接続する	88
マルチゾーン機能を使う	88
お買い上げ時の設定に戻す ...	91

設定を調節する

Settings メニューを使う	91
かんたん設定 (Easy Setup)	94
スピーカー設定 (Speaker Settings)	94
音声設定 (Audio Settings)	98
HDMI 設定 (HDMI Settings)	100
入力設定 (Input Settings)	101
ネットワーク設定 (Network Settings) ...	102
システム設定 (System Settings)	103
GUI を使わずに操作する ...	104

リモコンを使う

リモコンを設定する	110
リモコンをリセットする ...	115

その他

使用上のご注意	116
故障かな?と思ったら	118
保証書とアフター サービス	131
主な仕様	131
索引	136

同梱品

- 取扱説明書（本書）（1）
- 接続・設定ガイド（1）
- 安全のために（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）
- 製品登録のおすすめ（1）
- リモコン（RM-AAP104）（1）
- 単3形マンガン乾電池（2）
- FMアンテナ線（1）



- AMループアンテナ（1）

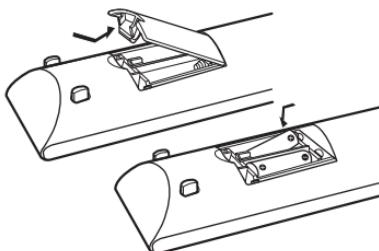


- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）



リモコンに電池を入れる

リモコンに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。乾電池を入れる際には \oplus と \ominus の向きを正しく入れてください。

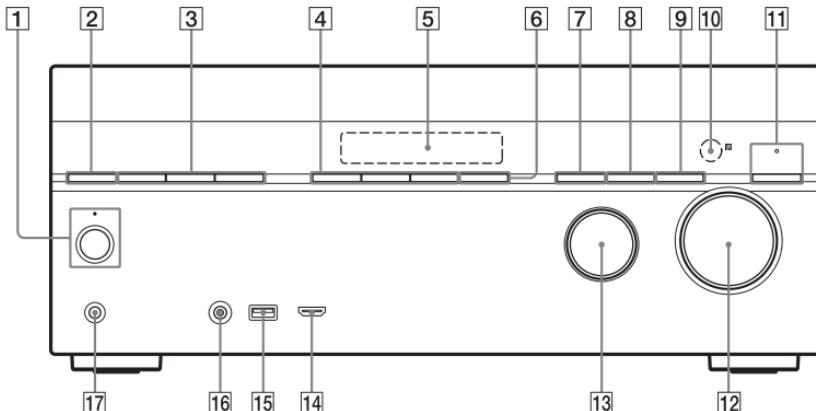


ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池を入れ換えたり取り出したりすると、プログラムコードが消えることがあります。その場合は、リモコンを設定し直してください（110ページ）。
- リモコンが本機に認識されなくなったら、乾電池をすべて交換してください。

各部の名前と働き

本体前面



① I/O (電源オン／スタンバイ) (35、57、91 ページ)

ボタンの上のランプは次のように点灯します。

緑：本機の電源が入っている状態
オレンジ色：本機がスタンバイ状態で

-「Control for HDMI」(100 ページ)、「Network Standby」(103 ページ) または 「Bluetooth Standby」(78 ページ) が、「On」に設定されているとき。

-「Pass Through」が「On」または「Auto」に設定されている場合(100 ページ)。

-ゾーン 2 で本機の電源が入っているとき(90 ページ)。

本機がスタンバイ状態で 「Control for HDMI」、「Pass Through」、「Network Standby」および「Bluetooth Standby」が「Off」に設定、およびゾーン 2 の電源が切れているときは消灯します。

ご注意

ランプがゆっくり点滅しているときは、ソフトウェアのアップデート中です(72 ページ)。

② SPEAKERS (37 ページ)

③ TUNING MODE、TUNING +/-

TUNING MODE を押してチューナー(FM/AM)を操作します。
TUNING +/- を押して放送局を選局します。

④ A.F.D./2CH、MOVIE、MUSIC (44、52、57 ページ)

⑤ 表示窓 (9 ページ)

⑥ SOUND OPTIMIZER (56 ページ)

⑦ BLUETOOTH (75 ページ)

Bluetooth 機能を操作します。

⑧ DIMMER

表示窓の明るさを 3 段階で調整します。

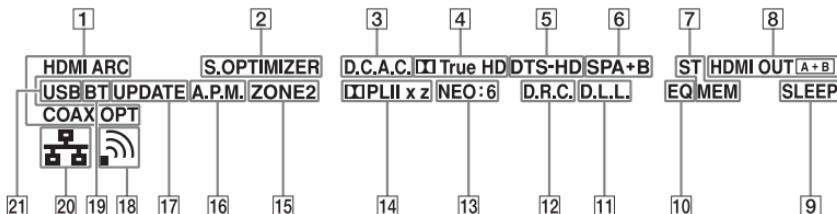
⑨ DISPLAY (110 ページ)

⑩ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

- [11] PURE DIRECT (57 ページ)**
ピュアダイレクト機能が働いてい
るときは、ボタンの上のランプが
点灯します。
- [12] MASTER VOLUME つまみ**
(44、98 ページ)
- [13] INPUT SELECTOR つまみ**
(37、44、86 ページ)
- [14] HDMI/MHL (VIDEO 2 IN) 端子**
(30 ページ)
- [15] ψ (USB) ポート (32 ページ)**
- [16] AUTO CAL MIC 端子**
- [17] PHONES 端子**
ヘッドホンをつなぎます。

表示窓上のインジケーター



① 入力表示

現在本機に入力されている信号を点灯表示します。

HDMI

HDMI IN 端子につないだ機器を本機が認識しています。

ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が検出されています。

COAX

デジタル信号が COAXIAL 端子から入力されています (85 ページ)。

OPT

デジタル信号が OPTICAL 端子から入力されています (85 ページ)。

② S.OPTIMIZER

Sound Optimizer 機能が働いているときに点灯します (56 ページ)。

③ D.C.A.C.

自動音場補正機能の測定結果が適用されているときに点灯します。

④ Dolby Digital Surround 表示 *

対応するドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

□ Dolby Digital
□ TrueHD Dolby TrueHD

⑤ DTS(-HD) 表示 *

対応する DTS フォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS DTS
DTS-HD DTS-HD

⑥ スピーカーシステム表示 (37 ページ)

⑦ チューニング表示

ST

ステレオ放送局を受信すると点灯します。

MEM

プリセットメモリー (51 ページ) などのメモリー機能が働いているときに点灯します。

⑧ HDMI OUT A + B (85 ページ)

⑨ SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します (13 ページ)。

⑩ EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

⑪ D.L.L.

D.L.L. (Digital Legato Linear) 機能が働いているときに点灯します (98 ページ)。

⑫ D.R.C.

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します (100 ページ)。

[13] NEO:6

DTS Neo:6 Cinema/Music デコーダーが働いているときに点灯します（54 ページ）。

[14] ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジック処理をしているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張することができます。

-  **PL** Dolby Pro Logic
-  **PLII** Dolby Pro Logic II
-  **PLIIX** Dolby Pro Logic IIx
-  **PLIIZ** Dolby Pro Logic IIz

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては、点灯しない場合があります。

[15] ZONE 2

ゾーン 2 の操作が有効なとき点灯します。

[16] A.P.M.

A.P.M. (Automatic Phase Matching) 機能が働いているときに点灯します。
DCAC (Digital Cinema Auto Calibration) 機能では、A.P.M. 機能のみを設定できます（96 ページ）。

[17] UPDATE

新しいソフトウェアをダウンロード可能なときに点灯します（72 ページ）。

[18] 無線 LAN 信号強度表示

無線 LAN 信号の強度を示します（39、41 ページ）。

- 信号ありません。
- 弱い信号強度です。
- 適度な信号強度です。
- 強い信号強度です。

[19] BT

Bluetooth 機器がつながれているときに点灯します（77 ページ）。

[20] 有線 LAN 表示

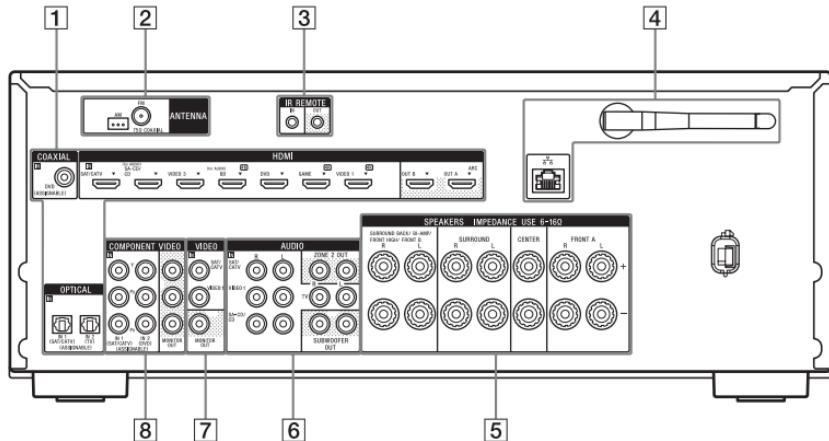
LAN ケーブルがつながれているときに点灯します。

[21] USB

iPod/iPhone または USB 機器が検出されると点灯します。

* ドルビーデジタルもしくは DTS フォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、および「INPUT MODE」が「ANALOG」（85 ページ）に設定されていないか、または「2ch Analog Direct」が選択されていないかを確認してください。

本体後面



1 デジタル入／出力部

- HDMI 入／出力 * 端子
(26、29 ページ)
 - 光デジタル入力端子
(26、31 ページ)
 - 同軸デジタル入力 端子
(31 ページ)

2 チューナー部

-  FM アンテナ 端子
(32 ページ)
 -  AM アンテナ 端子
(32 ページ)

③ ソニー製機器と他の外部機器用の コントロール端子

- ◎ IR REMOTE 入／出力
端子 (89 ページ)

4 NETWORK 部

- The icons are located at the bottom of the page. On the left is a blue icon of a network port with a cable. On the right is a blue icon of a wireless antenna.

5 スピーカー出力部 (24 ページ)



6 音声入／出力部

- ◎ 白 (L) 音声入力端子
(31 ページ)
 - ◎ 赤 (R) アクティブサブ
ウーファー出力端子
(24 ページ)
 - ◎ 黒 ゾーン2出力端子
(89 ページ)

7 映像入／出力部（26、31 ページ）

- ◎ 黃 映像入／出力 *
端子

⑧ コンポーネント映像入／出力部 (26、31 ページ)

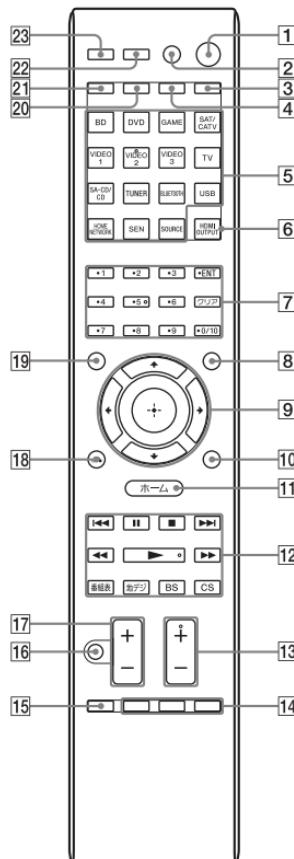
- ◎ 緑 (Y)
- ◎ 青 (P_B) Y、P_B、P_R 入力／出力 * 端子
- ◎ 赤 (P_R)

* 選んだ入力の映像を見るには、お使いのテレビを HDMI OUT 端子または MONITOR OUT 端子につないでください (26 ページ)。
** メンテナンスやサービスに使用することもできます (103 ページ)。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機や他の機器の操作ができます。リモコンのボタンには、ソニー製のオーディオ／映像機器用の操作ができるようになっています。ソニー製品以外の機器を操作できるように設定することもできます。詳しくは、「リモコンを設定する」(110 ページ) をご覧ください。

RM-AAP104



① 電源（電源オン／スタンバイ）

本体の電源をオン／スタンバイ状態にします。
ゾーン（**[20]**）を押してリモコンをゾーン2モードに切り換えると、電源でゾーン2の電源のオン／オフを切り換えることができます（90ページ）。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

「Control for HDMI」、「Pass Through」、「Network Standby」、「Bluetooth Standby」を「Off」に設定、およびゾーン2の電源を切ってください。

② TV 電源（電源オン／スタンバイ）

TV（**[21]**）を押してから、TV電源を押してテレビの電源のオン／オフを切り換えます。

AV 電源¹⁾（電源オン／スタンバイ）

リモコンで操作できるように設定したオーディオ／映像機器の電源のオン／オフを切り換えます。

ご注意

入力切り換え用ボタン（**[5]**）を押すたびに、AV電源の機能が自動的に変わります。

③ スリープ

アンプ（**[4]**）を押してから、指定した時間に本機の電源が自動的に切れるようにスリープを押します。スリープを押すたびに表示が次のように切り換わります。

0:30:00 → 1:00:00 → 1:30:00
→ 2:00:00 → OFF

ちょっと一言

- 本機の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、スリープを押してください。残り時間が表示窓に表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープタイマーが解除されます。
 - スリープをもう一度押す。
 - 本機のソフトウェアをアップデートする。
 - 電源を押す。

入力切換

TV（**[4]**）を押してから、入力切換を押して入力信号を選びます（テレビ入力または映像入力）。

④ アンプ

メインゾーンの本機の操作を有効にします（110ページ）。

⑤ 入力切り換え用ボタン²⁾

使用する機器を選びます。入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。入力切り換え用ボタンを選んだときにソニー製機器を自動的に操作できるように、あらかじめ設定されています。「リモコンを設定する」（110ページ）の手順にしたがって、ソニー製品以外の機器を操作できるようにリモコンを設定することもできます。

⑥ HDMI OUTPUT（85ページ）

⑦ 数字／テキストボタン¹⁾²⁾

ボタンを押して

- プリセットした放送局をプリセット／選局します（51ページ）。
- トラック番号を選びます。トラック10を選択するときは、0/10を押します。
- チャンネル番号を選びます。
- 文字を選びます（ABC、DEFなど）。
- ネットワーク機能の文字を入力する際に、！や？のような句読点、または他の#、%のようなシンボルの場合は、@を選びます。

TV（**[21]**）を押してから、数字ボタンを押してテレビのチャンネルを選びます。

ENT（決定）¹⁾

数字ボタンを使ってチャンネル、ディスク、またはトラックを選んで、設定値を決定します。

文字切換¹⁾

ネットワーク機能の文字タイプを選びます。

文字切換を押すたびに、文字タイプが次のように順に切り替わります。

「abc」(小文字) → 「ABC」(大文字) → 「123」(数字)

クリア¹⁾

ボタンを押して

- ネットワーク機能の文字を消します。

- 間違った数字／テキストボタンを押したとき、不要な文字を消します。

-/-¹⁾

チャンネル入力モード、1行または2行を選びます。

TV ([21]) を押してから、-/-ボタンを押してテレビのチャンネル入力モードを選びます。

>10¹⁾

10以上のトラック番号を選択します。

インプットモード (85 ページ)

[8] アンプメニュー

本機を操作するためのメニューを表示します(104 ページ)。

[9] (⊕)¹⁾, ↑/↓/↔/↔¹⁾

↑/↓/↔/↔を押してメニュー項目を選び、⊕を押して選択を決定します。

[10] オプション¹⁾

オプションメニューで項目を表示させて選びます。

TV ([21]) を押してから、オプションを押してテレビ機能のオプションを表示します。

[11] ホーム¹⁾

現在リモコンで操作しているオーディオ／映像機器のメニューを表示します。

例えば、アンプ ([4]) を押してから、ホームを押してホームメニューを表示させます(42 ページ)。

入力切り換え用ボタン ([5]) を押してから、ホームを押して、操作したい機器のメニューを表示させます。

[12] ▲◀◀/▶▶¹⁾, ▲◀◀/▶▶¹⁾, ▶▶¹⁾, ■¹⁾

スキップ、早戻し／早送り、再生、一時停止、停止の操作。

プリセット +/-¹⁾

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。

選局 +/-

放送局をスキャンします。

ダイレクト選局²⁾

ダイレクト選局モードに入ります。

番組表¹⁾

TV ([21]) を押してから、番組表を押してプログラムガイドを画面に表示させます。

リピート¹⁾

一つのトラックやフォルダーをくり返し再生します。

地デジ¹⁾

地上デジタル放送に切り替えます。

シャッフル¹⁾

一つのトラックやフォルダーをランダムに再生します。

BS¹⁾

BS デジタル放送に切り替えます。

トップメニュー¹⁾

BD-ROM または DVD のトップメニューを開いたり閉じたりします。

CS¹⁾

110° CS デジタル放送に切り替えます(CS を押して CS1/CS2 に切り替えます)。

ポップアップ／メニュー¹⁾

BD-ROM のポップアップメニューまたは DVD のメニューを開いたり閉じたりします。

⑬ TV チャンネル +/-¹⁾²⁾

TV (21) を押してから、TV チャンネル +/- を押してあらかじめ設定したテレビチャンネルを選局します。

サウンドフィールド +/-²⁾

サウンドフィールドを選びます (52 ページ)。

⑭ アルファベットサーチ

キーワードを使って項目を検索します (74 ページ)。

アルファベット前

前の項目を検索します。

アルファベット次

次の項目を検索します。

PREVIEW (HDMI)

HDMI 入力端子に接続した機器の映像を PIP (小窓) 画面にプレビュー表示します。一度に最大 4 つまでのプレビュー画面が表示できます。

PIP (小窓) 画面に表示している HDMI 入力をリモコンで選択することで入力切換ができます。↑/↓ をくり返し押して PIP (小窓) 画面を選び、④) を押して選択を決定します。(この機能は、Silicon Image 社の InstaPreview™ の技術を使用しています。)

ご注意

「Preview for HDMI」機能は、HDMI BD、DVD、GAME および VIDEO 2 入力に使えます。

ちょっと一言

- Preview for HDMI 機能は以下の場合、働きません。
 - HDMI 機器が接続されていない。
 - ある特定の HDMI 機器が、電源が入っていない状態で接続されている。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(VGA、480i、576i、4K、一部の 3D 信号、ビデオカメラからの信号など)
 - HDMI 入力以外の入力が選択されている。
 - 「Fast View」が「Off」に設定されている。

• HDMI のプレビュー機能の PIP (小窓) 画面は下記の場合、黒画になります。

- サポートしていない HDMI 信号が入力された。(4K、一部の 3D 信号)

⑮ iPhone コントロール

iPod/iPhone 使用時に、iPod/iPhone 操作モードに入ります。

メモリー

選局操作中に放送局を保存します。

⑯ 消音¹⁾

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

TV (21) を押してから、消音を押してテレビの消音機能を有効にします。

⑰ 音量 +/-¹⁾

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

TV (21) を押してから、音量 +/- を押してテレビの音量レベルを調節します。

⑱ 戻る²⁾¹⁾

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

TV (21) を押してから、戻る²⁾¹⁾ を押して、ソニー製テレビの前のメニューに戻ります。

⑲ 画面表示¹⁾

表示窓に情報を表示します。

TV (21) を押してから、画面表示を押して、テレビの情報を表示させます。

⑳ ゾーン (90 ページ)

㉑ TV

リモコンのボタン機能を切り換えて、黄色表記のボタンを有効にします。

㉒ リモコン設定

リモコンを設定します (110 ページ)。

㉓ PURE DIRECT (57 ページ)

- 1) それぞれの機器を操作するときに使うボタンについて詳しくは、17、18ページの表を確認してください。
- 2) VIDEO 2、5、▶/ ダイレクト選局および TV チャンネル + / サウンドフィールド + ボタンには凸点（突起）があります。本機を操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

他のソニー製機器を操作するには

ボタン名	テレビ デッキ	ビデオ レコーダー/ プレーヤー、 DVD / ビデオ デッキコンボ	DVD レコーダー/ プレーヤー、 DVD / ビデオ デッキコンボ	ブルーレイ ディスク レコーダー/ プレーヤー	ハード ディスク レコーダー	PSX
② AV 電源	●	●	●	●	●	●
③ 入力切換	●					
⑦ 数字ボタン	●	●	●	●	●	●
ENT (決定)	●	●	●	●	●	●
クリア			●	●		●
-/-	●				●	
>10		●				
⑨ ↑/↓/↔/↔/、⊕	●	●	●	●	●	●
⑩ オプション	●		●	●	●	●
⑪ ホーム	●	●	●	●	●	●
⑫◀◀/▶▶	●	●	●	●	●	●
プリセット +/−						
◀◀/▶▶	●	●	●	●	●	●
▶▶、II、■	●	●	●	●	●	●
番組表	●		● ^{a)}	●	●	●
リピート						
地デジ	●					
シャッフル						
BS、CS	●					
トップメニュー、 ポップアップ/ メニュー			●	●		●
⑯ TV チャンネル +/−	●					
⑯ 消音	●					
⑯ 音量 +/−	●					
⑯ 戻る ↺	●		●	●	●	●
⑯ 画面表示	●	●	●	●	●	●

a)DVD レコーダー／プレーヤーのみ

ボタン名	ビデオ CD プレーヤー、デジタル LD プレーヤー	BS チューナー、 デジタル CS チューナー	テープ デッキ A/B	DAT デッキ	CD プレーヤー、 MD デッキ
② AV 電源	●	●		●	●
③ 入力切換					
⑦ 数字ボタン	●	●	●	●	●
ENT (決定)	● ^{b)}	●	●	●	●
クリア					
-/-		●			
>10	●		●		●
⑨ ↑/↓/↔/↔、+/-		●			
⑩ オプション					
⑪ ホーム		●			
⑫ ▲◀◀/▶▶	●		● ^{d)}	●	●
プリセット +/-		●			
◀◀/▶▶	●		●	●	●
▶、II、■	●		●	●	●
番組表		●			
リピート	● ^{c)}		● ^{d)}	●	●
地デジ					
シャッフル	●				●
BS、CS					
トップメニュー、 ポップアップ／メニュー					
⑬ TV チャンネル +/-					
⑯ 消音					
⑰ 音量 +/-					
⑯ 戻る ↺	●	●			
⑯ 画面表示	●	●	● ^{d)}	●	●

b) LD プレーヤーのみ

c) ビデオ CD プレーヤーのみ

d) デッキ B のみ

はじめに

以下の手順にしたがって簡単に本機につないだオーディオ／映像機器を再生できます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。

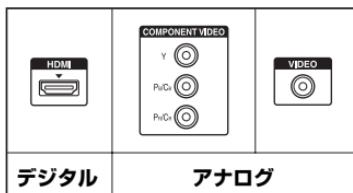
スピーカーを設置／接続する（22、24ページ）



テレビおよび他の機器を接続する（26、27ページ）

画質は接続する端子によって異なります。下の図を確認してください。お使いの機器の端子に応じて接続方法を選んでください。

お使いの機器に HDMI 端子がある場合は、HDMI 端子経由で接続することをおすすめします。



高画質



本機の準備をする

「電源コードを接続する」（35ページ）および「本機の電源を入れる」（35ページ）をご覧ください。



本機を設置する

「Easy Setup（かんたん設定）を使って本機を設定する」（35ページ）をご覧ください。



接続機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、接続機器のデジタル音声の出力設定を確認してください。

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI 音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2013年5月1日現在）

PlayStation®3 の場合は、HDMI ケーブルで本機とつないでから、「サウンド設定」の「音声出力設定」を選び、「HDMI」および「自動」を選んでください（システムソフトウェア 4.21 の場合）。詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書を参照してください。

映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。

映像信号とコンポーネント映像信号を HDMI 映像信号として出力できます。初期設定では、つないだ機器からの映像信号は、下記の表で実線の矢印が示すように出力されます。

INPUT 端子	OUTPUT 端子
HDMI IN	HDMI OUT
COMPONENT VIDEO IN	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT
VIDEO IN	MONITOR OUT

→ : 入力信号と同じタイプの信号を出力します。

→ : 映像信号はアップコンバートして出力されます（最大 4K）。

映像信号の変換について

- ビデオデッキなどの映像信号は、本機でアップコンバートされてからテレビに表示されますが、出力される映像信号の状態によっては、テレビ画面の映像が水平方向に歪んで見えたり映像が表示されないことがあります。
- ビデオデッキで画質向上回路を使用している場合は、映像信号変換に影響を与えることがあります。ビデオデッキでこの機能をオフにすることをおすすめします。
- HDMI 変換画像出力は、“x.v.Color”、Deep Color および 3D には対応していません。
- HDMI 映像信号をコンポーネント映像信号や映像信号に変換することはできません。
- 1080p コンポーネント映像信号はアップコンバートできません。
- 「4K Scaling」設定を「Auto」に設定している場合、HDMI 入力信号が 1080p@23.98/24Hz であり、4K 対応テレビにつないでいる場合に、HDMI 入力信号は自動的に 4K 映像にアップスケールして HDMI 出力します。

本機が再生できるデジタル音声フォーマット

本機がデコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。本機は以下の音声フォーマットに対応しています。

音声フォーマット [表示]	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/ OPTICAL	HDMI
Dolby Digital [DOLBY D]	5.1	○	○ ^{c)}
Dolby Digital EX [DOLBY D EX]	6.1	○	○ ^{c)}
Dolby Digital Plus ^{a)} [DOLBY D +]	7.1	×	○ ^{c)}
Dolby TrueHD ^{a)} [DOLBY HD]	7.1	×	○
DTS [DTS]	5.1	○	○ ^{c)}
DTS-ES [DTS-ES]	6.1	○	○ ^{c)}
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	○	○ ^{c)}
DTS-HD High Resolution Audio ^{a)} [DTS-HD HR]	7.1	×	○ ^{c)}
DTS-HD Master Audio ^{a)b)} [DTS-HD MA]	7.1	×	○
DSD ^{a)} [DSD]	5.1	×	○
MPEG-2 AAC (LC) [AAC]	5.1	○	○
マルチチャンネルリニア PCM ^{a)} [PCM]	7.1	×	○ ^{c)}

^{a)}再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

^{b)}サンプリング周波数が 96 kHz より大きい信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

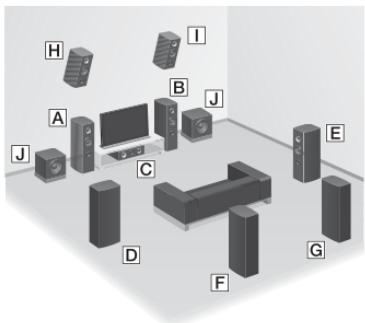
^{c)}MHL 接続でも対応しているフォーマットです。

接続

1：スピーカーを設置する

本機では、最大 7.2 チャンネルのスピーカーシステム（スピーカー 7 本とアクティブサブウーファー 2 本）を構成できます。

スピーカーシステムの設置例



A フロントスピーカー（左）

B フロントスピーカー（右）

C センタースピーカー

D サラウンドスピーカー（左）

E サラウンドスピーカー（右）

F サラウンドバックスピーカー（左）*

G サラウンドバックスピーカー（右）*

H フロントハイスピーカー（左）*

I フロントハイスピーカー（右）*

J アクティブサブウーファー

* サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを同時に使用することはできません。

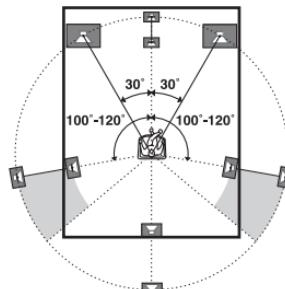
5.1 チャンネルスピーカーシステム

映画館のようなマルチチャンネルのサラウンド音声を充分に楽しむには、5 本のスピーカー（フロントスピーカー 2 本、センタースピーカー 1 本、サラウンドスピーカー 2 本）および 1 本のアクティブサブウーファーが必要です。

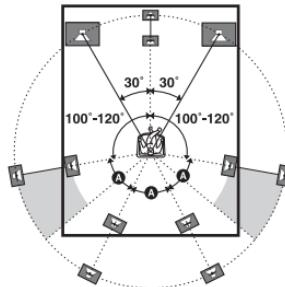
7.1 チャンネルスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカー接続）

DVD やブルーレイディスクソフトウェアに記録された 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルフォーマットの音声を忠実に再現することができます。

- 6.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに配置します。



- 7.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを下の図のように配置します。A の角度が等しくなるように配置します。

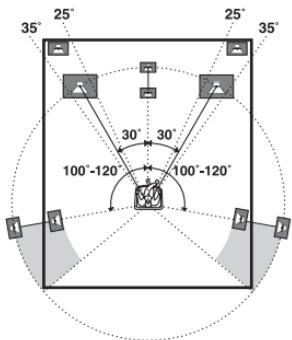


7.1 チャンネルスピーカーシステム（フロントハイスピーカー接続）

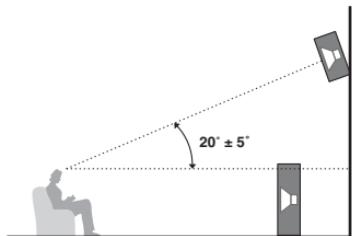
フロントハイスピーカーをさらに2本接続することで、垂直方向のサウンド効果を楽しむことができます。

以下の位置にフロントハイスピーカーを配置します。

– 横間隔： $25^\circ \sim 35^\circ$



– 高さ： $20^\circ \pm 5^\circ$

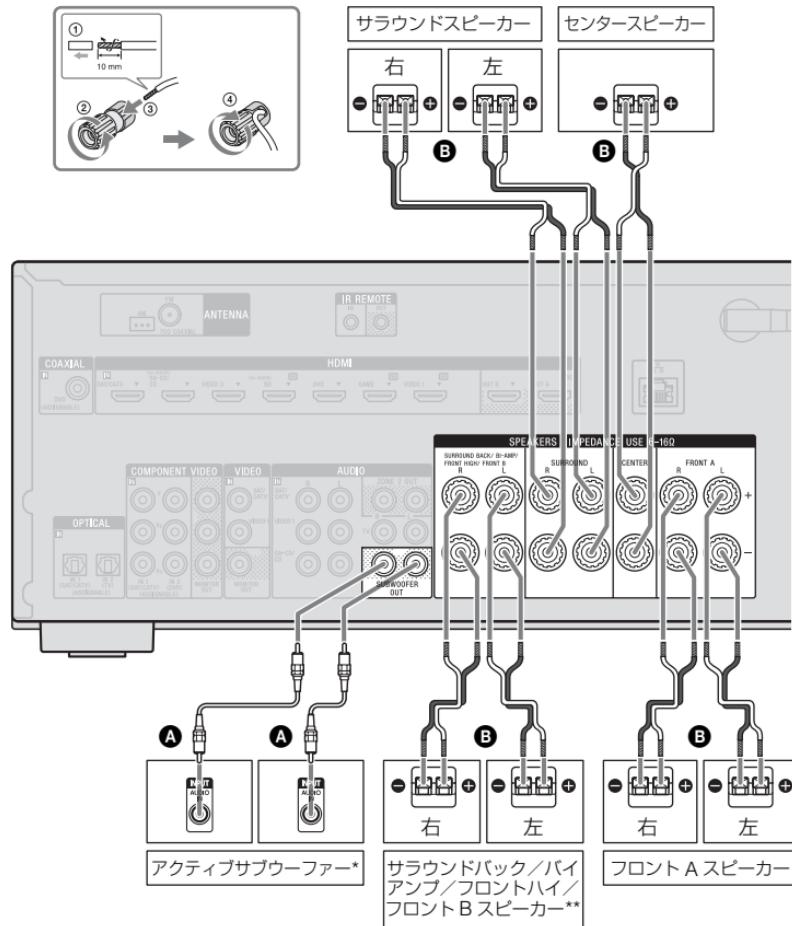


ちょっと一言

アクティブサブウーファーが発する信号には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

2：スピーカーを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



- Ⓐ モノラル音声コード（別売）
- Ⓑ スピーカーコード（別売）

* オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

** SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子接続についてご注意。

- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用するときは、この端子のL側につないでください。

- フロントスピーカーシステムを追加するときは、この端子につないでください。

Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」を使って、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを「フロントBスピーカー」に設定します（96ページ）。本機のSPEAKERSボタンで、ご希望のフロントスピーカーシステムを選べます（37ページ）。

- バイアンプ接続での端子にフロントスピーカーをつなぐことができます（25ページ）。

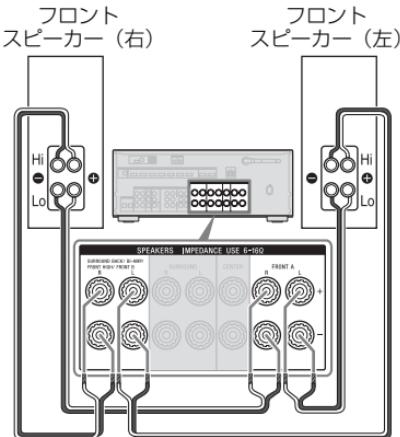
Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」を使って、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを「バイアンプスピーカー」に設定します（96ページ）。

ご注意

スピーカーの設置および接続後は、必ず Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」を使ってスピーカーパターンを選んでください（96ページ）。

バイアンプ接続

サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につなぐことができます。



フロントスピーカーのLo（もしくはHi）側の端子をSPEAKERS FRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi（もしくはLo）側の端子をSPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぎます。

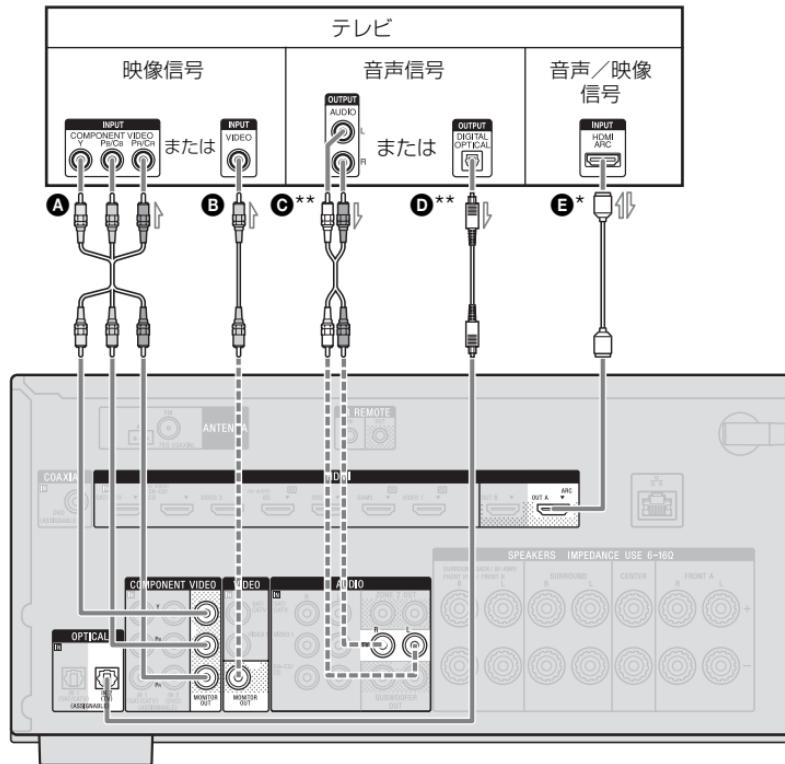
本機の故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ずはずしてください。

バイアンプ接続を確立したら、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」を使ってSPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを「バイアンプスピーカー」に設定します（96ページ）。

3：テレビを接続する

HDMI OUT 端子や MONITOR OUT 端子をテレビにつなぐと、選んだ入力の映像を見るすることができます。GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）を使って本機を操作できます。GUIはHDMI OUT AとHDMI OUT Bについている場合のみ使えます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



- Ⓐ コンポーネント映像コード（別売）
- Ⓑ 映像コード（別売）
- Ⓒ 音声コード（別売）
- Ⓓ 光デジタルコード（別売）

- Ⓔ HDMI ケーブル（別売）
HDMI 認証を受けた HDMI ケーブルをご使用ください。
ケーブルタイプロゴの明記されたソニー製の High Speed HDMI ケーブルをご使用ください。

— 推奨接続
- - - 代替接続

本機からマルチチャンネルサラウンド音声でテレビ放送を楽しむには

- * お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応している場合は、❶ をつないでください。
必ず HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」を「On」に設定してください（80 ページ）。HDMI ケーブル以外のケーブル（光デジタルコードまたは音声コードなど）を使用して音声信号を選択する場合は、INPUT MODE で音声入力モードを切り換えてください（85 ページ）。
- ** お使いのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、❷ または ❸ をつないでください。

必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。

ご注意

- テレビモニターまたはプロジェクターを本機の HDMI OUT または MONITOR OUT 端子につないでください。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナを本機からさらに離れたところに設置してください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- 本機は映像変換機能を搭載しています。詳しくは、「映像信号の変換機能について」（20 ページ）をご覧ください。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につないで、テレビの音声を本機につないだスピーカーから出力するときは、テレビの音声出力端子が「Fixed」または「Variable」で切り替え可能な場合は、テレビの音声出力端子を「Fixed」に設定してください。

テレビからの音声を聞くには

お使いのテレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settings メニューで「Audio Out」を「TV+AMP」に設定してください（101 ページ）。

4：他の機器をつなぐ

HDMI 接続を使用する

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブリビアリンク”対応機器を HDMI ケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。「“ブリビアリンク”機能」（79 ページ）をご覧ください。HDMI 端子につないだ機器の設定を変えることもできます。詳しくは、「HDMI 設定 (HDMI Settings)」（100 ページ）をご覧ください。

HDMI の特長

- HDMI で転送されたデジタル音声信号を本機につないだスピーカーから出力できます。この信号はドルビーデジタル、DTS、DSD、リニア PCM と AAC に対応しています。詳しくは、「本機が再生できるデジタル音声フォーマット」（21 ページ）をご覧ください。
- 本機は、HDMI 接続により、マルチチャンネルリニア PCM（最大 8 チャンネル）を 192 kHz 以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- 本機の VIDEO 端子または COMPONENT VIDEO 端子に入力されるアナログ映像信号は、HDMI 信号として出力されます（20 ページ）。映像変換中は、HDMI OUT 端子から音声信号は出力されません。

- 本機は High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、 Dolby TrueHD)、 Deep Color、“x.v.Color”、および 4K または 3D 伝送に対応しています。
- 3D 映像を楽しむには、3D に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、PlayStation®3 など）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、3D メガネを装着したうえで、3D 対応のコンテンツを再生してください。
- 4K (HDMI BD、GAME および VIDEO 1 入力) 映像を楽しむには、4K に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーなど）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、4K 対応のコンテンツを再生してください（100 ページ）。
- HDMI BD、DVD、GAME および VIDEO 2 の入力をプレビュー PIP (小窓) 画面で見ることが可能です。

HDMI 接続についてのご注意

- テレビまたは映像機器によっては、4K または 3D の映像が表示されないことがあります。本機が対応している HDMI 映像フォーマットを確認してください（133 ページ）。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

コード類を接続するときは

- 必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。
- すべてのコードをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。スタンダード HDMI ケーブルの場合、1080p、Deep Color、4K または 3D の映像が正しく表示できない場合があります。

- HDMI-DVI 変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI 変換ケーブルを DVI-D 機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声コードやデジタル接続コードをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う (Input Assign)」（86 ページ）をご覧ください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

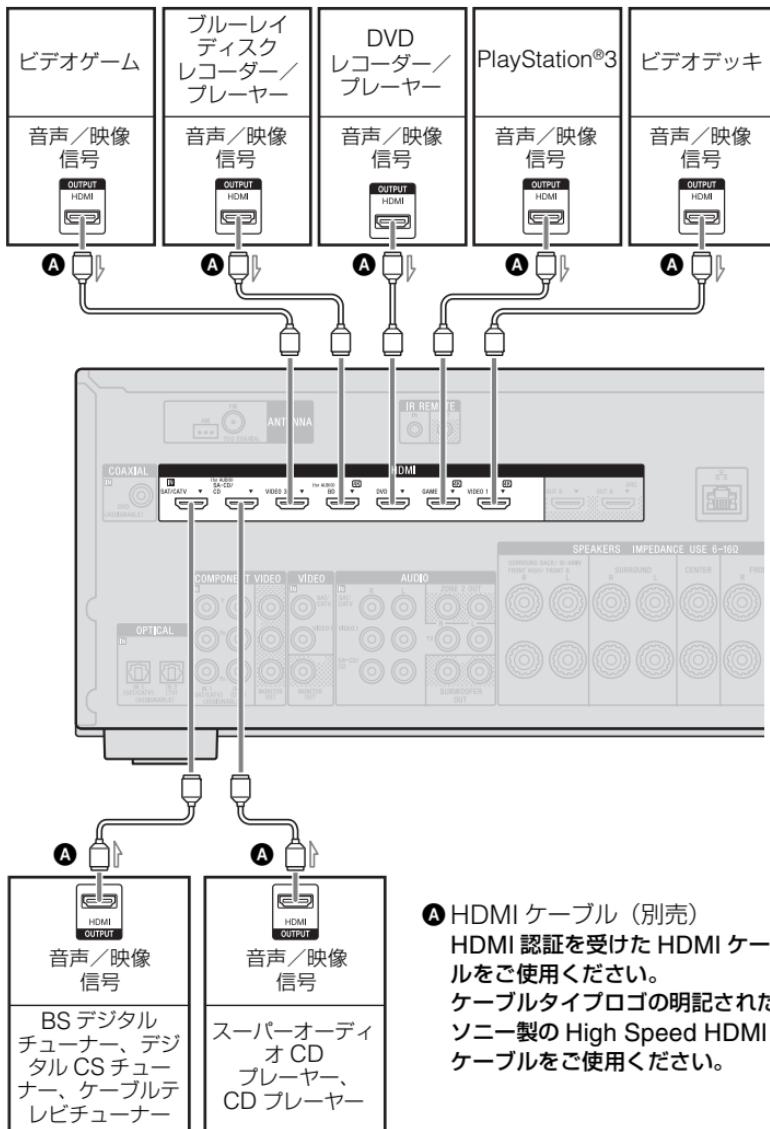
「他の映像／音声入力端子を使う (Input Assign)」（86 ページ）をご覧ください。

映像信号を変換するには

本機には映像信号の変換機能があります。詳しくは、「映像信号の変換機能について」（20 ページ）をご覧ください。

HDMI 端子で機器をつなぐ

お使いの機器に HDMI 端子がない場合は、31 ページを参照してください。



A HDMI ケーブル（別売）
HDMI 認証を受けた HDMI ケーブルをご使用ください。
ケーブルタイプロゴの明記された
ソニー製の High Speed HDMI ケーブルをご使用ください。

ご注意

- HDMI 接続を例に説明します。
各 HDMI 機器を HDMI 入力のどれかにつなぎます（本体前面の HDMI 入力も含む）。
- SA-CD/CD および BD 入力でより良い音質を得られます。より高品質な音声を楽しむには、お使いの機器をこれらの HDMI 端子につなぎ、SA-CD/CD または BD を入力に選びます。
- 必ずリモコンの入力切り換用ボタンの初期設定を変更し、つないだ機器をボタンで操作できるようにしてください。詳しくは、「リモコンを設定する」（110 ページ）をご覧ください。
- 本機の表示窓に表示できるように、入力名を変えることができます。詳しくは、Input Settings メニューの「Name」をご覧ください（102 ページ）。

MHL 接続を使用する

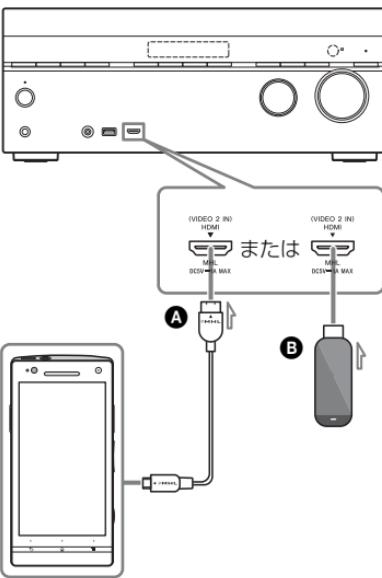
MHL とは？

MHL（Mobile High-Definition Link）とは、スマートフォンなどの MHL 対応機器をハイビジョンテレビや AV アンプなどのホームエンターテインメント製品につなぐために開発された映像および音声のインターフェース規格です。

本機の MHL 入力は最大フル HD (1080p) までの映像と最大 192kHz 24bit 7.1ch までの高品質音声に対応し、信号の伝送と同時に接続機器に電源を供給することができます。また、テレビや AV アンプなどのリモコンから接続機器を操作することもできます（84 ページ）。

MHL (Mobile High-Definition Link) 対応機器をつないで音声／映像コンテンツを楽しむ

本機は、MHL 2 に対応しています。



A MHL ケーブル（別売）

MHL 2 対応ケーブルを使用してください。

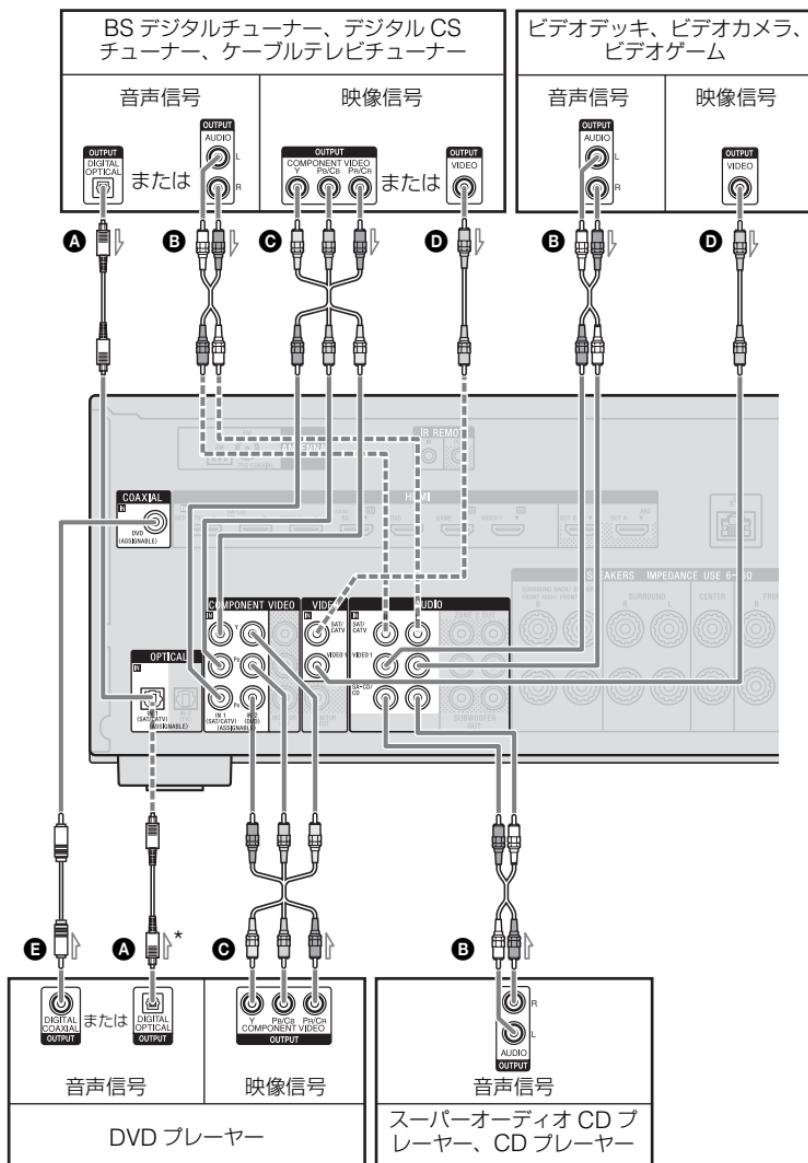
ソニー製 MHL ケーブルの利用をおすすめします。

B スティック型 MHL 対応端末（別売）

ご注意

- MHL 対応機器は、本体の電源が入っているときに本体の HDMI/MHL (VIDEO 2 IN) 端子につながれていると、充電されます。
- 本機の表示窓に表示できるように、VIDEO 2 入力名を変えることができます。詳しくは、Input Settings メニューの「Name」をご覧ください（102 ページ）。

HDMI 端子以外の端子で機器をつなぐ



- Ⓐ 光デジタルコード（別売）
- Ⓑ 音声コード（別売）
- Ⓒ コンポーネント映像コード（別売）
- Ⓓ 映像コード（別売）
- Ⓔ 同軸デジタルコード（別売）

— 推奨接続

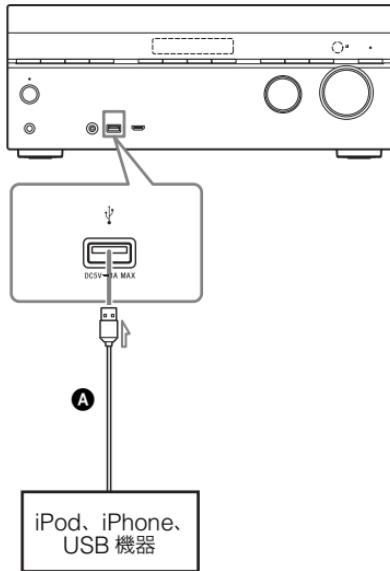
- - - - 代替接続

- * OPTICAL 端子で機器をつなぐときは、入力端子の再割り当てをします。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う（Input Assign）」（86 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 必ずリモコンの DVD 入力切り替え用ボタンの初期設定を変更し、お使いの DVD プレーヤーをボタンで操作できるようにしてください。詳しくは、「リモコンを設定する」（110 ページ）をご覧ください。
- 本機の表示窓に表示できるように、DVD 入力名を変えることができます。詳しくは、Input Settings メニューの「Name」をご覧ください（102 ページ）。

iPod、iPhone、USB 機器をつなぐ



Ⓐ USB ケーブル（別売）

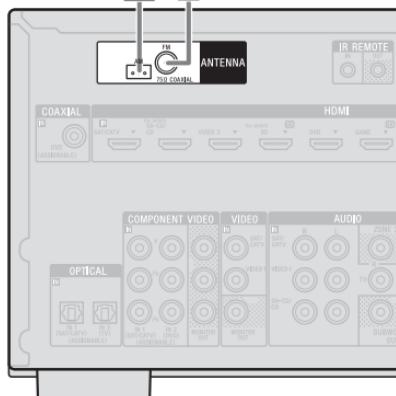
5：アンテナを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナをつないでください。

AM ループアンテナ
(付属)



FM アンテナ線
(付属)



ご注意

- ノイズが入らないよう、AM ループアンテナは本機および他の機器から離して設置してください。
- FM アンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FM アンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

6：ネットワークに接続する

インターネット接続環境がある場合は、本機もインターネットに接続することができます。無線または有線 LAN で接続できます。

必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

Sony Entertainment Network (SEN) を楽しんだり、本機のソフトウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ホームネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbps 以上の通信速度に対応したルーターを使ってください。
- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー内蔵のルーターの使用をおすすめします。
この機能は、LAN 上の IP アドレスを自動的に割り当てます。
- 無線 LAN 接続をする場合は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使ってください。

LAN ケーブル (CAT5) (有線 LAN 接続のみ)

- 有線 LAN には、カテゴリー 5 準拠のケーブルをおすすめします。フラットタイプの LAN ケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプの LAN ケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプの LAN ケーブルをお使いください。

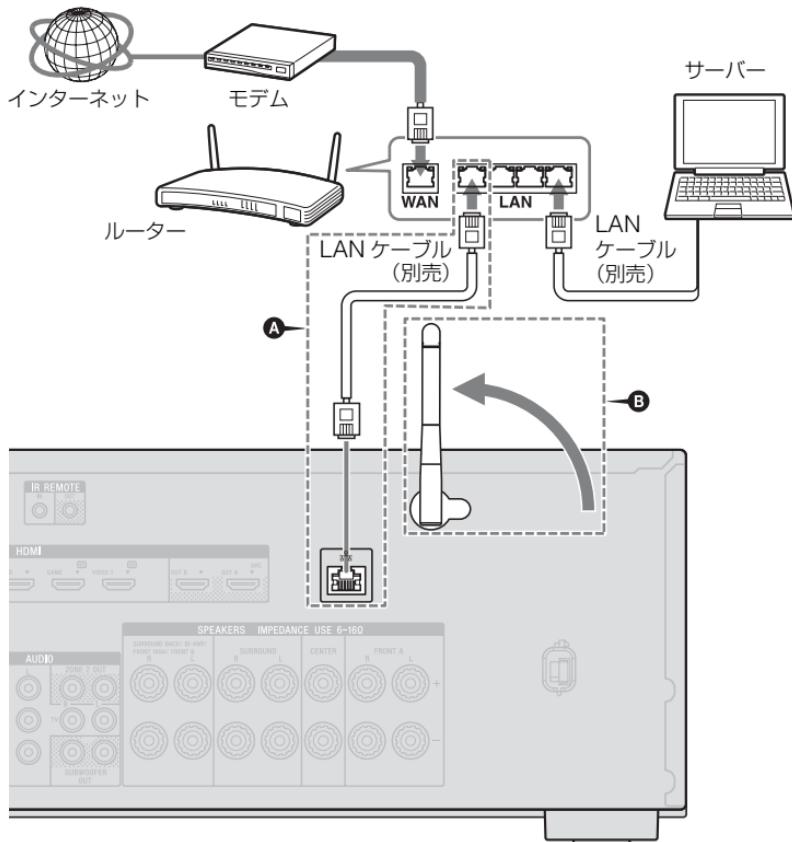
サーバー

サーバーとは、ホームネットワーク上の DLNA 機器へコンテンツ（音楽、写真、映像）を送信する機器です。サーバーとして使用する機器（パソコンなど）は、ホームネットワーク上の無線 LAN または有線 LAN につながっている必要があります*。

* 本機に対応しているサーバーについて詳しくは、58 ページをご覧ください。

構成例

下の図は、レシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- Ⓐ 有線 LAN 接続の場合のみ。
- Ⓑ 無線 LAN 接続の場合のみ。
必ず無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使ってください。

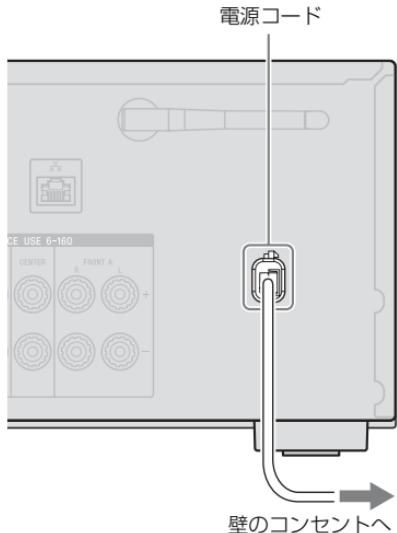
ご注意

無線接続の場合は、サーバー上の音声再生
が時折途切れることができます。

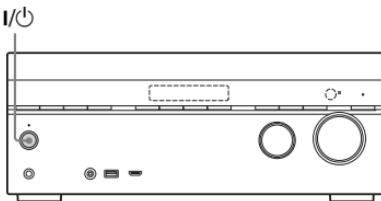
本機の準備をする

電源コードを接続する

電源コードを壁のコンセントにつなぎます。



本機の電源を入れる



I/待 を押して本機の電源を入れる。

リモコンの I/待 ボタンで本機の電源を入れることもできます。本機の電源を切るときは、もう一度 I/待 を押します。表示窓上の「STANDBY」が点滅します。「STANDBY」が点滅しているときは、電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

Easy Setup (かんたん設定) を使って本機を設定する

テレビ画面の指示にしたがって本機を操作することで、簡単に本機の基本設定ができます。

テレビの入力を本機がつながれている入力に切り替えます。

初めて本機の電源を入れると、または本機を初期化したあとにお使いになるときは、テレビ画面に Easy Setup (かんたん設定) 画面が表示されます。Easy Setup (かんたん設定) 画面の指示にしたがって本機を設定します。Easy Setup (かんたん設定) では以下の機能を設定できます。

- Speaker Settings
- Network Settings

Speaker Settings についてご注意（自動音場補正）

本機には、DCAC（デジタルシネマ自動音場補正）機能が搭載されているため、以下のような自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーと本機の接続の確認
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定¹⁾
- スピーカーサイズの測定¹⁾
- 周波数特性の測定（EQ）¹⁾
- 周波数特性の測定（フェーズ）¹⁾²⁾

1)「2ch Analog Direct」が選ばれているときは、測定結果は使用できません。

2)48 kHzより大きいサンプリング周波数の Dolby TrueHD または DTS-HD 信号が受信されているときは、測定結果は使用できません。

DCAC は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。スピーカーのレベルはお好みに合わせて手動で調節できます。詳しくは、「Test Tone」（98 ページ）をご覧ください。

自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。

- スピーカーを設定して接続する（22、24 ページ）。
- AUTO CAL MIC 端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- Speaker Settings メニューの「Speaker Connection」を使って、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを「バイアンプスピーカー」に設定する（96 ページ）。

- スピーカーフロント B 接続を使用している場合は、Speaker Settings メニューの「Speaker Connection」を使って、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを「フロント B スピーカー」に設定する（96 ページ）。
- スピーカー出力が「SPK OFF」に設定されていないことを確認する（37 ページ）。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間に障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

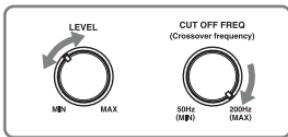
ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、事前に電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、LEVEL を中間よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、最大に設定してください。

- オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、オートスタンバイ機能をオフ（無効）してください。



ご注意

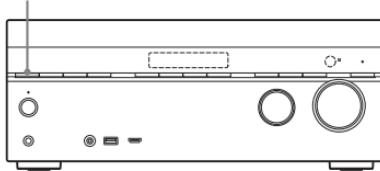
お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

フロントスピーカーを選ぶには

使用するフロントスピーカーを選びます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

SPEAKERS



SPEAKERS をくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

選んだスピーカー端子を表示窓の表示で確認できます。

表示 選んだスピーカー

SP A+B* SPEAKERS FRONT A と SPEAKERS SURROUND BACK/BIA-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の両方につないだスピーカー（パラレル接続）

表示窓に「SPK OFF」が表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号が出力されません。

*「SP B」または「SP A+B」を選ぶには、Speaker Settings メニューの「Speaker Connection」を使って、SPEAKERS SURROUND BACK/BIA-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを「フロント B スピーカー」に設定します（96 ページ）。

ご注意

ヘッドホンがつながっていると、この設定はできません。

自動音場補正を中止するには

測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。

- 電源を押す。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押す、または本機の INPUT SELECTOR つまみを回す。
- 消音を押す。
- 本機の SPEAKERS を押す。
- 音量を調節する。
- ヘッドホンをつなぐ。

本機を手動で設定するには

「設定を調節する」（91 ページ）をご覧ください。

表示 選んだスピーカー

SP A SPEAKERS FRONT A 端子につないだスピーカー

SP B* SPEAKERS SURROUND BACK/BIA-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につないだスピーカー

本機のネットワーク設定を行う

ホームネットワーク、SEN および AirPlay 設定を使うには、本機のネットワーク設定を正しく行う必要があります。

無線 LAN 接続を使う

無線ネットワークの設定には、いくつかの接続方法があります。アクセスポイントを検索して接続、WPS 接続（プッシュボタン式または PIN コード式）、または手動設定で接続します。

ご注意

- ペースメーカーなどの医療機器が使用されている場所や、無線通信が禁止されている場所では、無線 LAN 機能を絶対に使用しないでください。
- ホームネットワークに接続する前に、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの準備が必要です。詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
- ホームネットワークの環境によっては、無線 LAN ルーター、アクセスポイントが、WPS 対応であっても WPS を使って接続できないように設定されていることがあります。無線 LAN ルーター、アクセスポイントが WPS に対応しているか否かについて、および WPS 接続の設定について詳しくは、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- 本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを離れた場所に設置すると、設定が難しい場合があります。うまく設定できない場合は、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて設置してください。

アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する（アクセスポイントスキャン方式）

アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定できます。この接続方法でネットワークを設定するには、次の情報を選択して入力する必要があります。

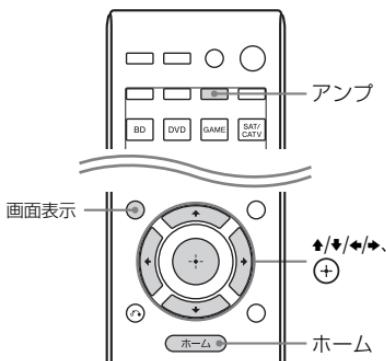
ます。次の情報をあらかじめ確認し、下の余白に書きとめてください。

- ネットワークを特定するネットワーク名（SSID*）**（手順 7 で必要です。）

- 無線ホームネットワークが暗号化によって保護されている場合は、ネットワークのセキュリティーキー（WEP キー、WPA/WPA2 キー）**（手順 8 で必要です。）

* SSID (Service Set Identifier) は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

** この情報は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から得てください。



- 1 アンプを押してから、ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 $\leftrightarrow/\downarrow/\uparrow/\leftrightarrow$ をくり返し押して「Settings」を選び、 \oplus を押す。
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 3 $\leftrightarrow/\downarrow/\uparrow/\leftrightarrow$ をくり返し押して「Network」を選び、 \oplus を押す。
- 4 $\leftrightarrow/\downarrow$ をくり返し押して、「Internet Setting」を選び、 \oplus を押す。

- 5** \uparrow/\downarrow をくり返し押して「Wireless」を選び、 \oplus を押す。
- 6** \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Access Point Scan」を選び、 \oplus を押す。本機がアクセスポイントの検索を始めて、最大 30 の利用可能なネットワーク名 (SSID) のリストを表示します。
- 7** \uparrow/\downarrow をくり返し押して、ネットワーク名 (SSID) を選び、 \oplus を押す。テレビ画面にセキュリティ設定画面が表示されます。
- 8** オンスクリーンキーボードを使って、セキュリティキー (WEP キー、WPA/WPA2 キー) を入力する。 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus を押して、一文字ずつ選ぶ。「Enter」を選んで \oplus を押して、セキュリティキーを確認する。テレビ画面に「IP アドレス取得方法」が表示されます。
- 9** \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Auto」を選び、 \oplus を押す。

固定 IP アドレスを使用するときは 「Manual」を選んで、 \oplus を押します。テレビ画面に IP アドレス入力画面が表示されます。オンスクリーンキーボードを使って「IP Address」の設定値を入力します。 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus を押して、一文字ずつ選びます。「Enter」を選んで \oplus を押して、設定値を確認します。「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「Primary DNS」と「Secondary DNS」の値を入力します。次に、「次へ」を選んで、 \oplus を押します。

- 10** \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Ok」を選び、 \oplus を押す。テレビ画面に「ネットワークに接続中です。しばらくお待ちください。」が表示されます。ネットワーク設定が完了すると「ネットワーク設定が完了し、ネットワーク接続に成功しました。」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、 \oplus を押します。(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)
 - 11** サーバー設定を行う。サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (58 ページ)。
- ご注意**
お使いのネットワークが暗号化によって(セキュリティキーで)保護されていない場合は、手順 8 でセキュリティ設定画面は表示されません。
- ちょっと一言**
ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(102 ページ)をご覧ください。
- ネットワーク名 (SSID) が見つからないときは (手動設定)**
リスト上に設定したいネットワーク名が表示されないときは、ネットワーク名 (SSID) を手動で入力できます。
- 1** 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する (アクセスポイントスキャン方式)」(38 ページ) の手順 6 で「Manual Registration」を選択する。
 - 2** \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Direct Input」を選び、 \oplus を押す。

3 オンスクリーンキーボードを使ってネットワーク名（SSID）を入力する。↑/↓/↔/↔と⑦を押して、文字を一つずつ選ぶ。次に、「Enter」を選んで、⑦を押す。

入力した名前が登録されます。

4 ↑/↓をくり返し押して、セキュリティ設定選び、⑦を押す。

5 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する（アクセスポイントスキャン方式）」（38ページ）の手順 8 から 11 にしたがって操作する。

WPS 対応のアクセスポイントを使って無線ネットワークを設定する

WPS 対応のアクセスポイントを使って、無線ネットワークを簡単に設定できます。WPS 設定は、プッシュボタン式、PIN (Personal Identification Number) コード式のどちらを使っても設定できます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup) とは？

WPS とは Wi-Fi Alliance によって策定された規格で、WPS によって無線ネットワークを簡単且つ安全に設定できます。

プッシュボタン式の WPS を使って無線ネットワークを設定する

指定のボタンをワンプッシュするだけで、WPS 無線接続を簡単に設定できます。

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する（アクセスポイントスキャン方式）」（38ページ）の手順 6 で「WPS Push」を選択する。

2 画面の指示にしたがって、アクセスポイントの WPS ボタンを押す。

メッセージ：「アクセスポイントの WPS ボタンを 2 分以内に押してください。」



ネットワーク設定が完了すると、「ネットワーク設定が完了し、ネットワーク接続に成功しました。」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、⑦を押します。（ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。）

3 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります（58 ページ）。

ちょっと一言

ネットワーク設定を確認するときは、「Information」（102 ページ）をご覧ください。

PIN コード式の WPS を使って無線ネットワークを設定する

アクセスポイントが WPS PIN (Personal Identification Number) コード接続に対応している場合は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントに本機の PIN コードを入力して、WPS 無線接続を設定できます。

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する（アクセスポイントスキャン方式）」（38 ページ）の手順 6 で「Manual Registration」を選択する。

2 ↑/↓をくり返し押して、「WPS PIN」を選び、⑦を押す。
利用可能な SSID（アクセスポイント）リストが表示されます。

ご注意

WPS PIN に非対応の SSID が暗く表示され、選択できません。

3 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、ネットワーク名 (SSID) を選び、 \oplus を押す。

本機の 8 行の PIN コードがテレビ画面に表示されます。接続が完了するまで、PIN コードは表示したままにしてください。(この操作を行うたびに、別の PIN コードが表示されます。)

4 無線 LAN ルーター、アクセスポイントに本機の PIN コードを入力する。

本機がネットワーク設定を始めます。

ネットワーク設定が完了すると「ネットワーク設定が完了し、ネットワーク接続に成功しました。」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、 \ominus を押します。(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

5 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (58 ページ)。

ちょっと一言

- ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(102 ページ) をご覧ください。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントへの PIN コードの入力について詳しくは、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

有線 LAN 接続を使う

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する (アクセスポイントスキャン方式)」(38 ページ) の手順 5 で「Wired」を選択する。

テレビ画面に「IP アドレス取得方法」が表示されます。

2 \uparrow/\downarrow をくり返し押して「Auto」を選び、 \oplus を押す。

固定 IP アドレスを使用するときは「Manual」を選んで、 \oplus を押します。テレビ画面に IP アドレス入力画面が表示されます。

オンスクリーンキーボードを使って「IP Address」の設定値を入力します。 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus を押して、一文字ずつ選びます。

「Enter」を選んで \oplus を押して、設定値を確認します。

「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「Primary DNS」と「Secondary DNS」の値を入力します。次に、「次へ」を選んで、 \oplus を押します。

3 \uparrow/\downarrow をくり返し押して「Ok」を選び、 \oplus を押す。

テレビ画面に「ネットワークに接続中です。しばらくお待ちください。」が表示されます。

ネットワーク設定が完了すると、「ネットワーク設定が完了し、ネットワーク接続に成功しました。」が表示されます。Network Settings メニューに戻るには、 \ominus を押します。(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

4 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (58 ページ)。

ちょっと一言

ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(102 ページ) をご覧ください。

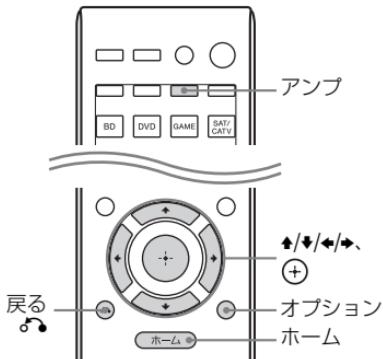
GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）の操作ガイド

テレビ画面に本機のメニューを表示して、リモコンの $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus を押して、テレビ画面上で使いたい機能を選ぶことができます。

本機を操作をするときは、あらかじめリモコンのアンプを押してください。押さないと、本機を操作できないことがあります。

ちょっと一言

ホームを押すと、リモコンのアンプボタンが点灯します。



メニューを使う

1 テレビの入力を本機がつながっている入力に切り換える。

2 アンプを押してから、ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

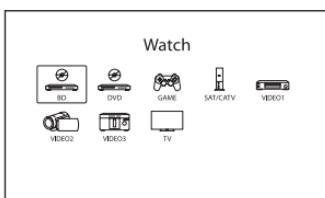
テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



3 \uparrow/\downarrow をくり返し押してお好みのメニューを選び、 \oplus で決定する。

テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

例：「Watch」を選んだ場合



4 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ をくり返し押して調整したいメニュー項目を選び、 \oplus で決定する。

ちょっと一言

画面の右下に「オプション」が表示されているときは、オプションを押して機能リストを表示させて、関連した機能を選べます。

前の画面に戻るには

戻る \leftarrow を押す。

メニューを閉じるには

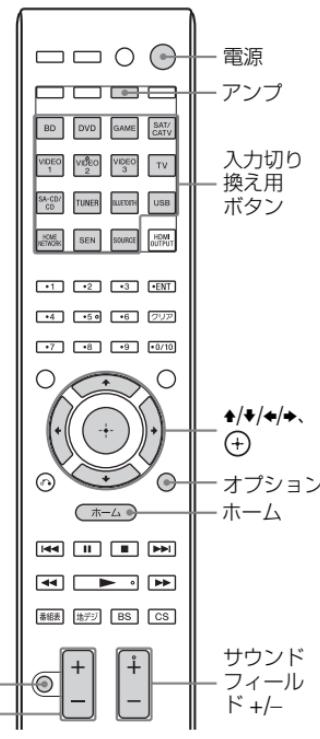
ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

ホームメニュー一覧

メニュー	説明
Watch	本機に入力されている映像ソースを選びます(43ページ)。
Listen	SA-CD/CD、USB機器、Bluetooth機器、ホームネットワークまたはSENから音楽を選びます(43ページ)。内蔵チューナーのFM/AMラジオも楽しめます(50ページ)。
Sound Effects	ソニー独自のさまざまな音響技術や機能を楽しめます(52ページ)。
Settings	本機の設定を調節します(91ページ)。

基本操作

つないだ機器の画像 や音声を楽しむ



脚本編集

1 テレビの入力を本機がつながっている入力に切り換える。

2 アンプを押してから、ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



3 「Watch」または「Listen」を選んで、①を押す。

テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

4 使用する機器を選んで、①を押す。

5 機器の電源を入れて再生を開始する。

6 音量 +/- を押して、音量を調節する。

本体のMASTER VOLUME つまみでも操作できます。

7 サラウンド音声を楽しむ場合は、サウンドフィールド +/- を押す。

本体のA.F.D./2CH、MOVIEまたはMUSICでも操作できます。
詳しくは、52ページをご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のINPUT SELECTOR つまみを回して、またはリモコンの入力切り換え用ボタンを押して、お好みの機器を選べます。
- 本体のMASTER VOLUME つまみまたはリモコンの音量 +/- ボタンを使うと、音声の調整速度や調節量を変えられます。
音量を素早く上げ／下げるには
 - 本体のMASTER VOLUME つまみを素早く回す。
 - リモコンのボタンを長押しする。音量を微調整するには
 - 本体のMASTER VOLUME つまみをゆっくり回す。
 - リモコンのボタンを短く押す。

音を一時的に消すには

消音を押す。

以下の操作を行うと、消音機能が解除されます。

- 消音をもう一度押す。
- 音量を変える。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正を実行する。

スピーカーの破損を防ぐために

本機の電源を切る前に音量を下げておいてください。

iPod/iPhone を再生する

本機の USB ポートにつないで、iPod/iPhone の音楽コンテンツを楽しめます。

iPod/iPhone の接続に関して詳しくは、32 ページをご覧ください。

対応 iPod/iPhone モデル

本機が対応している iPod/iPhone モデルは下記のとおりです。本機につないで使用する前に iPod/iPhone を最新のソフトウェアにアップデートしてください。



iPhone 4S



iPhone 4



iPhone 3GS



iPhone 3G



iPod touch
第四世代



iPod touch
第三世代



iPod touch
第二世代



iPod nano
第六世代



iPod nano
第五世代
(ビデオカメラ)



iPod nano
第四世代
(ビデオ)



iPod nano
第三世代
(ビデオ)



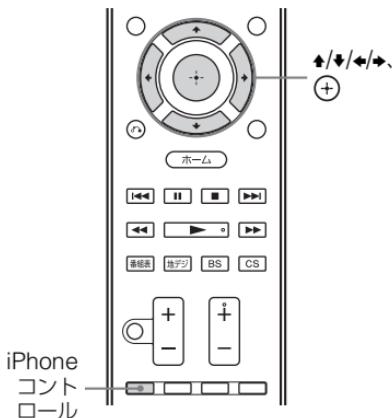
iPod classic

ご注意

- 本機につないだ iPod/iPhone を使用中に、iPod/iPhone に保存されたデータが消失、破損しても、弊社では一切の責任を負いません。
- 本製品は iPod/iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定されています。

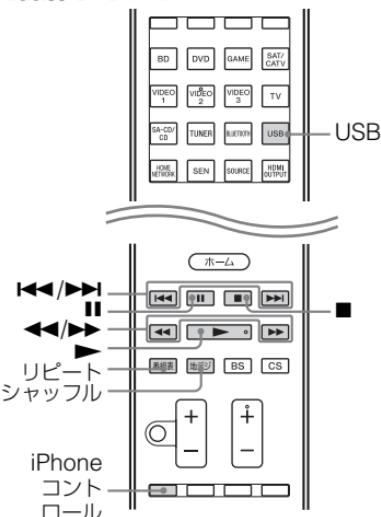
iPod/iPhone 操作モードを選ぶ

リモコンの iPhone コントロールを使って iPod/iPhone 操作モードを選べます。



- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、 \oplus を押す。
- 2 「USB」を選んで、 \oplus を押す。
iPod または iPhone がつながっているときは、テレビ画面に「iPod/iPhone」が表示されます。
- 3 画面の指示にしたがって、iPod/iPhone 操作モードを選ぶ。

リモコンを使って iPod/iPhone を操作するには



USB を押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン	動作
▶	再生開始
■、 ■	一時停止
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
◀◀/▶▶	前／次のトラックへ移動
リピート	リピートモードに入る
シャッフル	シャッフルモードに入る
iPhone コントロール	iPod/iPhone 操作モードを選ぶ

iPod/iPhone についてご注意

- 本機の電源が入っているときに、iPod/iPhone を本機につなぐと充電されます。
- 本機から iPod/iPhone へ楽曲を転送することはできません。

- 操作中に iPod/iPhone を取りはずさないでください。データ破損や iPod/iPhone の破損を防ぐため、iPod/iPhone を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。

iPod/iPhone メッセージ一覧

メッセージと説明

読み込み中...

本機は、iPod または iPhone の情報を認識して読み込んでいます。

サポート対象外です。

本機が対応していない iPod または iPhone がつながっています。

機器が接続されていません。USB 機器を接続してください。

iPod または iPhone がつながっています。

No Track

トラックが見つかりませんでした。

Headphone is not supported

iPod または iPhone がつながっているときは、ヘッドホンから音が出力されません。

ファイルフォーマット 拡張子

WAV	".wav"
FLAC	".flac"

* DRM でエンコードされたファイルは本機で再生できません。

対応 USB 機器

本機が対応しているソニー USB 機器は下記のとおりです。

動作検証済みのソニー USB 機器

製品名	型名
Walkman®	NW-A856 / A866
	NW-E053 / E062
	NW-F806
	NW-S756 / S766 / S775
	NW-Z1060
	NWD-W253 / W263 / W273
POCKETBIT™	USM8GJ
	USM1GL / 4GL / 8GL / 32GL
	USM16GLX / 32GLX / 64GLX
	USM4GN / 8GN / 32GN
	USM4GM
	USM64GP
	USM8GQ / 32GQ / 64GQ
	USM8GR / 16GR / 32GR
	USM8GT
	USM16GU
	USM512J

USB 機器を再生する

本機の USB ポートにつないで、USB 機器の音楽コンテンツを楽しめます。

USB 機器の接続に関して詳しくは、「iPod、iPhone、USB 機器をつなぐ」(32 ページ)をご覧ください。本機で再生できる音楽ファイルフォーマットは下記のとおりです。

ファイルフォーマット 拡張子

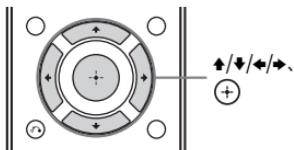
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	".mp3"
AAC*	".m4a"、".3gp"、".mp4"
WMA9 Standard*	".wma"

製品名	型名
デジタルボイスレコーダー	ICD-AX412F
	ICD-PX312F / PX333F
	ICD-SX713 / SX1000
	ICD-TX50
	ICD-UX502 / UX512 / UX513F / UX522F / UX523F / UX532 / UX533F
	ICZ-R50 / R51

ご注意

- 本機とつないでも動かないUSB機器もあります。
- 本機では、NTFSフォーマットのデータを読み取ることはできません。
- ここにリストアップされていない機種の動作は保証しません。
- ここにリストアップされているUSB機器のすべての動作を保証するものではありません。
- USB機器によっては、一部の地域では入手できない場合があります。
- リストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体でフォーマットするか、もしくは機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
- USB機器の「Creating Library」または「Creating Database」の表示が消えたことを確認してから、USB機器を本機につないでください。

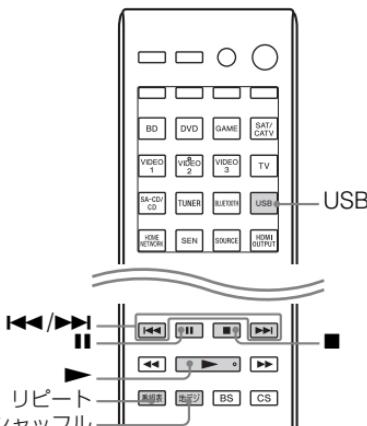
USB機器を操作する



- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、+を押す。

- 2 「USB」を選んで、+を押す。
USB機器がつながれているときは、テレビ画面に「USB」が表示されます。
本機のリモコンを使ってUSB機器を操作できます。
- 3 コンテンツリストからお好みのコンテンツを選び、+を押す。
選んだコンテンツの再生が始まり、テレビ画面に音楽コンテンツの情報が表示されます。

リモコンを使ってUSB機器を操作するには



USBを押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン	動作
▶	再生開始
■	一時停止
■	再生停止
◀/▶/◀/▶	前/次のファイルへ移動
リピート	リピートモードに入る
シャッフル	シャッフルモードに入る

USB 機器についてご注意

- 操作中に USB 機器を取りはずさないでください。データ破損や USB 機器の破損を防ぐため、USB 機器を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。
 - USB ケーブル接続が必要なときは、接続する USB 機器に付属の USB ケーブルをつないでください。操作方法について詳しくは、接続する USB 機器に付属の取扱説明書を参照してください。
 - 本機と USB 機器を USB ハブを介してつながないでください。
 - USB 機器がつながれているときは、「読み込み中...」が表示されます。
 - つないだ USB 機器の種類によっては、「読み込み中...」が表示されるまでに 10 秒ほどかかることがあります。
 - USB 機器がつながれているときは、本機は USB 機器のファイルすべてを読み込みます。USB 機器にたくさんのフォルダーやファイルが保存されていると、USB 機器を読み込むのに時間がかかることがあります。
 - 本機が認識できるデータ量は下記のとおりです。
 - 256 フォルダー（「ROOT」フォルダーを含む）
 - 各フォルダー 256 音声ファイル
 - 8 フォルダー階層（ツリー構造ファイル、「ROOT」フォルダーを含む）
- 最大音声ファイル数および最大フォルダーナンバーは、ファイルやフォルダーコンストラクションによって異なります。
- USB 機器に別の種類のファイルや不要なフォルダーを保存しないでください。
- あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。互換性のない USB 機器を使うと、騒音の原因となったり、音が途切れたり、あるいはまったく再生できないこともあります。

- 下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
 - フォルダー構成が複雑な場合
 - メモリー容量を超えている場合
- つないだ USB 機器のすべての機能に対応していない場合があります。
- 本機への再生順は、つないだ USB 機器の再生順とは異なることがあります。
- 非常に長いトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。

USB メッセージ一覧

メッセージと説明

読み込み中...

本機は、USB 機器の情報を認識して読み込んでいます。

機器接続エラーです。

USB 機器のメモリーが認識できませんでした（47 ページ）。

サポート対象外です。

対応していない USB 機器がつながれている、未確認の機器がつながれている、もしくは USB 機器が USB ハブを介してつながれています（47 ページ）。

機器が接続されていません。USB 機器を接続してください。

USB 機器がつながれていない、もしくはつながれた USB 機器が認識されていません。

情報が取得できません。

音声ファイル、フォルダー、フォルダー階層の数が本機で認識できる限度数に達しています（49 ページ）。

再生できません。

対応していない音声ファイルまたは再生制限のある音声ファイルのため、本機で再生できません。

使用できません。

禁止されている操作が行われています。

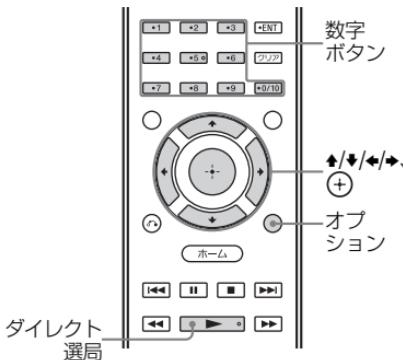
No Track

トラックが見つかりませんでした。

チューナーの操作

FM/AM ラジオを聞く

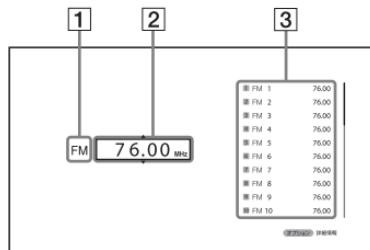
内蔵チューナーをとおして FM および AM 放送を聞くことができます。必ず事前に FM および AM アンテナを本機につないでください (32 ページ)。



- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、⊕を押す。
- 2 「FM/AM」を選んで、⊕を押す。

FM/AM 画面

↑/↓/↔/↔ と ⊕を押して、それぞれの項目を画面上で選んで操作できます。



- 1 FM/AM 表示 (50 ページ)
- 2 周波数表示 (50 ページ)
- 3 プリセット局一覧 (52 ページ)

FM ラジオと AM ラジオを切り換える

- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、⊕を押す。
- 2 「FM/AM」を選んで、⊕を押す。FM/AM 画面が表示されます。
- 3 FM/AM 表示を選ぶ。
- 4 ↑/↓ をくり返し押して「FM」または「AM」を選んで、⊕を押す。

自動で受信する (自動選局)

- 1 FM/AM 画面で周波数表示を選ぶ。
- 2 ↑/↓ を押す。
低い周波数から高い周波数の局へ順にスキャンするときは ↑ を選び、高い周波数から低い周波数の局へ順にスキャンするときは ↓ を選びます。
放送局を受信するとスキャンを自動的に停止します。

FM ステレオ放送の受信状態がよくない場合

- 1 自動選局またはダイレクト選局を使って聞きたい曲を受信する、もしくはプリセットした放送局を選ぶ (50 ページ)。

- 2 オプションを押す。
オプションメニューが表示されます。

ご注意

周波数表示が選ばれているときは、オプションメニューで FM mode を設定できます。

- 3 「STEREO/MONO」を選んで、⊕を押す。
- 4 「MONO」を選んで、⊕を押す。

手動で受信する（ダイレクト選局）

数字ボタンで放送局の周波数を直接入力することができます。

- 1 ダイレクト選局を押す。**
- 2 数字ボタンを押して周波数を入力し、 \oplus を押す。**

例 1 : FM 88.00 MHz

8 \rightarrow 8 \rightarrow 0と選ぶ。

例 2 : AM 1,350 kHz

1 \rightarrow 3 \rightarrow 5 \rightarrow 0と選ぶ。

ちょっと一言

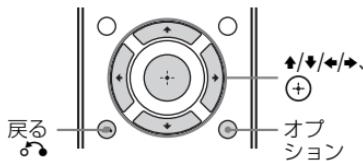
AM 放送を受信するときは、付属のAM ループアンテナの向きを受信状態の良い方向に調節してください。

放送局を受信できない場合

「---.--- MHz」または
「---.--- kHz」が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順 2 をくり返してください。それでも放送局を受信できない場合は、その地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

FM/AM ラジオ放送局をプリセットする（プリセットメモリー）

お気に入りの放送局として、FM 局とAM 局で最大 30 局ずつ登録できます。



- 1 プリセットしたい放送局を自動受信（50 ページ）またはダイレクト選局（51 ページ）で受信する。**

- 2 オプションを押す。**
オプションメニューが表示されます。

ご注意

周波数表示が選ばれているときは、オプションメニューでメモリーをプリセットできます。

- 3 「Set Preset」を選んで、 \oplus を押す。**
- 4 プリセット番号を選んで、 \oplus を押す。**
選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

- 5 手順 1 から 4 をくり返して、他の放送局を登録する。**

下記のように放送局を登録できます。

- AM 局 : AM 1 から AM 30
- FM 局 : FM 1 から FM 30

プリセットした放送局を受信する

- 1 ホームメニューから「Listen」を選んで、を押す。
- 2 「FM/AM」を選んで、を押す。
- 3 リストからプリセット番号を選んで、を押す。
1 から 30 までのプリセット番号が有効です。

プリセットした放送局に名前をつけるには (Name Input)

- 1 名をつけたいプリセット番号を選ぶ。
- 2 オプションを押す。
オプションメニューが表示されます。
- 3 「Name Input」を選んで、を押す。
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 4 ///とを押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。
- 5 「Enter」を選んで、を押す。
入力した名前が登録されます。

ご注意

テレビ画面に表示できても表示窓には表示できない文字があります。

名前の入力を中止するには

戻る  を押す。

音響効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

- 1 ホームメニューから「Sound Effect」を選んで、を押す。
- 2 「Sound Field」を選んで、を押す。
- 3 サウンドフィールドを選ぶ。

ちょっと一言

- リモコンのサウンドフィールド /をくり返し押して、サウンドフィールドを選べます。
- 本体の A.F.D./2CH、MOVIE または MUSIC でも操作できます。

Auto Format Direct (A.F.D.) / 2 チャンネルサウンドモード

• Auto Format Direct (A.F.D.)

モード：オートフォーマットダイレクトモードを使って、より忠実な音声を聞いたり、2 チャンネルステレオ音声またはモノラル音声をマルチチャンネル音声で聞くためのデコードモードを選んだりすることができます。

• 2 チャンネルサウンドモード

：お使いのソフトウェアの記録フォーマットやつないだ再生機器、本機のサウンドフィールドの設定などに関係なく、2 チャンネル音声出力に切り換えることができます。

■ A.F.D. Auto (A.F.D. AUTO)

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。

■ Multi Stereo (MULTI ST.)

2チャンネルの左／右の信号またはモノラル音声をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

■ 2ch Stereo (2CH ST.)

フロント左／右の2つのスピーカーのみから音を出力します。アクティブサブウーファーからは音を出力しません。

通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、マルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

■ 2ch Analog Direct (A. DIRECT)

選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り替えます。この機能を使って、高品質のアナログ音源を楽しむことができます。

この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのレベルのみ調節できます。

ご注意

BD、DVD、GAME、VIDEO 2、VIDEO 3、Bluetooth、USB、ホームネットワーク、SEN および AirPlay 機能を使っているときは、「2ch Analog Direct」は選べません。

ムービーモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、映画館の臨場感を再現できます。

■ HD-D.C.S.

HD Digital Cinema Sound (HD-D.C.S.) は、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。

HD-D.C.S. モードにより、マスタリング処理時に映画の音響技術者が意図したとおりの最適な臨場感とともに、高音質なブルーレイや DVD の映画をご自宅で楽しむことができます。

- **Dynamic**：残響が多くても広々とした雰囲気に欠ける環境（音が充分に吸収されていない環境）に適しています。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館の音を再現します。ダビングシアターの広々とした雰囲気が強調され、独特の音場が作り出されます。

- **Theater**：一般的リビングルーム向けです。映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。ブルーレイディスクに録画されたコンテンツを映画館の雰囲気で鑑賞したいときに最も適しています。

- **Studio**：適切な音響機器を備えたリビングルームに適しています。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスするときの、残響感を再現します。反射音や残響音は最低限のレベルに抑えています。ただし、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

■ PLII Movie

ドルビープロロジック II ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドにエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画のビデオなどの音声も 5.1 チャンネルで再生できます。

■ PLIIx Movie

ドルビープロロジック IIx ムービー モードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビープロロジック II ムービーまたはドルビーデジタル 5.1 を 7.1 映像チャンネルにディスクリートします。

■ PLIIz Movie (PLIIz)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Cinema (Neo:6 CIN)

DTS Neo:6 Cinema モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。

ミュージックモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

■ Berlin Philharmonic Hall (BERLIN)

ベルリンフィルハーモニックホールの音響特性を再現します。

■ Concertgebouw Amsterdam (CONCERTGEB)

大きなサウンドステージが特徴のオランダ、アムステルダムのコンサートホールの音響特性を再現します。

■ Musikverein Vienna (MUSIKVEREI)

残響が特徴的なオーストリア、ウィーンのコンサートホールの音響特性を再現します。

■ Jazz Club (JAZZ)

ジャズクラブの音響を再現します。

■ Live Concert (CONCERT)

300 席のライブハウスの音響を再現します。

■ Stadium (STADIUM)

広々とした屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■ Sports (SPORTS)

スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■ Portable Audio (PORTABLE)

ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3 やその他の圧縮された音源に適しています。

■ PLII Music

ドルビープロロジック II ミュージック モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIx Music

ドルビープロロジック IIx ミュージック モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIz Music (PLIIz)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Music (Neo:6 MUS)

DTS Neo:6 Music モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。CD など通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいるときは

このサウンドフィールドは、本機にヘッドホンをつないでいるときのみ選択できます。

■ Headphone (2ch) (HP 2CH)

ヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます（「2ch Analog Direct」を除く）。通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

■ Headphone (Direct) (HP DIRECT)

「2ch Analog Direct」が選ばれているときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。

イコライザー、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ信号を出力します。

アクティブサブウーファーをつなぎでいる場合

アクティブサブウーファーから2チャンネル信号に出力される低域効果音のLFE信号がないときは、本機がアクティブサブウーファーへ出力用の低周波信号を生成します。ただし、すべてのスピーカーが「Large」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」では低周波信号が生成されません。

ドルビーデジタルの低音リダイレクト回路を最大限に活かすため、アクティブサブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高域に設定することをおすすめします。

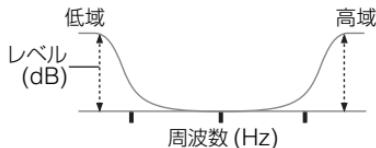
サウンドフィールドについて ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、使用できないサウンドフィールドがあります。
- 「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Movie」および「PLIIz Music」を同時に選ぶことはできません。
- 「PLIIx Movie」および「PLIIx Music」は、スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーありの設定にした場合のみ使用できます。
- 「PLIIz Movie」および「PLIIz Music」は、スピーカーパターンをフロントハイスピーカーありの設定にした場合のみ使用可能です。
- 音楽用と映画用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
- サンプリング周波数が48 kHzよりも高いDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audioまたは Dolby TrueHD を受信している。
- 「2ch Analog Direct」が選ばれている。
- スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されているときは、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Movie」、「PLIIz Music」、「Neo:6 Cinema」および「Neo:6 Music」は機能しません。
- 音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settingsメニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブサブウーファーから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出ます。
- デジタル入力信号にLFE信号が含まれている。
- フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されている。

- 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Movie」、「PLIIz Music」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」が選ばれている。

イコライザーを調整する

以下のパラメーターを使って、フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、フロントハイスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Equalizer」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 「Front」、「Center」、「SUR/SB」または「Front High」を選んで**⊕**を押す。
- 4 「Bass」または「Treble」を選んで、ゲインを調節する。

ご注意

- この機能は、「2ch Analog Direct」が使われているときは働きません。
– 「2ch Analog Direct」が使われているとき
– ヘッドホンがつながれているとき
- Bass と Treble の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

Sound Optimizer 機能を使う

Sound Optimizer を使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。音量を下げたときに聞こえにくい音を自動的に測定します。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Sound Optimizer」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 「Normal」または「Low」を選んで、**⊕**を押す。

Sound Optimizer 機能が有効になります。映画の基準レベルの調整には、「Normal」を選びます。CD など平均音圧を高めに加工されたソフト用の調整には、「Low」を選びます。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
– 「2ch Analog Direct」が使われているとき
– ヘッドホンがつながれているとき
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

補正タイプを選ぶ

自動音場補正を実行したあとに、補正タイプを選びます。詳しくは、「Auto Calibration Type」をご覧ください（96 ページ）。

ピュアダイレクト機能を使う

ピュアダイレクトモードで、原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。ピュアダイレクト機能はすべての入力で使えます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、 \oplus を押す。
- 2 「Pure Direct」を選んで、 \oplus を押す。
- 3 「On」を選んで、 \oplus を押す。

ご注意

ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、「Equalizer」、「Sound Optimizer」、「Advanced Auto Volume」および「Dynamic Range Compressor」は働きません。

ちょっと一言

リモコンまたは本体の PURE DIRECT ボタンでも、ピュアダイレクト機能のオン／オフを切り換えることができます。

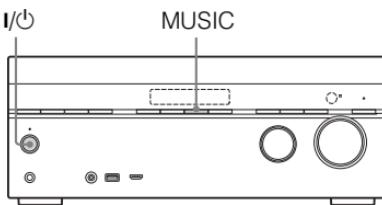
ピュアダイレクトを解除するには

以下の操作を行うと、ピュアダイレクト機能が解除されます。

- 「ピュアダイレクト機能を使う」(57 ページ) の手順 3 で「Off」を選択する。
- PURE DIRECT をもう一度押す。
- サウンドフィールドを変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- 「Equalizer」、「Sound Optimizer」、「Advanced Auto Volume」または「Dynamic Range Compressor」の設定を変える。

サウンドフィールドを初期設定状態に戻す

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。



- 1 I/O を押して本機の電源を切る。
- 2 MUSIC を押しながら、I/O を押す。
- 3 「S.F. CLEAR」が表示窓に表示されたら、すべてのボタンをはなす。すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

ネットワーク機能を使う

本機のネットワーク機能について

- DLNA 認定ロゴのある DLNA 対応機器 (DLNA CERTIFIED™ 製品) に保存した音声コンテンツをお楽しみいただけます (64 ページ)。
- ホームネットワーク上で、UPnP メディアレンダラーと同等の機器として、本機を使用できます。
- インターネットに接続すると、音楽サービスを聞いたり (68 ページ) 本機のソフトウェアをアップデートしたりできます (72 ページ)。
- TV SideView 機器を登録して、本機を操作できます。
- AirPlay を使って、iOS 機器の音声コンテンツや iTunes Library を再生できます。

DLNAについて

DLNA (Digital Living Network Alliance) は、製造メーカーを問わずさまざまな機器（コンピューターなどのサーバー機器、AV 機器、モバイルコンピューティング機器）でコンテンツ（音楽、写真、映像）をやり取りできるように作られた業界標準です。DLNA は基準に基づいて、DLNA 標準に対応した機器に認定ロゴを発行しています。

サーバーを設定する

本機を使ってサーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、あらかじめサーバーの設定をする必要があります。以下のサーバー機器は本機に対応しています。

- ソニー VAIO Media plus 1.3、1.4、2.0 および 2.1
- ソニー HDD ネットワークオーディオシステム NAS-S500HDE*、NAS-S55HDE*
- ソニーネットワーク AV レシーバー STR-DA6400ES*、TA-DA5600ES*
- Windows 8 および Windows 7 にインストールした Microsoft Windows Media Player 12 (59、61 ページ)
- Windows Vista/Windows XP にインストールした Microsoft Windows Media Player 11 (62 ページ)

* 一部の国または地域では販売されていません。

サーバーに他の機器からのアクセスを制限する機能がある場合は、本機からアクセスできるようにサーバーの設定を変えてください。

ここでは、Windows Media Player をサーバーとして使用する場合の設定方法を説明しています。

他のサーバー機器の設定について詳しくは、それぞれの機器またはアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

ご注意

- OS のバージョンやパソコンの環境によっては、パソコンに表示される項目が異なります。詳しくは、OS のヘルプを参照してください。
- Windows の「Play To」機能を使って音楽を再生しているときは、時間が少し長くかかることがあります。

Windows 8 を使用しているときは

ここでは、Windows 8 にデフォルトでインストールされている Windows Media Player 12 を設定する方法を説明します。Windows Media Player 12 の操作方法について詳しくは、Windows Media Player 12 のヘルプを参照してください。

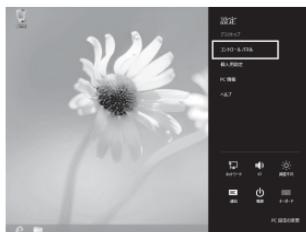
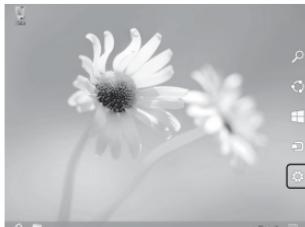
- 1 コントロールパネルを開く。
【スタート】から【すべてのアプリ】を選ぶ。【コントロールパネル】を選ぶ。



ちょっと一言

上記のような Windows 8 の画面が表示されない場合は、以下の手順へ進んでください。

- 【設定】から【コントロールパネル】を選ぶ。



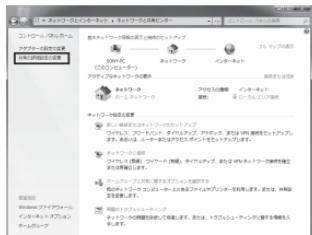
- 2 【ネットワークとインターネット】の【ネットワークの状態とタスクの表示】を選ぶ。
【ネットワークと共有センター】ウィンドウが表示されます。

ちょっと一言

画面にお好みの項目が表示されない場合は、コントロールパネルの表示方式を変更してください。



3 [共有の詳細設定の変更] を選ぶ。



4 [すべてのネットワーク] から [メディアストリーミング] の [メディアストリーミングオプションの選択...] を選ぶ。



5 [メディアストリーミングオプション] ウィンドウに [メディアストリーミングが有効になっていません] が表示された場合は、[メディアストリーミングを有効にする] を選ぶ。

6 [すべて許可] を選ぶ。

[すべてのメディアデバイスの許可] ウィンドウが開きます。
ローカルネットワークのすべての機器が [許可] に設定されている場合は、[OK] を選んでウィンドウを閉じる。



7 [すべてのコンピューターとメディアデバイスを自動的に許可する] を選ぶ。

8 [次へ] と [完了] を選んで、ウィンドウを閉じる。

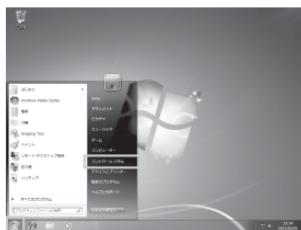
9 サーバーリストをリフレッシュする。

設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選択します。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(64 ページ)をご覧ください。

Windows 7 を使用しているときは

ここでは、Windows 7 にデフォルトでインストールされている Windows Media Player 12 を設定する方法を説明します。Windows Media Player 12 の操作方法について詳しくは、Windows Media Player 12 のヘルプを参照してください。

1 [スタート] から [コントロールパネル] へ進む。



2 [ネットワークとインターネット] の [ネットワークの状態とタスクの表示] を選ぶ。

[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。

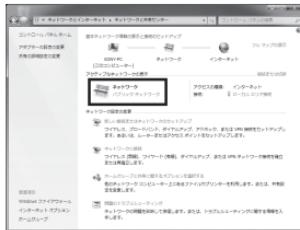
ちょっと一言

画面にお好みの項目が表示されない場合は、コントロールパネルの表示方式を変更してください。

3 [アクティブなネットワークの表示] の下の [パブリックネットワーク] を選ぶ。

[パブリックネットワーク] 以外の画面が表示された場合は、手順 6 へ進む。

[ネットワークの場所の設定] ウィンドウが表示されます。

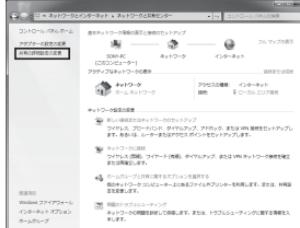


4 本機が使われている環境に応じて、[ホームネットワーク] または [社内ネットワーク] を選ぶ。

5 本機が使われている環境に応じて、画面に表示される指示にしたがう。

設定が完了したら、[ネットワークと共有センター] ウィンドウで [アクティブなネットワークの表示] の下の項目が [ホームネットワーク] または [社内ネットワーク] に変わっていることを確認します。

6 [共有の詳細設定の変更] を選ぶ。



7 [メディアストリーミング] から [メディアストリーミング オプションの選択...] を選ぶ。



8 [メディアストリーミング オプション] ウィンドウに [メディアストリーミングが有効になっていません] が表示された場合は、[メディアストリーミングを有効にする] を選ぶ。

9 [すべて許可] を選ぶ。

[すべてのメディアデバイスの許可] ウィンドウが開きます。ローカルネットワークのすべての機器が [許可] に設定されている場合は、[OK] を選んでウィンドウを閉じる。



10 [すべてのコンピューターとメディアデバイスを自動的に許可する] を選ぶ。

11 [OK] を選んで、ウィンドウを閉じる。

12 サーバーリストをリフレッシュする。

Windows Media Player 12 の設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選びます。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(64 ページ)をご覧ください。

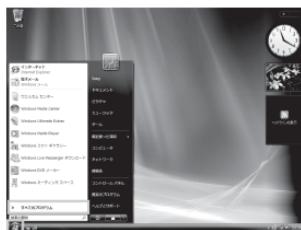
Windows Vista/XP を使用しているときは

ここでは、Windows Vista/XP* にインストールされている Windows Media Player 11 を設定する方法を説明します。

Windows Media Player 11 の操作方法について詳しくは、Windows Media Player 11 のヘルプを参照してください。

* Windows XP には、Windows Media Player 11 はデフォルトでインストールされていません。Microsoft のウェブサイトからインストーラーをダウンロードして、パソコンに Windows Media Player 11 をインストールしてください。

1 [スタート] から [すべてのプログラム] へ進む。



2 [Windows Media Player] を選ぶ。

Windows Media Player 11 が起動します。

3 【ライブラリ】メニューから【メディアの共有...】を選ぶ。
お使いのパソコンが Windows XP の場合は、手順 9 へ進んでください。

4 ▲が表示されたら、
【ネットワーク...】を選ぶ。



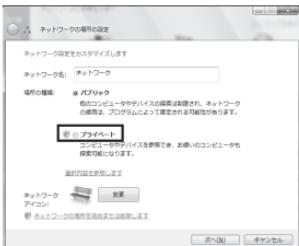
[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。

5 【カスタマイズ】を選ぶ。



[ネットワークの場所の設定] ウィンドウが表示されます。

6 【プライベート】にチェックを入れて、【次へ】を選ぶ。



7 【場所の種類】が【プライベート】になっていることを確認して、【閉じる】を選ぶ。

8 【ネットワークと共有センター】 ウィンドウに【(プライベートネットワーク)】が表示されていることを確認して、ウィンドウを閉じる。

9 手順 3 で表示される【メディア共有】 ウィンドウで【メディアを共有する】がチェックされていない場合は、【メディアを共有する】にチェックを入れて、【OK】を選ぶ。接続可能な機器のリストが表示されます。



10 【メディアを共有する】の横に表示される【設定...】を選ぶ。

11 【新しいデバイスおよびコンピュータを自動的に許可する】にチェックを入れて、【OK】を選ぶ。

ご注意

本機がサーバーにつながれて、サーバーの音声コンテンツを再生できることを確認したら、この項目のチェックをはずしてください。

12 サーバーリストをリフレッシュする。
Windows Media Player 11 の設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選びます。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(64 ページ)をご覧ください。

サーバーリストをリフレッシュするには

ホームページネットワークに新しいサーバーを追加したとき、またはリストにお好みのサーバーが見つからないときは、サーバーリストをリフレッシュしてください。

- 1 サーバーリストを表示させて、オプションを押す。
 - 2 「更新中...」を選んで、 \oplus を押す。
リフレッシュしたサーバーリストが表示されます。

ちょっと一言

本機は、最近利用した5つのサーバー履歴を保持して、サーバーリストの一番上に表示します。最大で20台のサーバーをサーバーリストに表示できます。

サーバーリストからサーバーを削除するには

- 1 サーバーリストを表示させて、削除したいサーバーを選んでオプションを押す。
オプションメニューが表示されます。
 - 2 「Delete」を選んで、④を押す。
テレビ画面に確認画面が表示されます。
 - 3 「OK」を選んで、④を押す。
「Complete!」が表示されて、選んだサーバーが削除されます。

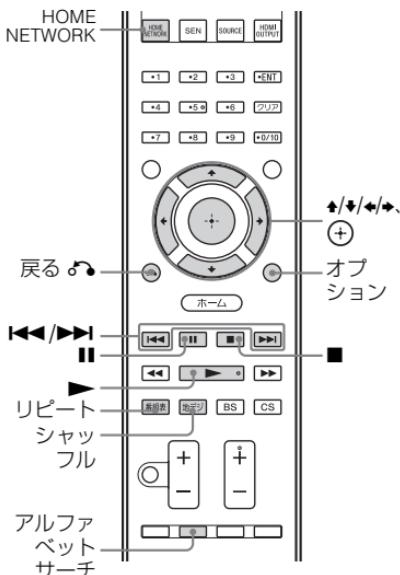
ご注意

サーバーをサーバーリストから削除しても、本機がネットワーク上でそのサーバーを見つけると（サーバーリストをリフレッシュしたときなど）、サーバーリストに再び表示されます。

サーバーの音声コンテンツを楽しむ

サーバーに保存された音声コンテンツを、本機を使って MP3、リニア PCM、WMA、FLAC、AAC* フォーマットで再生できます。DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音声コンテンツは、本機では再生できません。

* 拡張子が「.m4a」、「.mp4」または「.3gp」のAACファイルのみを本機で再生できます。



1 HOME NETWORK を押す。

テレビ画面にサーバーリストが表示されます。

最後に選択した項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）がテレビ画面に表示された場合は、戻る▲をくり返し押してサーバーリストを表示させてください。「サーバーが見つかりません。」が表示された場合、またはサーバーリスト上のサーバーが無効な場合は、オプションを押してください。「更新中...」を選んで、⊕を押すと、リフレッシュしたサーバーリストが表示されます。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「Home Network」を選ぶこともできます。

2 DLNA サーバーアイコンを選んで、⊕を押す。

テレビ画面にコンテンツリストが表示されます。

ご注意

サーバー機器が Wake-on-LAN 標準に対応している場合は、自動的に本機の電源が入ります。サーバーが Wake-on-LAN 標準に対応していない場合は、あらかじめサーバーの電源を入れてください。サーバーの Wake-on-LAN 設定または操作について詳しくは、サーバーの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

3 お好みの項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）を選んで、⊕を押す。

別の項目が表示された場合は、この手順をくり返して選択肢をしづり込み、お好みの項目を表示させてください。表示される項目は、つないだサーバーによって異なります。

4 お好みのトラックを選んで、⊕を押す。

再生が開始します。

本機のスピーカーから音声が出力されていることを確認してください。

ご注意

- 本機で再生できないトラックも、テレビ画面に表示されます。再生可能なトラックリストのソートはできません。
- 壁のコンセントから電源コードを抜くと、前回選択した項目から再生が再開されません。
- 大容量の音声コンテンツを含んだフォルダーを開覧しているときは、本機が項目を表示するのに時間がかかることがあります。この場合は、キーワードを使ってアイテムを検索してください（74ページ）。

ちょっと一言

- アーティストフォルダーやジャンルフォルダなどのフォルダーを選び、▶ボタンを押すと、本機は選んだフォルダ内のすべてのアイテムを再生します。
- 本機の電源を切らない限り、ホームネットワーク機能に切り換えると、本機は前回選んだアイテムから再生を再開します。本機の電源を切ったあとでも、「Network Standby」が「On」に設定されているときは、前回選んだアイテムから再生が再開します。

Access Settings の設定をする（アクセス設定）

デバイスリスト上の機器のアクセス制限やアクセス許可を設定できます。

1 HOME NETWORK を押す。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「Home Network」を選ぶことができます。

2 オプションを押す。

3 「Access Settings」を選んで、⊕を押す。

自動アクセス許可を設定するには

- 1 「Access Settings」で「Auto Access」を選んで、⊕を押す。
- 2 「Allow」または「Not Allow」を選んで、⊕を押す。
 - **Allow**：ホームネットワーク上のすべての機器から本機へのアクセスを許可します。
 - **Not Allow**：本機にアクセスしている新しい機器を制限します。ホームネットワークに新しい機器をつなぐときは、その機器をデバイスリストに追加して、アクセス許可を設定します（66 ページ）。

ご注意

最大で 20 台の機器をデバイスリストに追加できます。登録した機器がすでに 20 台に達している場合は、「Device Full」が表示され、デバイスリストに新たな機器を追加することはできません。この場合は、不要な機器をデバイスリストから削除してください（66 ページ）。

デバイスリストに機器を追加するには

- 1 「Access Settings」で「Control Device」を選んで、⊕を押す。
登録したデバイスリストがテレビ画面に表示されます。
- 2 「Add Device」を選んで、⊕を押す。
- 3 使用する機器を選んで、⊕を押す。
選んだ機器がデバイスリストに追加されます。アクセス設定について詳しくは、「機器にアクセス許可の設定をするには」（66 ページ）をご覧ください。

機器にアクセス許可の設定をするには

デバイスリスト上の機器にアクセス許可の設定をすることができます。「Allow」に設定した機器だけが、ホームネットワーク上で認識されます。

- 1 「Access Settings」で「Control Device」を選んで、⊕を押す。
登録したデバイスリストがテレビ画面に表示されます。
- 2 使用する機器を選んで、⊕を押す。
- 3 「Access」を選んで、⊕を押す。
- 4 「Allow」または「Not Allow」を選んで、⊕を押す。

デバイスリストから機器を削除するには

「機器にアクセス許可の設定をするには」（66 ページ）の手順 3 で「Delete」を選んで、⊕を押す。
確認画面で「OK」を選んで、⊕を押す。

TV SideView を使う

TV SideView は、リモート機器（スマートフォンなど）用の無料モバイルアプリケーションです。本機と TV SideView をいつしょに使うと、リモート機器で操作をして本機を簡単に楽しむことができます。

TV SideView 機器を登録するには

- 1 HOME NETWORK を押す。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「Home Network」を選ぶこともできます。

- 2 オプションを押す。
- 3 「TV SideView Device Registration」を選んで、⊕を押す。

4 「Start Registration」を選んで、④を押す。

本機が、登録の準備ができているTV SideView 機器の検出を始めます。

テレビ画面に「接続中...」が表示されます。TV SideView 機器の「Registration」を押します。ただし、30秒で機器を1台も検出できない場合は、本機は登録作業を終了します。

5 「Finish」を選んで、④を押す。

登録を中止するには

手順4で「Cancel」を選んで、④を押す。

ご注意

最大で5台のTV SideView 機器をデバイスリストに追加できます。登録した機器がすでに5台に達している場合は、「Device Full」が表示され、デバイスリストに新たな機器を追加することはできません。この場合は、不要な機器をデバイスリストから削除してください。(67ページ)。

登録したTV SideView 機器を確認するには

手順3で「Registered TV SideView Devices」を選んで、④を押す。

登録したTV SideView 機器をデバイスリストから削除するには

1 手順3で「Registered TV SideView Devices」を選んで、④を押す。

2 削除したい機器を選んで、④を押す。

3 「Delete」を選んで、④を押す。

4 「OK」を選んで、④を押す。

選んだ機器がデバイスリストから削除されます。

著作権保護を確認するには

DRM著作権保護付きのWMAフォーマットのファイルは、本機では再生できません。

WMAファイルが本機で再生できない場合は、パソコンでファイルのプロパティを確認し、DRM著作権付きのファイルでないかどうかを確認してください。

WMAファイルが保存されているフォルダーかボリュームを開いて、ファイルを右クリックして「[プロパティ]」ウインドウを表示させます。「[ライセンス]」タブがある場合は、DRM著作権保護が付いたファイルのため、本機で再生することはできません。

リモコンを使ってホームネットワーク機能を操作するには

動作	操作
再生を一時停止する*	再生中に■を押す。 ▶を押して再生を再開する。
再生を停止する	■を押す。
再生中のトラックの先頭、前のトラック、または次のトラックへ進む	◀◀/▶▶をくり返し押す。
再生するアイテムを選び直す	戻る△をくり返し押して、お好みのディレクトリを表示させる。 または、オプションを押して「Server List」を選び、お好みのアイテムを選ぶ。
	再生画面に戻るには、オプションを押して「Now Playing」を選ぶ。

動作	操作
キーボードを使ってアイテムを探す	サーバーのコンテンツを選択した状態で、アルファベットサーチを押して、キーワードを入力する(74ページ)。
サーバーを変える	再生停止中にオプションを押す。「Server List」を選んで、④を押す。お好みのサーバーを選んで、④を押す。
リピート再生	リピートをくり返し押して、「Repeat All」または「Repeat 1」をテレビ画面に表示させる。
シャッフル再生	シャッフルをくり返し押して、「Shuffle On」をテレビ画面に表示させる。

* サーバーやトラックによっては、ホームネットワーク機能が選ばれているときは、再生一時停止機能が働かないことがあります。

Sony Entertainment Network (SEN) を楽しむ

本機を使ってインターネットの音楽サービスを聞くことができます(SEN機能)。

この機能を使うには、インターネットにつながっているネットワークに本機をつなぐ必要があります。詳しくは、「6：ネットワークに接続する」(33ページ)をご覧ください。

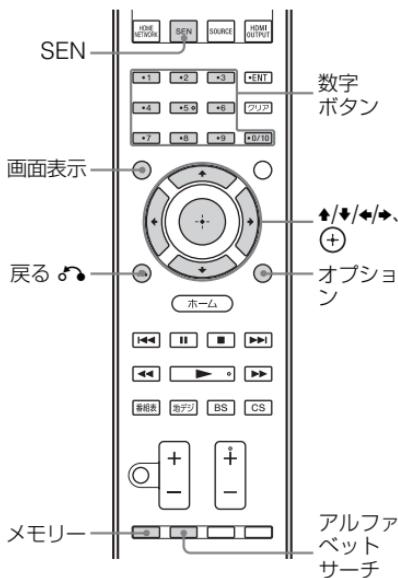
SENについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください：

<http://www.sonyentertainmentnetwork.com>



ご注意

サービスプロバイダーによっては、音楽サービスを利用する前に、本機を登録する必要があります。登録について詳しくは、サービスプロバイダーのカスタマーサポートサイトを確認してください。



次の手順では、インターネットの音楽サービスの例として、「vTuner」の選びかたを説明します。

1 SEN を押す。

テレビ画面にサービスプロバイダーリストが表示されます。前回選んだサービスまたはステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る「」をくり返し押して、サービスプロバイダーリストを表示させます。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「SEN」を選ぶこともできます。

2 「vTuner」を選んで、①を押す。

3 お好みのフォルダーまたはステーションを選んで、①を押す。

- をくり返し押して、アイテムを選ぶ。
- ①を押して次のディレクトリに進む、またはステーションを聞く。
- 戻る「」を押して前のディレクトリに戻る。

ご注意

「ネットワークサービスが見つかりません。」が表示されてサービスプロバイダーリストを取得できないときは、オプションを押して「更新中...」を選んでください。

ちょっと一言

本機の電源を切らない限り、SEN機能に切り換えると、本機は前回選んだサービスまたはステーション表示します。本機の電源を切った場合でも、「Network Standby」が「On」に設定されていると、前回選んだサービスまたはステーションが表示されます。

リモコンを使って SEN 機能を操作するには

動作	操作
ステーションまたはサービスを変更する	戻る「」を押してサービスプロバイダーリストに戻り、サービスを選び直す。 もう一度再生画面に戻るには、オプションを押して「Now Playing」を選ぶ。
本機がステーションまたはサービスを選んでいるとき、または再生しているときに、さまざまな機能を使う	オプションを押す。選んだアイテムまたはディレクトリによって表示される項目が異なります。
サービスのオプションを選ぶ	サービスのコンテンツを選んでいるとき、または再生しているときに、オプションを押す。「Service Options」を選んで、①を押す。サービスのオプションの内容は、選んだサービスによって異なります。
キーボードを使ってアイテムを探す	サーバーのコンテンツを選択した状態で、アルファベットサーチを押して、キーワードを入力する(74ページ)。

動作	操作
表示可能な情報を見る	画面表示をくり返し押して、アーティスト名やアルバム名などを表示する。

ステーションをプリセットする

最大で 20 ステーションをお気に入りとして保存できます。

- 1 プリセットするステーションを選ぶ。**
- 2 受信中にメモリーを押す。**
プリセットメモリーリストが表示されます。
- 3 プリセット番号を選んで、⊕を押す。**
- 4 手順 1 から 3 をくり返して、他のステーションを登録する。**

プリセットしたステーションを聞くには

- 1 SEN を押す。**
テレビ画面にサービスプロバイダリストが表示されます。前回選んだステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る ↺ をくり返し押して、サービスプロバイダリストを表示させます。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「SEN」を選ぶこともできます。

- 2 「Preset」を選んで、⊕を押す。**
サービスプロバイダリストの先頭に、「Preset」が表示されます。
- 3 お好みのプリセットしたステーションを選んで、⊕を押す。**

ご注意

サービスプロバイダーによっては、プリセットできないステーションがある場合があります。プリセットできないステーションをプリセットしようとすると、画面に「使用できません。」が表示されます。

さまざまな音楽サービスを楽しむ

インターネット上で提供されているさまざまな音楽サービスのコンテンツをお楽しみいただけます。

音楽サービスについて、サービスの楽しみかたについて、および本機の登録コードについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://munlimited.com/home>

登録コードを確認する

新たな音楽サービスを楽しむときは、本機の登録コードの入力が必要な場合があります。

- 1 SEN を押す。**

テレビ画面にサービスプロバイダリストが表示されます。前回選んだサービスまたはステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る ↺ をくり返し押して、サービスプロバイダリストを表示させます。

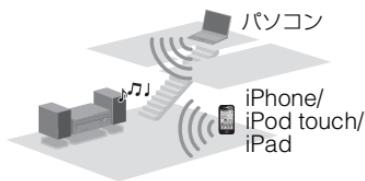
ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「SEN」を選ぶこともできます。

- 2 「Registration Code」を選んで、⊕を押す。**
本機の登録コードが表示されます。

AirPlay で iTunes から音楽をストリーミングする

無線ネットワークを使って、iOS 機器 (iPhone、iPod touch、iPad など) の音声コンテンツやパソコン上の iTunes ライブラリを再生できます。



本機対応の iPod/iPhone/iPad モデル

iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPod touch（第2世代、第3世代、第4世代）、iPad、iPad2、iPad 第3世代互換 iOS 4.2以降、Mac またはパソコンの iTunes 10.1 以降。

ご注意

- iOS または iTunes の対応バージョンについて詳しくは、「本機対応の iPod/iPhone/iPad モデル」を参照してください。
- 本機で iOS または iTunes を使用する前に、最新バージョンにアップデートしてください。
- iOS 機器、iTunes または AirPlay の操作について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

1 iOS 機器の画面または iTunes ウィンドウの右下の □ アイコンをタップまたはクリックする。

[iOS 機器]



[iTunes]



2 iTunes または iOS 機器の AirPlay メニューで「STR-DN1040」を選択する。

[iOS 機器]



[iTunes]



-
- 3 iOS 機器または iTunes 上の音声コンテンツの再生を開始する。**
AirPlay が本機の機能として自動的に選択されます。

ちょっと一言

- 「*****」は本機の MAC アドレスの下 6 術です。
- 再生が始まらない場合は、手順 1 から操作をやり直してください。

機器名を確認、編集するには

機器の名前をつけ直す手順については、「Device Name」(103 ページ) を参照してください。

AirPlay 再生の操作をするには

音量 +/-、▶、II、■、◀◀、▶▶、シャッフルおよびリピートボタンを使って操作できます。本機が出力用として選ばれているときのみ、本機とリモコンからの操作が可能です。
iTunes 使用時に、本機とリモコンで iOS 機器を操作するには、iOS 機器が本機とリモコンの操作を受信するように設定してください。

ちょっと一言

- 本機への一番最後の制御コマンドが最優先されます。本機は、ある機器の AirPlay 再生に使用されているときでも、AirPlay を装備した別の機器からの制御を受けると、その機器の音声コンテンツの再生を始めます。
- iOS や iTunes を使って大音量に設定すると、大音量の音声が本機から出力されます。
- iTunes の使いかたについて詳しくは、iTunes のヘルプを参照してください。
- iOS 機器または iTunes の音量レベルと本機の音量レベルは、連動できないことがあります。

ソフトウェアをアップデートする

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードして、最新機能を利用できます。本機はソニーサーバーにアクセスして、ソフトウェアをアップデートします。

最新バージョンが入手可能なときは、画面の指示にしたがってソフトウェアをアップデートしてください。インターネットにつないでいてホームネットワークまたは SEN 機能を使っているときは、最新バージョンを入手すると、表示窓に「UPDATE」が表示されます。

ソフトウェアをアップデートする前に、本機につながれている他の機器は必ず停止してください。

アップデート可能なソフトウェアの更新について詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

[http://www.sony.jp/support/
audio/](http://www.sony.jp/support/audio/)

ご注意

- ソフトウェアのアップデート中は、本機の電源を切ったり、ネットワークケーブルを抜いたり、その他の操作を本機で行ったりしないでください。
- スリープタイマーがオンになっているときにソフトウェアをアップデートしようとすると、スリープタイマーは自動的にオフになります。

1 ホームメニューから「Settings」を選んで、⊕を押す。

テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。

2 「System」を選んで、⊕を押す。

3 「Network Update」を選んで、⊕を押す。

4 「開始」を選んで、④を押す。

本機がアップデート可能なソフトウェアの確認を始めます。ソフトウェアのアップデートを始めるとき、それまで使用していたバージョンに戻すことはできません。本機のソフトウェアのダウンロードが完了すると、「Download 100%」がテレビ画面に表示されます。本機がソフトウェアのアップデートを始めます。GUIと表示窓が自動的にオフになります。本体前面の I/O (電源オン／スタンバイ) ランプがゆっくり点滅します。アップデートが完了するまでに、40 分から最長で数時間かかることがあります。アップデートに必要な時間は、インターネット回線速度など、アップデータする環境によって異なります。アップデートが完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示され、本機が自動的に再起動します。

ご注意

I/O (電源オン／スタンバイ) ランプがゆっくり点滅しているときは、電源コードを抜かないでください。

手順を中止するには

手順 4 で「キャンセル」を選ぶ。

前の画面に戻るには

ソフトウェアのアップデートを始める前に、戻る を押す。アップデートが始まると、前の画面に戻ることはできません。

ネットワーク機能メッセージ一覧

ネットワーク設定

メッセージと説明

無効な ■■■* です。

入力された値が不正確または無効です。

* ■■■ には、SSID、IP アドレス、セキュリティキー、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プライマリ DNS、セカンダリ DNS が入ります。
■■■ はネットワークの設定によって異なります。

ホームネットワーク

メッセージと説明

ネットワークに接続することができません。

選んだサーバーに本機をつなぐことはできません。

情報が取得できません。

コンテンツやサーバーの情報を本機で取り出すことができません。

再生できません。

対応していない音声ファイルまたは再生制限のある音声ファイルのため、本機で再生できません。

Device Full!

デバイスリストに機器をこれ以上登録することはできません。

Initialize

本機のネットワーク機能を初期化しています。

サーバーが見つかりません。

ネットワーク上に、本機が接続できるサーバーがありません。サーバーリストをリフレッシュしてください (64 ページ)。

No Track

サーバー上で選んだフォルダーには、再生できるファイルがありません。

Not Found

サーバー上にキーワードに合うアイテムがありません。

使用できません。

禁止されている操作が行われています。

SEN

メッセージと説明

ネットワークに接続することができません。
選んだサーバーに本機をつなぐことはできません。

情報が取得できません。

本機はサーバーからコンテンツを取得することができません。

再生できません。

- 再生できないファイルを再生しようとしたしました。
- 対応していないファイル形式または再生制限のあるファイルのため、本機でサービスまたはステーションを再生できません。

ソフトウェアアップデートを行ってください。

本機で使用しているソフトウェアのバージョンでは、無効なサービスです。
ソフトウェアのアップデートについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://munlimited.com/home>

No Preset

選んだプリセット番号で本機に保存されているステーションはありません。

ネットワークサービスが見つかりません。
サービスプロバイダーがありません。

No Stations Available

選んだサービスにステーションがありません。

使用できません。

- 選んだサービスは無効です。
- 無効な操作が行われています。

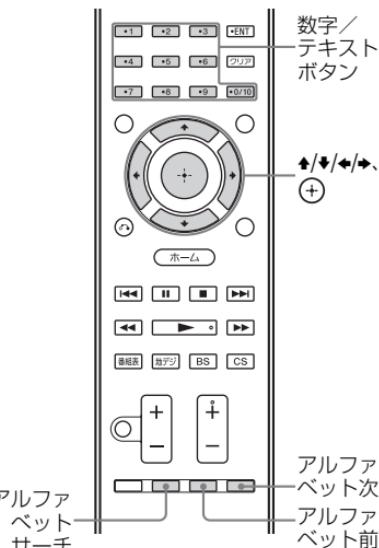
使用できません。

禁止されている操作が行われています。

キーワードを使ってアイテムを検索する

テレビ画面にリスト（アーティストリスト、トラックリストなど）が表示されているときは、キーワードを入力してアイテムを検索できます。

ホームネットワークまたはSEN機能が選ばれているときのみ、キーワード検索が有効です。



1 アイテムリスト（アーティストリスト、トラックリストなど）がテレビ画面に表示されているときに、アルファベットサーチを押す。

テレビ画面にキーワード入力画面が表示されます。

2 数字／テキストボタンを押してキーワードを入力する。

最大 15 文字でキーワードを設定できます。

ご注意

検索したいアイテムのタイトルや名前の先頭の文字または単語と一致するキーワードを入力してください。アイテムを検索するときは、名前の前の「The」とその後ろのスペースは無視します。

3 ④を押す。

キーワードにマッチするアイテムが表示されます。表示されたアイテムが検索しているものと異なるときは、ALPHABET PREVIOUS / ALPHABET NEXT を押して、前／次のアイテムを表示させてください。

4 手順1から3をくり返してお好みのアイテムを見つけたら、④を押す。

5 お好みのトラックを選んで、④を押す。

再生が開始します。

Bluetooth機能を使う

Bluetooth無線技術について

Bluetooth無線技術は、デジタル機器同士で無線通信を行うための近距離無線技術です。Bluetooth無線技術でおよそ10メートルの範囲内で通信を行うことができます。

USB接続のようにケーブル接続をする必要はなく、無線赤外線技術のように機器同士を向かい合わせにする必要もありません。Bluetooth無線技術は、数千社が採用している世界標準規格です。世界中のさまざまな企業が世界標準規格を満たした製品を生産しています。



本機が対応しているBluetooth機器の最新情報については、下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>

対応Bluetoothバージョンおよびプロファイル

プロファイルは各種Bluetooth製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBluetoothバージョンおよびプロファイルに対応しています。

対応Bluetoothバージョン：
Bluetooth標準規格Ver.3.0準拠

対応 Bluetooth プロファイル：
A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile)：一時停止、停止、再生、音量調整など、オーディオ／映像機器を操作する。

ご注意

- Bluetooth 機能を使えるようにするには、つなぐ Bluetooth 機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。本機が同じプロファイルに対応している場合でも、Bluetooth 機器の仕様によって機能が異なります。
- Bluetooth 無線技術の特性により、Bluetooth 機器での音声再生に比べて、本機での音声再生が遅れることがあります。

本機と Bluetooth 機器をペアリングする

ペアリングとは、Bluetooth 機器同士を互いにあらかじめ登録する操作です。一度ペアリングをしたら、再度ペアリングを行う必要はありません。

- 1 **Bluetooth 機器を本機から 1 メートル以内の場所に置く。**
- 2 **BLUETOOTH を押す。**
ホームメニューの「Listen」から「Bluetooth」を選ぶこともできます。
- 3 **オプションを押す。**
オプションメニューが表示されます。
- 4 **「ペアリング」を選んで、⊕を押す。**

ご注意

Bluetooth 機器をペアリングモードで設定してください。ペアリングモードでの Bluetooth 機器の設定について詳しくは、機器に付属の取扱説明書を参照してください。

- 5 **⊕を押してペアリングを開始する。**
テレビ画面に「ペアリング中です。接続したい Bluetooth 機器を検出可能な状態にしてください。」が表示されます。

ご注意

Bluetooth 機器でパスキーの入力を求められたら、「0000」を押してください。

- 6 **一度ペアリング設定を行うと、機器は自動的に本機につながります。**

テレビ画面に機器名が表示されます。

- 7 **Bluetooth 機器で再生を開始する。**

- 8 **音量を調整する。**

まず Bluetooth 機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、本機で音量レベルを調節します。

ペアリング操作を中止するには
戻る ↺ を押す。

本機のボタンを使う

- 1 **Bluetooth 機器を本機から 1 メートル以内の場所に置く。**
- 2 **BLUETOOTH を押して、Bluetooth 機能を選ぶ。**
- 3 **BLUETOOTH を 2 秒間押し続けて、本機のペアリングモードを起動する。**
「PAIRING READY」が表示されて、表示窓の「BT」が速く点滅します。5 秒以内に手順 4 を実行しないと、ペアリングが中止されます。この場合は、この手順からやり直してください。

- 4 **Bluetooth 機器でペアリングを実行して、本機を検出する。**
詳しくは、Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください。
Bluetooth 機器の種類によっては、検出された機器のリストが Bluetooth 機器の画面に表示されます。本機は「STR-DN1040」として表示されます。

ご注意

本機との接続を確立しているときに、Bluetooth 機器でオーディオプロファイル（A2DP、AVRCP）を選びます。

Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応していない場合は、本機で再生やそれ以外の操作を行うことはできません（76 ページ）。

5 Bluetooth 機器の画面で「STR-DN1040」を選ぶ。

「STR-DN1040」が表示されないときは、手順 1 から操作をやり直してください。

ご注意

Bluetooth 機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を押します。

6 一度ペアリング設定を行うと、機器は自動的に本機につながります。

テレビ画面に機器名が表示されて、「BT」が点灯します。

7 Bluetooth 機器で再生を開始する。

8 音量を調整する。

まず Bluetooth 機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、本機で音量レベルを調節します。

ペアリング操作を中止するには

手順 3 のあとに、BLUETOOTH を長押しします。表示窓に「CANCEL」が表示されます。

ご注意

- パスキーは、「パスコード」、「PIN コード」、「PIN ナンバー」、「パスワード」など呼ばれる場合があります。
- 最大 9 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。10 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth 機器の種類によっては、Bluetooth 機器の操作ボタンでも音量を調整できます。

本機から Bluetooth 機器につなぐ

本機から Bluetooth 機器につなぐことができます。

音楽を再生する前に、下記を確認してください。

– Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている。

– ペアリングが完了している（76 ページ）。

1 「本機と Bluetooth 機器をペアリングする」の手順 4 で「接続／切断」を選ぶ（76 ページ）。

本機が最後につないだ Bluetooth 機器に自動的につながります。

2 ▶ を押して再生を開始する。

3 音量を調整する。

まず Bluetooth 機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、本機で音量レベルを調節します。

Bluetooth 機器との接続を切断するには

「本機と Bluetooth 機器をペアリングする」の手順 4 で「接続／切断」を選ぶ（76 ページ）。

デバイスリストからペアリングした Bluetooth 機器を削除するには

本機を初期化する（91 ページ）。

本機のボタンを使う

1 BLUETOOTH を押して、Bluetooth 機能を選ぶ。

本機が最後につないだ Bluetooth 機器に自動的につながります。

最後につないだ Bluetooth 機器につなげないときは、本機の BLUETOOTH を押します。

接続が確立されたら、手順 3 へ進みます。

2 Bluetooth 機器から接続を確立する。

詳しくは、Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

接続が完了すると、テレビ画面に機器名が表示されて、表示窓に「BT」が点灯します。

3 Bluetooth 機器から再生を開始する。

リモコンの ▶ で操作することもできます。

4 音量を調整する。

まず Bluetooth 機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、本機で音量レベルを調節します。

Bluetooth 機器との接続を切断するには

本機の BLUETOOTH を押す。

Bluetooth 機器からも接続を切断できます。詳しくは、Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- Bluetooth 機器の種類によっては、Bluetooth 機器の操作ボタンでも音量を調整できます。
- Bluetooth 機器につないでいるときは、他の Bluetooth 機器から本機は検出されず接続を確立できません。
- ペアリングした Bluetooth 機器につなげないときは、本機と Bluetooth 機器のペアリング操作をもう一度行ってください。
- 本機の電源を入れたときに入力が「BLUETOOTH」に設定されていると、本機は自動的に前回つないだ Bluetooth 機器につながります。

リモコンを使って Bluetooth 機器を操作するには



押すボタン	動作
▶*	再生開始
■	一時停止
■	再生停止
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
◀◀/▶▶	前／次のファイルへ移動

* Bluetooth 機器が一台もつながっていないときに ▶ を押すと、本機は自動的に前回つないだ Bluetooth 機器につながり、音楽を再生します。

ご注意

これらの操作は一部の Bluetooth 機器でのみ行うことができます。また、つないだ Bluetooth 機器によって実際の操作が異なることがあります。

Bluetooth スタンバイモードを設定する

Bluetooth スタンバイモードを設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも、Bluetooth 機器から本機を操作できます。

1 「本機を Bluetooth 機器をペアリングする」の手順 4 で「Bluetooth Standby」を選ぶ (76 ページ)。

2 「はい」を選んで、①を押す。

Bluetooth 機器から Bluetooth 接続を確立させると、自動的に本機の電源が入ります。

スタンバイモードを解除するには

手順 2 で「いいえ」を選択する。

ご注意

- 本機がスタンバイ状態で、「Bluetooth Standby」が「はい」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン/スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。
- Bluetooth 機器がペアリングされているときのみ、このモードを選べます。

Bluetooth オーディオコーデックを設定する

AAC (Advanced Audio Coding)
音声を有効または無効にできます。

1 「本機を Bluetooth 機器をペアリングする」の手順 4 で「Bluetooth AAC」を選ぶ (76 ページ)。

**2 「On」または「Off」を選んで、
④を押す。**

- On : AAC 音声が有効です。
- Off : AAC 音声が無効です。

ご注意

- AAC が有効なときは、高音質をお楽しみいただけます。
- 設定を変更すると、Bluetooth 機器が本機から自動的に切断されます。

つないだ Bluetooth 機器の情報を確認する

リモコンの DISPLAY をくり返し押して、Bluetooth 機器の情報を確認できます。

画面表示を押すたびに表示が次のように切り換わります。

Bluetooth 機器名 → Bluetooth 機器のアドレス → 最近適用したサウンドフィールド → 音量レベル → 選んだ入力

ちょっと一言

本機の DISPLAY からも情報を確認できます。

“ブラビアリンク”機能

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能により、HDMI 機器制御機能を搭載する、テレビ、ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、DVD プレーヤー、AV アンプなどのソニー製品を連動操作することができます。

“ブラビアリンク”機能に対応するソニー製の機器を HDMI ケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ (80 ページ)
- 電源オフ連動 (81 ページ)
- システムオーディオコントロール (81 ページ)
- オートジャニルセレクター (82 ページ)
- シーンセレクト (83 ページ)
- オーディオ機器コントロール (83 ページ)
- テレビリモコンからのメニュー操作 (83 ページ)

HDMI 機器制御機能は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

本機は“ブラビアリンク”機能に対応している製品とつなぐことをおすすめします。

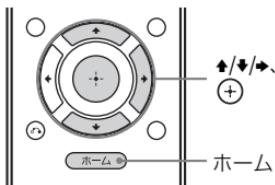
ご注意

- 他社製品をつないだ場合でも、「ワンタッチプレイ」、「システムオーディオコントロール」および「電源オフ連動」機能は使用できます。（他社製品がこれらの機能に対応している必要があります。）ただし、すべての他社製品での動作を保証するものではありません。
- 「シーンセレクト」および「オーディオ機器コントロール」は、ソニー独自の機能です。他社製品をつないでも働きません。

- ・“プラビアリンク”に対応していない機器ではこれらの機能は働きません。
- ・本機のHDMI OUT B端子につないだ機器では、HDMI 機器制御機能は働きません。
- ・一部の機能はMHL接続の場合にも利用することができます（84ページ）。

“プラビアリンク”の準備をする

本機のHDMI 機器制御機能を設定して、個別につないだ機器の電源を入れます。



- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、①を押す。
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 2 「HDMI」を選んで、②を押す。
- 3 「Control for HDMI」を選んで、③を押す。
- 4 「On」を選んで、④を押す。
本機のHDMI 機器制御機能が有効になります。
- 5 ホームを押して、GUI メニューを閉じる。
- 6 つないだ機器の画像が表示されるように、本機とテレビの HDMI 入力を選んで、つないだ機器の HDMI 入力と合わせる。
- 7 つないだ機器のHDMI 機器制御機能をオンに設定にする。
テレビとつないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

- 8 他の機器でもHDMI機器制御機能を使いたいときは、手順6と7をくり返す。**

ご注意

HDMI ケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、上記の手順を行ってください。

ワンタッチプレイ

本機にHDMI 接続した機器で再生を始めると、本機とテレビは下記のように動作します。

本機とテレビ

電源が入る（スタンバイ状態の場合）



適切な HDMI 入力に切り換わる

「Pass Through」を「On」または「Auto」に設定し（100ページ）、本機をスタンバイ状態に設定すると、テレビからのみ音声と映像を出力することができます。

ご注意

- ・つないだ機器から再生する場合は、テレビから一時的に画像と音声が消えます。
- ・「Pass Through」が「On」または「Auto」に設定されているときは、前回テレビのスピーカーから音を出していた場合に、本機の電源が入ります。

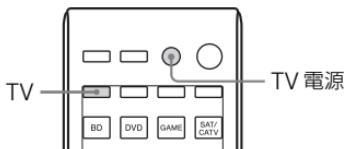
ちょっと一言

テレビのメニューから、ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、DVD プレーヤーなどの接続機器を選ぶこともできます。本機とテレビは自動的に適切な HDMI 入力に切り換わります。

電源オフ連動

テレビのリモコンの電源ボタンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も自動的に切れます。

本機のリモコンでテレビの電源を切ることもできます。



TV を押してから、TV 電源を押す。

テレビ、本機、つないだ機器の電源が切れます。

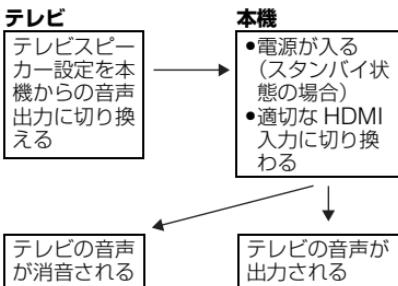
ご注意

- テレビの電源連動機能の設定をオンにしてから、電源オフ連動機能を使用してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- つないだ機器の状態によっては、電源オフ連動機能で機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各接続機器の取扱説明書を参照してください。
- 他社製のテレビで電源オフ連動機能を使用する場合は、テレビの製造会社に応じてリモコンを設定してください。

システムオーディオ コントロール

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しむことができます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。



システムオーディオコントロール機能は以下のようにお使いいただけます。

- テレビの電源が入った状態で、本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、本機につないだスピーカーからテレビの音声がOutputされます。本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーからOutputされます。
- 本機につないだスピーカーからテレビの音声をお楽しみの際は、テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節や消音操作をすることができます。

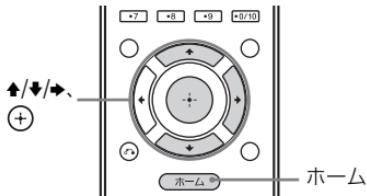
ご注意

- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがありますので、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、HDMI Settingsメニューの「Audio Out」設定は、システムオーディオコントロールの設定に応じて自動的に設定されます（101ページ）。
- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声がOutputされるまでに多少時間がかかることがあります。

オートジャンルセレクター

オートジャンルセレクター機能は、視聴中のデジタル放送の番組情報(EPG 情報)を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます(オートジャンルセレクター機能対応のテレビをお使いの場合のみ)。

オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能がオンに設定されている場合のみ使用することができます。



- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、④を押す。
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 2 「HDMI Settings」を選んで、④を押す。
- 3 「Sound Field」を選んで、④を押す。
 - Auto : デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切りわります。
 - Manual : サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報 (EPG 情報)	オートジャンルセレクターで切り換わる サウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
ミュージック	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ (CS)	Sports
洋画 (CS)	HD-D.C.S.
邦画 (CS)	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ ポップス	Live Concert
海外ロック／ ポップス	Live Concert
クラシック／ オペラ	Concertgebouw Amsterdam
ジャズ／ フュージョン	Jazz Club

詳細ジャンル	サウンドフィールド
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

ご注意

番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることができます。

シーンセレクト

テレビで選んだシーンに応じて、最適な画質とサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます。
操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
シネマ	HD-D.C.S.
スポーツ	Sports
ミュージック	Live Concert
アニメ	A.F.D. Auto
フォト	A.F.D. Auto
ゲーム	A.F.D. Auto
グラフィックス	A.F.D. Auto

ご注意

テレビによっては、サウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

オーディオ機器コントロール

「オーディオ機器コントロール」に対応したテレビをお使いのときは、画面の右側に操作用のウィジェット（子画面）が表示されます。

テレビのリモコンで、入力やサウンドフィールドの切り換えを操作できます。センタースピーカーやアクティブサブウーファーのレベル設定、「Sound Optimizer」（56 ページ）、「Dual Mono」（100 ページ）や「A/V Sync」（99 ページ）の設定もできます。

ご注意

「オーディオ機器コントロール」のご利用には、テレビのプロードバンド接続環境が必要です。

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリモコンを使って本機のメニューを操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

テレビに認識されている本機（AV AMP）を選ぶ。

テレビのリモコンのカーソルキーなどで、本機のメニューを操作できます。

ご注意

- ・本機は「Tuner (AV AMP)」としてテレビに認識されます。
- ・お使いのテレビがリンクメニューに対応している必要があります。
- ・テレビの種類によっては、一部の操作が行えないことがあります。

MHL 対応機器を操作する

MHL ケーブル（別売）で MHL 対応機器をつなぐと、以下の操作を簡単に行うことができます。

- ・ワンタッチプレイ（84 ページ）
- ・テレビリモコンからのメニュー操作（84 ページ）

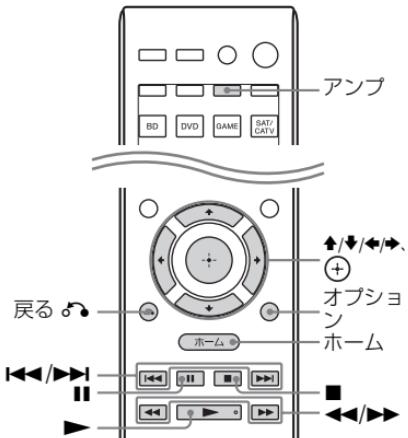
ご注意

- ・本機の HDMI 出力に“プラビアリング”対応テレビが接続されている場合、テレビとの連動操作も可能です。
- ・つないだ MHL 対応機器によっては、これらの機能は働かない場合があります。
- ・この機能は下記の条件を満たしている場合のみ働きます。
 - 本機の電源が入っている。
 - 「Control for HDMI」が「On」に設定されている。
 - MHL 対応機器が MHL ケーブル（別売）で HDMI/MHL (VIDEO 2 IN) 端子につながれている（30 ページ）。

ワンタッチプレイ

お使いの MHL 対応機器を本機につなぎたり、再生したりすると、本機は適切な入力に切り換わります。

テレビリモコンからのメニュー操作



リモコンの $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ 、 \oplus 、戻る \leftarrow 、オプション、ホーム *、 \blacktriangleright 、 II 、 \blacksquare 、 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ 、 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを使って MHL 機器を操作できます。

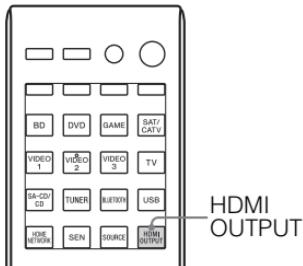
* ホームボタンを長押しすることで、MHL 対応機器のホームメニューを表示させることができます。

ご注意

MHL 対応機器を操作する前に、必ずアンプを押してください。

HDMI 映像信号を出力するモニターを切り換える

HDMI OUT A と HDMI OUT B 端子にモニターを 2 台つないでいる場合は、リモコンの HDMI OUTPUT ボタンを押して 2 台のモニターの出力を切り換えることができます。



- 1 本機の電源を入れて、2 台のモニターをつなぐ。
- 2 HDMI OUTPUT を押す。
ボタンを押すたびに、出力が下記のように切り换わります。
HDMI A → HDMI B → HDMI A + B → HDMI OFF → HDMI A...

ご注意

- 本機の HDMI OUT A 端子と HDMI OUT B 端子につないだそれぞれのモニターが対応している映像フォーマットが異なると、「HDMI A + B」が動かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、「HDMI A + B」が動かない場合があります。

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を切り換える (INPUT MODE)

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り換えたりすることができます。

- 1 入力切り換え用ボタンを押して入力を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまりでも操作できます。

- 2 インプットモードをくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。

選択した音声入力モードが表示窓に表示されます。

- AUTO：デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMI の音声信号が優先されます。

デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビの入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が優先されます。お使いのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。

本機とテレビ両方の HDMI 機器制御設定が有効になっていないと、ARC は動作しません。

- COAX：デジタル音声信号入力を COAXIAL 端子に指定します。

- OPT：デジタル音声信号入力を OPTICAL 端子に指定します。

- ANALOG：アナログ音声信号
入力を AUDIO IN (L/R) 端子に
指定します。

ご注意

- 入力によっては、表示窓に「-----」が表
示され、他のモードを選ぶことができま
せん。
- 「2ch Analog Direct」を使っているとき
は、音声入力は「ANALOG」に設定され
ます。他のモードは選べません。

他の映像／音声入力 端子を使う (Input Assign)

他の入力端子に映像信号と音声信号の
両方またはいずれか一方を再割り當て
することができます。

入力端子の割り當てを変更したあと
は、入力切り換え用ボタン（または本
機の INPUT SELECTOR つまみ）で
つないでいる機器を選ぶことができます。

コンポーネント映像／デジタ ル音声入力割り當て

端子の初期設定がつないでいる機器に
対応していない場合は、
COMPONENT VIDEO 端子と
DIGITAL 端子の入力端子の割り當て
を他の入力に変更することができます。

例：

- DVD プレーヤーを OPTICAL IN 1
(SAT/CATV) 端子および
COMPONENT VIDEO IN 1 (SAT/
CATV) 端子につないでいるとき
- OPTICAL IN 1 (SAT/CATV) 端子
を「DVD」に割り当てる。
- COMPONENT VIDEO IN 1 (SAT/
CATV) 端子を「DVD」に割り当
てる。

- 1 ホームメニューから「Settings」
を選んで、⊕を押す。
テレビ画面に Settings メニュー
リストが表示されます。
- 2 「Input」を選んで、⊕を押す。
- 3 割り當てたい入力名を選んで、⊕を
押す。
- 4 ↪/↔ をくり返し押して
「COMPONENT」または「OPT/
COAX」を選ぶ。
- 5 ↑/↓ をくり返し押して割り當てたい
端子を選び、⊕を押す。

入力名	BD	DVD	GAME	SAT/ CATV	VIDEO 1	VIDEO 2	VIDEO 3	SA-CD/ CD
割り当て可能な 映像入力端子	IN2	○	○*	○	○	○	○	○
	IN1	○	○	○	○*	○	○	○
	None	○*	○	○*	○	○*	○*	○*
割り当て可能な 音声入力端子	OPT 2	○	○	○	○	○	○	○
	OPT 1	○	○	○	○*	○	○	○
	COAX	○	○*	○	○	○	○	○
None	○*	○	○*	○	○*	○*	○*	○*

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てるとき、「INPUT MODE」設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。

バイアンプ接続する

- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、⊕を押す。
テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。
- 2 「Speaker」を選んで、⊕を押す。
- 3 「Speaker Connection」を選んで、⊕を押す。
- 4 サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使わないスピーカーパターンを選び、⊕を押す。
- 5 「バイアンプスピーカー」を選んで、⊕を押す。
SPEAKERS FRONT A 端子から出力される信号と同じ信号を SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/ FRONT B 端子から出力できます。
- 6 ⊕を押して選択を保存する。

メニューを閉じるには

ホームを押す。

ご注意

- 自動音場補正を実行する前に「バイアンプスピーカー」を選んでください。
- 「バイアンプスピーカー」を選んでいるときは、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーのスピーカーレベルと距離の設定が無効になり、フロントスピーカーの設定が使われます。

マルチゾーン機能を使う

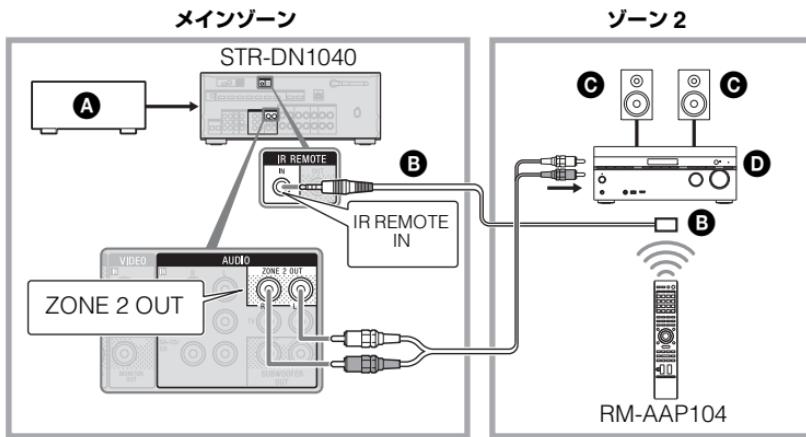
メインゾーン以外のゾーンで、本機につかないだ機器からの音声をお楽しみいただけます。例えば、メインゾーンでは DVD を視聴し、ゾーン 2 では CD を聞くことができます。IR リピーター（別売）を使うと、メインゾーンの機器とゾーン 2 のソニーレシーバーの両方をゾーン 2 から操作できます。

ゾーン 2 から本機を操作するには

IR リピーター（別売）を IR REMOTE 端子につなぐと、本機にリモコンを向けなくても本機を操作できます。リモコンの信号が届かない場所に本機を設置する場合は、IR リピーターを使ってください。

ゾーン 2 接続を行う

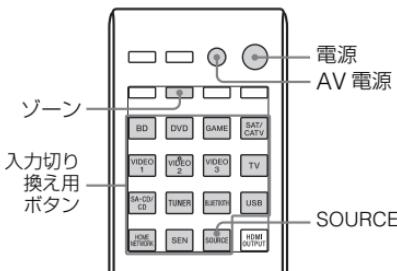
本機と他のアンプを使ってゾーン 2 でスピーカーから音声を出力します。



- A** オーディオ機器
- B** IR リピーター（別売）
- C** スピーカー
- D** ソニーアンプ／レシーバー

ゾーン 2 から本機を操作する

IR リピーターを接続してゾーン 2 から本機を操作する方法を説明しています。IR リピーターをつないでいないときは、メインゾーンで本機を使用してください。



- 1 メインのレシーバー（本機）の電源を入れる。**
- 2 ゾーン 2 のレシーバーの電源を入れる。**
- 3 ゾーンを押す。**
リモコンがゾーン 2 に切り換わります。
- 4 電源を押す。**
ゾーン機能が有効になります。
- 5 入力切り換え用ボタンを押してソースを選ぶ。**
- 6 ゾーン 2 のレシーバーを使って、適切な音量に調節する。**

ゾーン 2 でできる操作

入力	ゾーン 2 ¹⁾
VIDEO 3	—
TV	—
SA-CD/CD	○
TUNER ³⁾	○
BLUETOOTH	—
USB	—
HOME NETWORK	—
SEN	—
SOURCE	○

1)ゾーン 2 では、アナログ音声信号のみを出力します。

2)SOURCE が選ばれているときのみ、メインゾーンの現在の入力信号が出力されます。

3)メインゾーンとゾーン 2 から「FM」または「AM」のいずれかを選ぶことができます。一方のゾーンで別の項目が選択されても、最後に選んだ項目が優先的に設定されます。

ゾーン 2 の操作を終了するには

ゾーンを押してから、電源を押す。

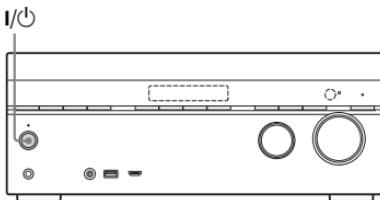
ちょっと一言

- 本機がスタンバイ状態（リモコンの電源を押して本機の電源を切った状態）でも、ゾーン 2 のレシーバーの電源は切れません。
- 本機がスタンバイ状態で、ゾーン 2 のレシーバーの電源が入ると、本体前面の I/O ランプがオレンジ色に点灯します。
- AirPlay 機能はメインゾーンでのみ有効です。

入力	ゾーン 2 ¹⁾
BD	—
DVD	—
GAME	—
SAT/CATV ²⁾	○
VIDEO 1 ²⁾	○
VIDEO 2	—

お買い上げ時の設定に戻す

下記の手順にしたがって、本機に記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。
初めて本機をお使いになるときも、下記の手順で本機を初期化してください。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。



- I/O** を押して本機の電源を切る。
- I/O** を5秒間押し続ける。
表示窓に「CLEARING」が表示されてしまふとすると、表示が「CLEARED!」に変わります。
初期設定から変更、または調整された設定はすべて初期化されます。

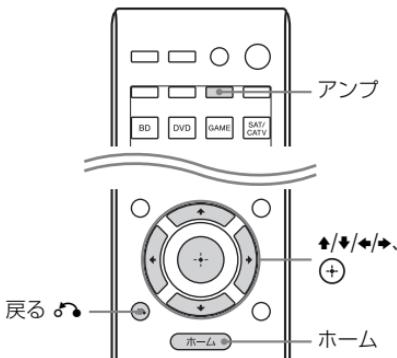
ご注意

メモリーが完全に消去されるのに数秒かかります。表示窓に「CLEARED!」が表示されるまで、電源を切らないでください。

設定を調節する

Settings メニューを使う

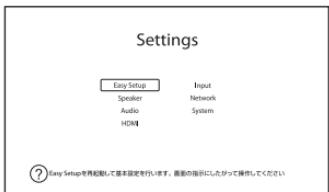
Settings メニューを使って、スピーカー、サラウンド効果など、さまざまな設定を調節できます。



- アンプを押してから、ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。



- 2 「Settings」を選び、⊕を押してメニュー モードに入る。**
テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。



- 3 お好みのメニュー項目を選んで、
⊕を押す。**
例：「Speaker」を選んだ場合

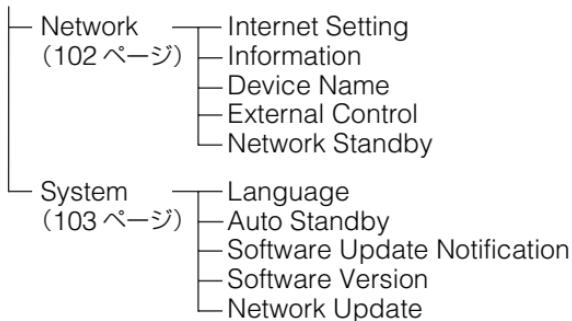


- 4 お好みのパラメーターを選んで、
⊕を押す。**

前の画面に戻るには
戻る  を押す。
メニューを閉じるには
ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

Settings メニューリスト

- Settings
 - Easy Setup
(94 ページ)
 - Speaker
(94 ページ)
 - Auto Calibration
 - Auto Phase Matching
 - Auto Calibration Type
 - Full Flat
 - Engineer
 - Front Reference
 - Off
 - Speaker Connection
 - Level/Distance/Size
 - Crossover Frequency
 - Test Tone
 - Center Speaker Lift Up
 - Distance Unit
 - Audio
(98 ページ)
 - Digital Legato Linear
 - Sound Optimizer
 - Equalizer
 - Sound Field
 - A/V Sync
 - Advanced Auto Volume
 - Dual Mono
 - Dynamic Range Compressor
 - HDMI
(100 ページ)
 - 4K Scaling
 - Control for HDMI
 - Pass Through
 - Audio Out
 - Sound Field
 - Subwoofer Level
 - Fast View
 - Input
(101 ページ)
 - Remote
 - Icon
 - Name
 - Watch/Listen
 - HDMI
 - COMPONENT
 - OPT/COAX
 - COMPOSITE
 - AUDIO



■ ご注意

テレビ画面に表示されるメニューのパラメーターは、現在の設定や選ばれているアイコンの状態によって異なります。

かんたん設定 (Easy Setup)

Easy Setup（かんたん設定）を再起動して基本設定を行います。画面の指示にしたがって操作してください（42 ページ）。

スピーカー設定 (Speaker Settings)

それぞれのスピーカーを手動設定できます。
自動音場補正完了後に、スピーカーレベルを調節することもできます。

■ ご注意

スピーカー設定は、現在の視聴位置のみに適用されます。

■ Auto Calibration

視聴位置から自動音場補正を実行します。

- 1 テレビ画面の指示にしたがって操作し、 \oplus を押して、「開始」を選ぶ。
5 秒後に測定が始まります。
測定が完了するのにおよそ 30 秒かかり、テスト音が鳴り続けます。
測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り換わります。

■ ご注意

画面にエラーコードまたは警告メッセージが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（95 ページ）をご覧ください。

- 2 お好みの項目を選んで、 \oplus を押す。
 - **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
 - **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
 - **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。
- 3 **測定結果を保存する。**
手順 2 で「保存」を選択します。

ご注意

スピーカーの配置を変えた場合、サラウンド音声を楽しむには、自動音場補正をもう一度実行することをおすすめします。

ちょっと一言

- 距離を表示する単位は、Speaker Settingsメニューの「Distance Unit」で変更することができます（98ページ）。
- スピーカーのサイズ（「Large」／「Small」）は、低周波特性によって決まります。測定結果は、測定用マイクとスピーカーの位置、および測定を行う部屋の形状によって変わります。測定結果を適用することをおすすめします。Speaker Settingsメニューで設定を変えることもできます。まず測定結果を保存してから、設定を変更するようにしてください。

自動音場補正の結果を確認するには

下記の手順にしたがって、「Auto Calibration」（95ページ）で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

- 「リトライ」を選んで、⊕を押す。
- 「自動音場補正」の手順1から3をくり返す（94ページ）。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、「Ok」を選びます。

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧**表示と説明****エラー 32****エラー 33**

スピーカーが検出されない、または正しくつながれていません。

- フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが1本しかつながっていません。
- 左右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。
- サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドパックスピーカーまたはフロントハイスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーを SPEAKERS SURROUND 端子につないでください。
- サラウンドパックスピーカーが SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B R 端子にのみつながっています。サラウンドパックスピーカーを1つだけつなぐときは、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B L 端子につないでください。

- フロントハイスピーカーの左右いずれかがつながっていません。

測定用マイクがつながっていません。測定用マイクが正しくつながれていることを確認して、自動音場補正をもう一度実行してください。

測定用マイクが正しくつながっているにもかかわらず、エラーコードが表示される場合は、測定用マイクのケーブルが損傷している可能性があります。

警告 40

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。

表示と説明**エラー 30**

本機のPHONES端子にヘッドフォンがつながっています。ヘッドホンを取りはずし、もう一度自動音場補正を実行してください。

エラー 31

SPEAKERSがオフに設定されています。スピーカー設定を変更し、もう一度自動音場補正を実行してください。

表示と説明

警告 41

警告 42

測定用マイクからの入力が過大です。

- スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

警告 43

アクティブサブウーファーの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のままで本機を使用できます。

■ A.P.M. (Automatic Phase Matching (自動位相マッチング))

DCAC 機能の A.P.M. 機能を設定できます (36 ページ)。

スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

- Auto : A.P.M. 機能のオン／オフが自動的に切り換わります。
- Off : A.P.M. 機能は働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 「2ch Analog Direct」が使われているとき
 - ヘッドホンがつながれているとき
 - 自動音場補正を行っていない場合
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

■ Auto Calibration Type

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。

- Full Flat : 各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- Engineer : 「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。

- Front Reference : すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。

- Off : 自動音場補正のイコライザーをオフにします。

■ Speaker Connection

スピーカーパターンを選択し、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子への割り当てを設定できます。

- 好みのスピーカーパターンを選び、 \oplus を押す。
- SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを設定する。
 - バイアンプスピーカー
 - フロント B スピーカー
 - 割り当てない

ご注意

スピーカーパターンがサラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーなしの設定になっているときのみ、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の割り当てを設定できます。

■ Level/Distance/Size

選んだスピーカーのレベル、距離、サイズを調節できます。

スピーカーレベルを調整するには

各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）のレベルを調整できます。

- レベルを調節したいスピーカーを画面上で選び、 \oplus を押す。
- 「Level」を選び、 \uparrow/\downarrow を押してレベルを調節する。

レベルは -10.0 dB から +10.0 dB まで 0.5 dB 単位で調節できます。

ご注意

- 音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settingsメニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブサブwooferから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブwooferから音が出ます。
- デジタル入力信号にLFE信号が含まれている。
 - フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されている。
 - 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIix Movie」、「PLIix Music」、「PLIiz Movie」、「PLIiz Music」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」が選択されている。

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定するには

視聴位置から各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブwoofer）までの距離を調節できます。

1 視聴位置からの距離を設定したいスピーカーを画面上で選び、④を押す。

2 「Distance」を選び、↑/↓を押して距離を調節する。

距離を1m0cmから10m0cmまで1cm単位で調節できます。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、設定できないパラメーターがあります。
- 「2chAnalog Direct」が使われているときは、この機能は使えません。

各スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）のサイズを調整できます。

1 サイズを調節したいスピーカーを画面上で選び、④を押す。

2 「Size」を選び、↑/↓を押してサイズを調節する。

• Large：低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、「Large」を選びます。通常は「Large」を選びます。

• Small：マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分に感じるときは、「Small」を選んで、低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブwooferまたは「Large」に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

「2chAnalog Direct」が使われているときは、この機能は使えません。

ちょっと一言

- 各スピーカーの「Large」および「Small」の設定によって、内部のサウンドプロセッサーがチャンネルの低音信号をカットするかどうかが決まります。チャンネルからの低音がカットされると、低音リダイレクト回路により、該当する低音信号がアクティブサブwooferまたは「Large」に設定された他のスピーカーから再生されます。しかし、低音には一定の指向性があるため、できればカットしたくないものです。したがって、小型のスピーカーを使用するときでも、低音を出力したい場合は、「Large」に設定することができます。逆に、大きなスピーカーを使用していても、できればそのスピーカーから低音を出力たくない場合は、「Small」に設定してください。

全体の音量が小さい場合は、すべてのスピーカーを「Large」に設定してください。低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることができます。

- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。
- アクティブサブwooferを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。
- ヘッドフォンがつながれているときは、サイズや距離を設定できません。

■ Crossover Frequency (スピーカーのクロスオーバー周波数)

Speaker Settings メニューでスピーカーサイズが「Small」に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

- 1 クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
- 2 **↑/↓** を押して、クロスオーバー周波数を設定する。

ご注意

- ヘッドホンがつながれているときは、この機能は働きません。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

■ Test Tone

「Test Tone」画面でテストトーンの種類を選べます。

ちょっと一言

- すべてのスピーカーのレベルを同時に調整するには、音量 **+/-** を押してください。本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。
- 調整中は、テレビ画面に調整した値が表示されます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。

- 1 「Test Tone」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 パラメーターを調節し、**⊕**を押す。

- Off
- Auto : テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
- L, C, R, SR, SL, SB*, SBL, SBR, FHL, FHR, SW: テストトーンを出力するスピーカーを選べます。
* サラウンドバックスピーカーが 1 つのみつながっているときは、「SB」が表示されます。

3 スピーカーレベルを調節し、**⊕**を押す。

■ Center Speaker Lift Up

フロントハイスピーカーを使って、センタースピーカーの音を画面内の適切な高さまで持ちあげることができます。これによって、違和感のない自然な表現を楽しむことができます。

- 1 – 10
- Off

ご注意

以下の場合、この機能は働きません。
- ヘッドホンがつながれているとき
- センタースピーカーがないとき
- フロントハイスピーカーがないとき
- 「2ch Stereo」、「2ch Analog Direct」および「Multi Stereo」サウンドフィールドが使われているとき
- 音楽用のサウンドフィールドが使われているとき

■ Distance Unit

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

- feet : 距離はフィート単位で表示されます。
- meter : 距離はメートル単位で表示されます。

音声設定 (Audio Settings)

お好みに合わせて音声の設定を調節できます。

■ D.L.L. (Digital Legato Linear)

D.L.L. 機能は、低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

- Auto 1 : 非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。

- Auto 2：リニア PCM 信号に対しても、非可逆圧縮された音声 フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。
- Off

ご注意

- USB 機器またはホームネットワークのコンテンツによっては機能しません。
- 「2ch Stereo」、「A.F.D. Auto」、「Multi Stereo」または「Headphone (2ch)」が選ばれているときは、機能します。ただし、以下の場合は、この機能は働きません。
 - 「FM TUNER」または「AM TUNER」入力が選ばれている。
 - 44.1 kHz 以外のサンプリング周波数のリニア PCM 信号を受信している。
 - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio 信号を受信している。
 - ネットワーク機能中で、44.1 kHz 以外のサンプリング周波数の信号を受信している。

■ Sound Optimizer

サウンドオプティマイザー機能を使えます。詳しくは、「Sound Optimizer 機能を使う」(56 ページ) をご覧ください。

- Normal
- Low
- Off

■ Equalizer

各スピーカーの低域および高域レベルを調節できます。詳しくは、「イコライザを調整する」(56 ページ) をご覧ください。

■ Sound Field

入力信号に適用するサウンド効果を選べます。詳しくは、「音響効果を楽しむ」(52 ページ) をご覧ください。

■ A/V Sync (音声と映像出力の同期)

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。

大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。

- HDMI Auto：HDMI 接続でモニターをつないでいるときは、テレビ側の情報をもとに、映像と音声のずれを自動的に調節します。モニターが A/V Sync 機能に対応している場合のみ機能します。
- 0 ms – 300 ms：遅れを 0 ms ~ 300 ms の範囲で 10 ms 単位で調節できます。

ご注意

- 「2ch Analog Direct」が使われているときは、この機能は使えません。
- 遅延時間は、音声フォーマット、サウンドフィールド、スピーカーパターン、スピーカーまでの距離などの設定によって変わることがあります。

■ Advanced Auto Volume

本機は、つないだ機器から出力されるコンテンツや入力信号に応じて、音量を自動で調整できます。

例えば、テレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときに便利です。

- On
- Off

ご注意

- Advanced Auto Volume 機能をオン／オフするときは、必ず事前に音量下げてください。
- この機能は、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM、または AAC 信号が入力されたときのみ働くため、他のフォーマットに切り換えると、音声が急に大きくなることがあります。
- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 48 kHz より大きいサンプリング周波数のリニア PCM 信号を受信している。
 - Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS 96/24 DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio 信号を受信している。
 - 「2ch Analog Direct」を使っていて。

■ Dual Mono (デジタル放送の言語選択)

デジタル放送で二重音声が視聴可能な場合に、好みの言語を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC 音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

- Main : 主音声が出力されます。
- Sub : 副音声が出力されます。
- Main/Sub : フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声が同時に出力されます。

■ Dynamic Range Compressor (ダイナミックレンジの圧縮)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音源でのみ働きます。

- Auto : ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- On : ダイナミックレンジはレコーディングエンジニアが意図したとおりに圧縮されます。
- Off : ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

HDMI 設定 (HDMI Settings)

HDMI 端子につないだ機器に必要な設定を調節することができます。

■ 4K Scaling

映像信号を 4K にアップコンバートして、本機の HDMI OUT 端子から出力できます。

- Auto : 4K 対応テレビにつないでいる場合は、自動的に 4K HDMI アップスケールして出力できます。
- Off : この機能は働きません。

ご注意

この機能は、映像信号を VIDEO IN、COMPONENT VIDEO IN および HDMI IN 端子の信号に対して機能します。
(HDMI 映像入力信号の場合
1080p@23.98/24Hz のみに対して機能します)

■ Control for HDMI

HDMI 機器制御機能のオン／オフを切り換えることができます。詳しくは、「「プラビアリンク」の準備をする」(80 ページ) をご覧ください。

- On
- Off

ご注意

- 「Control for HDMI」を「On」に設定すると、「Audio Out」が自動的に変わることがあります。
- 本機がスタンバイ状態で、「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン/スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。

■ Pass Through

本機がスタンバイ状態でも HDMI 信号をテレビに出力できるようにします。

- Auto : 本機がスタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、本機の HDMI OUT 端子から HDMI 信号が output されます。“プラビアリンク”対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定がおすすめです。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。
- On : 本機がスタンバイ状態でも、本機の HDMI OUT 端子から HDMI 信号が output され続けます。
- Off : スタンバイ状態時には本機は HDMI 信号を出力しません。つないだ機器のソースをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意

- 本機がスタンバイ状態で、「Pass Through」が「On」または「Auto」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン/スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。
- 「Auto」設定時は、「On」に設定した場合よりも、映像と音声がテレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。

■ Audio Out

本機と HDMI 接続した再生機器からの HDMI 音声信号を設定できます。

- **AMP**：再生機器からの HDMI 音声信号は本機につないだスピーカーにのみ出力されます。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。

ご注意

「Audio Out」が「AMP」に設定されているときは、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。

- **TV + AMP**：音声を本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

ご注意

- 再生機器の音質は、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの音質によります。テレビにステレオスピーカーがある場合は、マルチチャンネル音源を再生するときでも、本機からもテレビと同じステレオで音声が出力されます。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、「AMP」に設定してください。

■ Sound Field

デジタル放送のテレビ番組を視聴するときに、オートジャンルセレクターを設定できます。詳しくは、「オートジャンルセレクター」(82 ページ) をご覧ください。

■ Subwoofer Level

PCM 信号が HDMI 接続で入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを 0 dB または +10 dB に設定できます。HDMI 入力端子に個別に割り当てられている各入力のレベルを設定できます。

- **Auto**：オーディオストリームに応じて、レベルを 0 dB または +10 dB に自動で設定します。
- **+10 dB**
- **0 dB**

■ Fast View

Fast View の操作を設定できます。HDMI BD、DVD、GAME、VIDEO 1 および VIDEO 2 入力は、Fast View 機能に対応しています。

- **Auto**：通常よりも HDMI 入力を素早く選べます。
- **Off**：Fast View と Preview for HDMI 機能を無効にします。

ご注意

「Off」を選択すると、入力切換から画像が出来るまでの時間がかかるようになりますが、選択しない HDMI 入力の信号を受けなくなるため、音質的に有利になります。

**入力設定
(Input Settings)**

本機と他機器の接続に関わる設定を調節できます。

■ Remote

入力を選択できます。

- BD、DVD、GAME、SAT/CATV、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TV、SA-CD/CD

■ Icon

Watch/Listen メニューに表示するアイコンを設定します。

■ Name

Watch/Listen メニューに表示する名前を設定できます。

各入力に最大 8 文字で名前を入力して表示します。

端子ではなく、接続機器名が表示されるように登録しておくと便利です。

1 Settings メニューから「Input」を選んで、 \oplus を押す。

2 名前をつけたい入力を選んで、 \oplus を押す。

3 「Name」を選んで、 \oplus を押す。

オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。

4 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。

5 「Enter」を選んで、 \oplus を押す。

入力した名前が登録されます。

ご注意

テレビ画面に表示できても表示窓には表示できない文字があります。

■ Watch/Listen

入力を Watch メニュー、Listen メニューのどちらに表示させるかを設定します。

- W : 入力が Watch メニューに表示されます。

- L : 入力が Listen メニューに表示されます。

- W/L : 入力が Watch メニューと Listen メニューの両方に表示されます。

■ HDMI

■ COMPONENT

各入力に割り当てられた映像入力端子を設定できます。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う (Input Assign)」(86 ページ) をご覧ください。

- IN2

- IN1

- None

■ OPT/COAX

各入力に割り当てられた音声入力端子を設定できます。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う (Input Assign)」(86 ページ) をご覧ください。

- OPT 2

- OPT 1

- COAX

- None

■ COMPOSITE

■ AUDIO

ネットワーク設定 (Network Settings)

ネットワークの設定を調節できます。ホームネットワークまたは SEN 機能が選ばれているときのみ、Network Settings メニューが有効です。

■ Internet Setting

ネットワークの設定をします。詳しくは、「本機のネットワーク設定を行う」(38 ページ) をご覧ください。

- Wired

- Wireless

■ Information

ネットワーク情報を確認できます。「Connection Type」、「Connection Status」、「IP Address Setting」、「IP Address」、「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「DNS Settings」、「Primary DNS」、「Secondary DNS」および「MAC Address」の設定 * を確認できます。

* 設定中に確認できる設定項目は、ネットワーク環境と接続方式によって異なります。

■ Device Name

ホームネットワーク上で他の機器から見分けがつきやすいように、30文字までの機器名を本機に割り当てることができます。

- 1 「Device Name」を選んで、 \oplus を押す。

オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。

- 2 $\leftrightarrow/\downarrow/\uparrow/\oplus$ と \oplus を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。

- 3 「Enter」を選んで、 \oplus を押す。

入力した名前が登録されます。

ちょっと一言

お買い上げ時の機器名は「STR-DN1040 *****」に設定されています。

***** は本機の MAC アドレスの下 6 桁です。

■ External Control

メインテナансやサービスの操作モードのオン／オフを切り替えます。

- On
- Off

■ Network Standby

「Network Standby」モードが「On」に設定されれば、本機はネットワーク上で常に接続および操作できます。

- On：ネットワーク機能は本機がスタンバイ状態のときでも働き、ネットワーク上で制御すると操作を再開します。
- Off：本機がスタンバイ状態のときは、ネットワーク機能はオフになります。電源を入れ直すと、操作の開始までに時間がかかります。

ご注意

本機がスタンバイ状態で、「Network Standby」が「On」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン／スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。

システム設定 (System Settings)

本機の設定を調節できます。

■ Language

画面のメッセージに使用する言語を選べます。

- 日本語
- English : 英語
- Español : スペイン語
- Français : フランス語
- Deutsch : ドイツ語

■ Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機が自動的にスタンバイ状態に切り換わるように設定することができます。

- On：約 20 分後にスタンバイ状態に切り換えます。
- Off：スタンバイ状態に切り換えません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 「FM TUNER」、「AM TUNER」、「HOME NETWORK」または「SEN」入力が選ばれているとき
 - AirPlay 機能が使われているとき
 - 本機のソフトウェアのアップデート中
- オートスタンバイ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

■ Software Update Notification

新しいバージョンのソフトウェアがあるときにテレビ画面に情報を表示するかどうかを設定できます。

- On
- Off

ご注意

以下の場合は新しいソフトウェアバージョンの情報は表示されません。

- 最新バージョンがすでに使用されている場合
- 本機がネットワークからデータを取得できない場合

■ Software Version

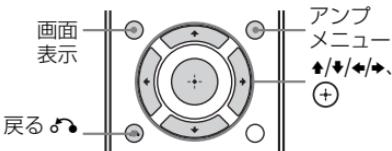
本機のソフトウェアバージョンを確認できます。

■ Network Update

本機のソフトウェアを最新バージョンにアップデートできます。詳しくは、「ソフトウェアをアップデートする」(72 ページ) をご覧ください。

GUI を使わずに操作する

テレビが本機につながっていないなくても、表示窓の表示を見ながら本機を操作できます。



表示窓のメニューを使う

1 アンプメニューを押す。

本機の表示窓にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して、メニューを選び、+を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、パラメーターを選び、+を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、お好みの設定を選び、+を押す。

前の表示に戻るには

◆ または戻る を押す。

メニューを閉じるには

アンプメニューを押す。

ご注意

パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、あるいは固定／変更できないことを意味します。

設定メニュー一覧

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。メニューからの手順について詳しくは、104 ページをご覧ください。

メニュー 【表示】	パラメーター 【表示】	設定
自動音場補正設定 [<AUTO CAL>]	自動音場補正開始 [A.CAL START]	
	自動音場補正の種類 ^{a)} [CAL TYPE]	FULL FLAT、ENGINEER、 FRONT REF、OFF
	自動位相マッチング ^{a)} [A.P.M.]	A.P.M. AUTO、A.P.M. OFF
レベル設定 [<LEVEL>]	テストトーン ^{b)} [TEST TONE]	OFF、AUTO ■■■ ^{c)} 、 FIX ■■■ ^{c)}
	フロントスピーカー（左） レベル ^{b)} [FL LEVEL]	FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	フロントスピーカー (右) レベル ^{b)} [FR LEVEL]	FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	センタースピーカーレベル ^{b)} [CNT LEVEL]	CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドスピーカー (左) レベル ^{b)} [SL LEVEL]	SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドスピーカー (右) レベル ^{b)} [SR LEVEL]	SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー ^{b)} レベル [SB LEVEL]	SB -10.0 dB ~ SB +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー ^{b)} (左) レベル [SBL LEVEL]	SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー ^{b)} (右) レベル [SBR LEVEL]	SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	フロントハイスピーカー (左) レベル ^{b)} [LH LEVEL]	LH -10.0 dB ~ LH +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	フロントハイスピーカー (右) レベル ^{b)} [RH LEVEL]	RH -10.0 dB ~ RH +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	アクティブサブウーファー ^{b)} レベル [SW LEVEL]	SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB 単位)
スピーカー設定 [<SPEAKER>]	スピーカーパターン [SP PATTERN]	5/2.1 ~ 2/0 (20 とおり)
	センタースピーカー ^{b)} リフトアップ [CNT LIFT]	LIFT 1 ~ LIFT 10、LIFT OFF
	フロントスピーカーサイズ ^{b)} [FRT SIZE]	LARGE、SMALL
	センタースピーカーサイズ ^{b)} [CNT SIZE]	LARGE、SMALL
	サラウンドスピーカーサイズ ^{b)} [SUR SIZE]	LARGE、SMALL
	フロントハイスピーカー ^{b)} サイズ [FH SIZE]	LARGE、SMALL

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	サラウンドバックスピーカー 割り当て ^{d)} [SB ASSIGN]	SPK B、BI-AMP、OFF
	フロントスピーカー（左） までの距離 ^{b)} [FL DIST.]	FL 1.00 m ~ FL 10.00 m (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントスピーカー（右） までの距離 ^{b)} [FR DIST.]	FR 1.00 m ~ FR 10.00 m (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	センタースピーカーまでの 距離 ^{b)} [CNT DIST.]	CNT 1.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー（左） までの距離 ^{b)} [SL DIST.]	SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー（右） までの距離 ^{b)} [SR DIST.]	SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー ^{c)} までの距離 ^{b)} [SB DIST.]	SB 1.00 m ~ SB 10.00 m (SB 3'3" ~ SB 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー ^{c)} (左) までの距離 ^{b)} [SBL DIST.]	SBL 1.00 m ~ SBL 10.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー ^{c)} (右) までの距離 ^{b)} [SBR DIST.]	SBR 1.00 m ~ SBR 10.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー（左） までの距離 ^{b)} [LH DIST.]	LH 1.00 m ~ LH 10.00 m (LH 3'3" ~ LH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー（右） までの距離 ^{b)} [RH DIST.]	RH 1.00 m ~ RH 10.00 m (RH 3'3" ~ RH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	アクティブサブウーファー ^{c)} までの距離 ^{b)} [SW DIST.]	SW 1.00 m ~ SW 10.00 m (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	距離の単位 [DIST. UNIT]	FEET、METER
	フロントスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [FRT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	センタースピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [CNT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	サラウンドスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [SUR CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	フロントハイスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [FH CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
入力設定 [<INPUT>]	入力モード [INPUT MODE]	AUTO、OPT、COAX、 ANALOG
	入力に名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、Input Settings メニューの「Name」を ご覧ください (102 ページ)。
	デジタル音声入力の割り当て [A. ASSIGN]	OPT 1、OPT 2、COAX、 NONE
	コンポーネント映像入力の割り 当て [V. ASSIGN]	COMP 1、COMP 2、NONE
サラウンド設定 [<SURROUND>]	エフェクトレベル ^{f)} [HD-D.C.S. TYP]	DYNAMIC、THEATER、 STUDIO
EQ 設定 [<EQ>]	フロントスピーカーの低域 レベル [FRT BASS]	FRT B. -10 dB ~ FRT B. +10 dB (1 dB 単位)
	フロントスピーカーの高域 レベル [FRT TREBLE]	FRT T. -10 dB ~ FRT T. +10 dB (1 dB 単位)
	センタースピーカーの低域 レベル [CNT BASS]	CNT B. -10 dB ~ CNT B. +10 dB (1 dB 単位)
	センタースピーカーの高域 レベル [CNT TREBLE]	CNT T. -10 dB ~ CNT T. +10 dB (1 dB 単位)
	サラウンドスピーカーの低域 レベル [SUR BASS]	SUR B. -10 dB ~ SUR B. +10 dB (1 dB 単位)
	サラウンドスピーカーの高域 レベル [SUR TREBLE]	SUR T. -10 dB ~ SUR T. +10 dB (1 dB 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	フロントハイスピーカーの 低域レベル [FH BASS]	FH B. -10 dB ~ FH B. +10 dB (1 dB 単位)
	フロントハイスピーカーの 高域レベル [FH TREBLE]	FH T. -10 dB ~ FH T. +10 dB (1 dB 単位)
チューナー設定 [<TUNER>]	FM 放送局の受信モード [FM MODE]	STEREO、MONO
	プリセットした放送局に 名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「プリセットした放 送局に名前を付けるには (Name Input)」(52 ページ) をご覧ください。
音声設定 [<AUDIO>]	Digital Legato Linear [D.L.L.]	D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF
	Sound Optimizer [OPTIMIZER]	OFF、LOW、NORMAL
	音声と映像出力の同期 [A/V SYNC]	HDMI AUTO、 0 ms ~ 300 ms (10 ms 単位)
	Advanced Auto Volume [AUTO VOL]	A. VOL ON、A. VOL OFF
	デジタル放送の言語選択 [DUAL MONO]	MAIN/SUB、MAIN、SUB
	ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]	COMP. ON、COMP. AUTO、 COMP. OFF
HDMI 設定 [<HDMI>]	4K アップスケール [4K SCALING]	AUTO、OFF
	HDMI 機器制御 [CTRL: HDMI]	CTRL ON、CTRL OFF
	Pass Through [PASS THRU]	ON、AUTO、OFF
	音声出力 [AUDIO OUT]	AMP、TV+AMP
	サウンドフィールド [SOUND FIELD]	AUTO、MANUAL
	HDMI アクティブ サブウーファーレベル [SW LEVEL]	SW AUTO、SW +10 dB、 SW 0 dB
	ファストビュー [FAST VIEW]	AUTO、OFF

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
Bluetooth 設定 [<BT>]	Bluetooth スタンバイ モード ^{g)} [BT STANDBY]	STBY ON、STBY OFF
	Bluetooth AAC [BT AAC]	AAC ON、AAC OFF
システム設定 [<SYSTEM>]	ネットワークスタンバイ [NET STBY]	STBY ON、STBY OFF
	オートスタンバイモード [AUTO STBY]	STBY ON、STBY OFF
	バージョン表示 [VER. x.xxx] ^{h)}	

- a)自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選ぶことができます。
- b)スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。
- c)■■■にはスピーカーチャンネルが入ります (FL, FR, CNT, SL, SR, SB, SBL, SBR, LH, RH, SW)。
- d)サラウンドパックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの「SP PATTERN」に設定していないときは、このパラメーターのみを選べます (96 ページ)。
- e)スピーカーが「SMALL」に設定されているときは、このパラメーターのみ選べます。
- f)サウンドフィールドを「HD-D.C.S.」にしているときは、このパラメーターのみ選べます。
- g)Bluetooth 機器がペアリングされているときは、このパラメーターのみ選べます。
- h)x.xxx にはソフトウェアのバージョンナンバーが入ります。

表示窓で情報を確認するには

表示窓で、サウンドフィールドなど本機のさまざまな設定内容を確認できます。

- 1 情報を確認したい入力を選ぶ。
- 2 アンプを押したあと、画面表示をくり返し押す。

画面表示ボタンを押すたびに表示が次のように切り換わります。

入力のインデックス名¹⁾ → 選択した入力 → 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル → ストリーム情報³⁾

FM および AM ラジオを視聴するときは

プリセット放送局名¹⁾ → 周波数 → 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル

1) インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。

空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

2) ピュアダイレクト機能が働いているときは、「PURE.DIRECT」が表示されます。

3) ストリーム情報は表示されない場合があります。

ご注意

言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

ちょっと一言

本機の DISPLAY からも情報を確認できます。

リモコンを使う

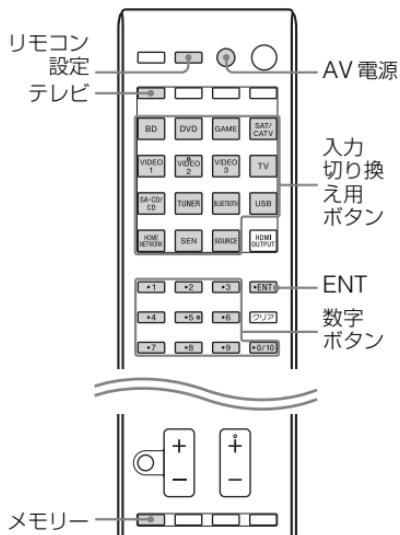
リモコンを設定する

本機につないだ機器に合わせてリモコンをカスタマイズできます。リモコンを設定して、初期設定のままで操作できないソニー製の機器や他社製の機器も操作できます。

設定の際に、下記をご注意ください。

- TUNER、BLUETOOTH、USB、HOME NETWORK、SEN および SOURCE 入力切り換え用ボタンの設定は変更できません。

- 無線赤外線制御信号を受信できる機器のみを、リモコンで操作できます。



1 リモコン設定を長押しして、AV 電源を押す。

リモコン設定ボタンがゆっくりと点滅します。

2 設定したい機器の入力切り替え用ボタンを押す。

例えば、VIDEO 1 端子につないだビデオデッキを設定したい場合は、VIDEO 1 を押す。

リモコン設定ボタンが点灯します。

3 数字ボタンを押してリモコンコードを入力する。

コードが複数ある場合は、テレビを含む機器に対応しているコードのうちの 1 つを入力します。

111～115 ページの一覧で、機器に対応するリモコンコードをご確認ください。

ご注意

テレビのボタンには 500 番台のコードのみ設定できます。

4 ENT を押す。

有効なリモコンコードが入力されると、リモコン設定ボタンがゆっくりと 2 回点滅し、設定モードが自動的に終了します。

5 手順 1 から 4 をくり返して、他の放送局を設定する。

ご注意

数字ボタンを押しているときは、リモコン設定ボタンはオフになります。

設定操作を途中でやめるには

手順の途中で、リモコン設定を押す。設定モードが自動的に終了します。

設定したあとに入力を有効にするには

設定したボタンを押して、お好みの入力を有効にする。

設定に失敗した場合は、下記を確認してください。

- 手順 1 でリモコン設定ボタンが点灯しない場合は、乾電池が消耗しています。両方の乾電池を新しいものに交換してください。

- リモコンコードを入力中にリモコン設定ボタンが 5 回速く点滅する場合は、エラーが発生しています。手順 1 から操作をし直してください。

機器別、メーカー別の対応リモコンコード

次の一覧のリモコンコードを使って、他社製の機器や初期設定のままでは操作できないソニー製の機器を設定できます。機器が受信できるリモコン信号はモデルや年式によっても異なるため、1 つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。一覧のコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

ご注意

- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- お使いの機器によっては、リモコンの入力切り替え用ボタンのすべてが機能しないことがあります。

CD プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DAT デッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、 208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MD デッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

HDD レコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダー／ プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
PANASONIC	335
SAMSUNG	336
LG	337

PSX の対応コード

メーカー	コード
SONY	313、314、315

DVD プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

DVD レコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403

DVD / ビデオデッキコンボの対応コード

メーカー	コード
SONY	411

DVD / HDD コンボの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	501、536、539
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNAVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
MITSUBISHI/ MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558

メーカー	コード
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551

メーカー	コード
TELEFUNKEN	530、537、 538、547、 549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、 510、544
LOEWE	515、534、556
VIZIO	576、577

LD プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオ CD プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、 703、704、 705、706
AIWA*	710、750、 757、758
BLAUPUNKT	740
EMERSON	750
FISHER	717、720
GENERAL ELECTRIC (GE)	722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
HITACHI	722、725、 729、741
ITT/NOKIA	717

メーカー	コード
JVC	726、727、 728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/ MGA	732、733、 734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、 737、738、 739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、 730、731、 741、747
SAMSUNG	742、743、 744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TOSHIBA	747、756

* アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

衛星チューナー(ボックス)の対応コード

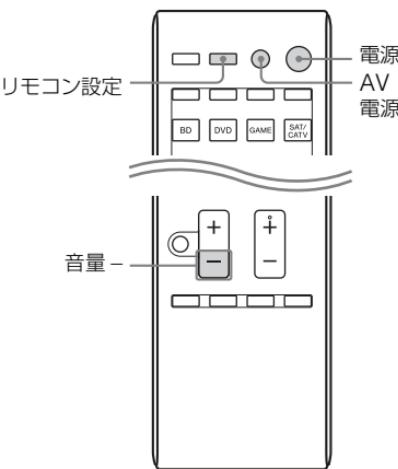
メーカー	コード
SONY	801、802、 803、804、 824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC (GE)	866
GRUNDIG	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、 864、876
PACE	848、849、 850、852、 862、863、864
PANASONIC	818、855

メーカー	コード
PHILIPS	856、857、 858、859、 860、864、874
NOKIA	851、853、 854、864
RCA/PROSCAN	866、871
BITA/HITACHI	868
HUGHES	867
JVC/EchoStar/ Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

ケーブルテレビ用チューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	821、822、823
HAMLIN/REGAL	836、837、 838、839、840
JERROLD/G.I./ MOTOROLA	806、807、 808、809、 810、811、 812、813、 814、819
JERROLD	830、831
OAK	841、842、843
PANASONIC	816、826、 832、833、 834、835
PHILIPS	830、831
PIONEER	828、829
RCA	805
SCIENTIFIC ATLANTA	815、816、 817、844
TOCOM/PHILIPS	830、831
ZENITH	826、827

リモコンをリセットする



- 1 音量 - を押したまま、電源を長押しして、AV 電源を押す。
リモコン設定ボタンがゆっくりと3回点滅します。
- 2 すべてのボタンをはなす。
リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

使用上のご注意

安全について

キャビネットに固い物体が落ちたり、液体がかかったりした場合は、使用を中止し、本体の電源プラグを抜いて保守要員が点検してください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体裏面の銘板に表示されています。
- 本機の電源を切っても、電源コードが壁のコンセントにつながれている間は、電源が完全に遮断されるわけではありません。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使い続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

設置場所について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所。
 - じゅうたんや布団の上。
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所。
 - ほこりの多い所。
 - 密閉された所。
 - 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
 - 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入り、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいため、屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 本機をワックス、オイル、研磨処理など特殊処理を施した台や床面に置く場合は、表面が汚れたり、変色したりする可能性があるため、ご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れについて

キャビネットやパネル面、操作部は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

Bluetooth通信について

- 各 Bluetooth 機器はおよそ 10 メートルの範囲内（障害物のない距離）で使用してください。下記の状況では、通信可能範囲が狭くなります。
 - Bluetooth 接続された機器同士の間に、人や金属体、壁、その他の障害物があるとき
 - 無線 LAN が設置されている場所
 - 使用中の電子レンジの近く
 - 他の電磁波が発生している場所
- Bluetooth 機器と無線 LAN (IEEE 802.11b/g) は同じ周波数帯 (2.4 GHz) を使用しています。Bluetooth 機器を無線 LAN 機能搭載の機器の近くで使用すると、電磁干渉が起きる場合があります。通信速度の低下、ノイズ、接続障害の原因となることがあります。この問題が発生した場合は、下記の措置を行ってください。
 - 無線 LAN 機器から 10 メートル以上離れた場所に本機を置く。
 - Bluetooth 機器を 10 メートル以内で使用しているときは、無線 LAN 機器の電源を切る。
 - 本機と Bluetooth 機器ができる限り近付けて置く。
- 本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、下記の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。
 - 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスが発生する場所
 - 自動ドアや火災報知機の近く

- 本機は、Bluetooth 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応することで、Bluetooth 技術を使って通信するときの安全な接続を確保しています。ただし、設定内容や他の要因によってはこのセキュリティでは不充分なことがあるため、Bluetooth 技術を使って通信するときはご注意ください。
- Bluetooth 技術を使用した接続時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロファイルを持つすべての Bluetooth 機器との Bluetooth 通信を保証するものではありません。
- 本機につなぐ Bluetooth 機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定める Bluetooth 標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。つなぐ機器が Bluetooth 標準規格に適合していても、Bluetooth 機器の特性や仕様によっては、接続できなかったり、操作方法、表示、動作が異なったりするなどの現象が発生する場合があります。
- 本機につなぐ Bluetooth 機器や通信環境、周囲の状況によっては、ノイズが発生したり、音声が途切れたりすることがあります。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 3 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4 FH1

2.4DS/OF4

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として FH-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 10 m です。
この無線製品は 2.4 GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式および OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は 40 m です。

その他

可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花や高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。

本機についてご質問や問題がある場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

本機の使用中に以下の問題が発生した場合は、このトラブルシューティングガイドをご覧になり、問題の改善に役立ててください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

電源

本機の電源が自動的に切れる

- 「Auto Standby」が「On」に設定されている（103 ページ）。
- スリープタイマー機能が働いている（13 ページ）。
- 「PROTECTOR」が働いている（130 ページ）。

映像

テレビに映像が表示されない

- 入力切り替え用ボタンで適切な入力を選ぶ。
- テレビを適切な入力モードに設定する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- コンポーネント映像入力を正しく割り当てる。
- 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（20 ページ）。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器につながっているか確認する。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color、4K または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用する。

- 本機のHDMI 映像出力信号が「HDMI OFF」に設定されている。この場合は、HDMI OUTPUT ボタンを使って「HDMI A」または「HDMI B」を選ぶ（85 ページ）。

テレビに3D 映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、3D の映像が表示されないことがあります。本機が対応している HDMI 映像フォーマットを確認してください（133 ページ）。

テレビに4K 映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、4K の映像が表示されないことがあります。お使いのテレビや映像機器の性能および設定を確認する。また、映像機器が、本機の4K に対応している HDMI IN 端子に接続されているかを確認する。

本機のスタンバイ状態時に、テレビから映像が出ない

- 「Pass Through」設定を「On」または「Auto」に設定している場合、本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から映像が 출력されます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッププレイ操作を行うか、もしくは本機の電源を入れてお好みの HDMI 機器を選択する。
- “プラビアリング”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settings メニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（100 ページ）。

テレビ画面に GUI メニューリストが表示されない

- HDMI OUT A 端子または HDMI OUT B 端子についてないでいるときのみ、GUI を使用できます。
- ホームを押して、GUI を表示させる。

- テレビが正しくつながっているか確認する。
- テレビによっては、テレビ画面に GUI メニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

表示窓が消灯する

- 本体前面の PURE DIRECT ランプが点灯しているときは、PURE DIRECT を押して機能をオフにする（57 ページ）。
- 本機の DIMMER を押して、表示窓の明るさを調節する。

音声

どの機器を選んでも、音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続コードが、本機、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認する。
- 本機とすべての機器の電源が入っているか確認する。
- MASTER VOLUME つまみが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- SPEAKERS が「SPK OFF」に設定されていないか確認する（37 ページ）。
- ヘッドホンが本機につながっていないことを確認する。
- 消音を押して消音機能を解除する。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押すか、本体の INPUT SELECTOR つまみを回して、お好みの機器を選択（43 ページ）。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、HDMI Settings メニューの「Audio Out」を「TV+AMP」に設定する（101 ページ）。マルチチャンネル音声のソースを再生できない場合は、「AMP」に設定する。ただし、この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。

- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが切り換えられたときに、音声が途切れる場合があります。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランクやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも3メートル離れているか確認する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器が本機に正しくつながっていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのコードが正しくつながれていることを確認する。

ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーが本機に正しくつながっていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認する。

- アナログ機器の左右両方の端子に接続しているか確認する。アナログ機器は左右両方の端子に接続する必要があります。音声コード(別売)を使う。
- スピーカーのレベルを調節する(96ページ)。

- 「自動音場補正」またはSpeaker Settingsメニューの「Speaker Connection」を使って、スピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speaker Settingsメニューの「Test Tone」を使って、各スピーカーから正しく音が放出されているか確認する。
- ドルビーデジタルサラウンドEXの情報を持たないディスクがあります。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認する。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。
- 選んだサウンドフィールドによつては、アクティブサブウーファーから音が出ないことがあります。
- すべてのスピーカーが「Large」に設定されていて、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ません。

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- 接続に使用されているコードが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認する。
- 「INPUT MODE」を確認する(85ページ)。
- 機器が、対応するHDMI端子に正しく接続されているか確認する。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、必ずハイスピードHDMIケーブルを使用する。

- テレビ画面に GUI が表示されているときは、本機から音声が出力されないことがあります。ホームを押して、GUI を非表示にする。
- HDMI 端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）はつないだ機器によって制限されることがあります。HDMI ケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、つないだ機器の設定を確認する。
- つないだ機器が著作権保護技術 (HDCP) に対応していない場合、本機の HDMI OUT 端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認する。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD) を楽しむには、再生機器の映像解像度を 720p/1080i より高く設定する。
- DSD やマルチチャンネルリニア PCM を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settings メニューの「Audio Out」の設定を下記のように設定する。
 - テレビのスピーカーと本機から音を聞きたい場合は、「TV+AMP」
 - 本機から音を聞きたい場合は、「AMP」
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、HDMI Settings メニューの「Audio Out」を「AMP」に設定する（101 ページ）。
- 本機でテレビ入力が選ばれているときに、本機につないだ機器の音声が聞こえない場合
 - HDMI 接続で本機につないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず本機の入力を HDMI に変更する。
 - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り換える。
 - テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選ぶ。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 「2ch Analog Direct」を使っているときは、音声は出力されません。別のサウンドフィールドを使う（52 ページ）。
- HDMI 機器制御機能を使用しているときは、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
 - つないだ機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。各機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
 - 本機の入力を機器に接続した HDMI 入力に切り換える。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認する（86 ページ）。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認する。
- Speaker Settings メニューで音声レベルパラメーターを調整する。

ドルビーデジタル、DTS または AAC マルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中の DVD などが、ドルビーデジタルまたは DTS 形式で録音されているか確認する。
- DVD プレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認する。
- HDMI Settings メニューで「Audio Out」を「AMP」に設定する（101 ページ）。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、DSD、マルチチャンネルリニア PCM は、HDMI 接続でのみお楽しみいただけます。

サラウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるか確認する（52 ページ）。
- サンプリング周波数が 48 kHz より大きい DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、または Dolby TrueHD を受信している場合は、サウンドフィールドが働きません。

スピーカーからテストトーンが output されない

- スピーカーコードが確実につながっていない可能性があります。スピーカーコードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につなぐ。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが output される

- スピーカーパターンの設定が間違っている。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正確に一致していることを確認する。

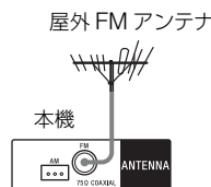
本機のスタンバイ状態時に、テレビから音声が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から音声が出ます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行なうか、もしくは本機の電源を入れて好みの HDMI 機器を選択する。
- “ブルピアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settings メニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（100 ページ）。

チューナー

FM 放送の受信状態が悪い

- 75 Ω 同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外 FM アンテナをつなぐ。



放送局が受信できない

- アンテナがしっかりとつながれているか確認する。アンテナを調節したり、必要に応じて外部アンテナを使う。
- 自動受信で受信状態が悪い（放送局の信号が弱い）。ダイレクト選局を使う。
- プリセットされた放送局がない、またはプリセットした放送局を消去してしまった（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセットする（51 ページ）。

- アンプ押してから、リモコンの画面表示（または本機のDISPLAY）をくり返し押して、表示窓に周波数を表示させる。

iPod/iPhone

音声が歪む

- リモコンの音量 - をくり返し押す（または本機のMASTER VOLUME つまみを反時計回りへ回す）。
- iPod/iPhone の「EQ」設定を「Off」または「Flat」にする。

iPod/iPhone から音が出ない

- iPod/iPhone を取りはずして、もう一度つなぐ。

iPod/iPhone を充電できない

- 本機の電源が入っているか確認する。
- iPod/iPhone が確実につながっているか確認する。

iPod/iPhone を操作できない

- iPod/iPhone が保護ケースに入ったままになっていないか確認する。
- iPod/iPhone のコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。
- 本機の電源を切り、iPod/iPhone を取りはずす。もう一度本機の電源を入れて、iPod/iPhone をつなぎ直す。
- 本機が対応していない iPod/iPhone を使用している。対応機器については、「対応 iPod/iPhone モデル」(45 ページ)をご覧ください。

iPhone の呼び出し音の音量を変更できない

- iPhone を直接操作して呼び出し音の音量を調節する。

USB 機器

本機が対応している USB 機器を使用していますか

- 本機が対応していない USB 機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。対応機器については、「対応 USB 機器」(47 ページ)をご覧ください。
 - USB が認識されない。
 - 本機にファイル名またはフォルダ名が表示されない。
 - 再生ができない。
 - 音が飛びぶ。
 - ノイズがある。
 - 歪んだ音声が 출력される。

ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声を含んでいる。

USB が認識されない

- 本機の電源を切り、USB 機器を取りはずす。もう一度本機の電源を入れて、USB 機器をつなぎ直す。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ (47 ページ)。
- USB 機器が正しく働いていない。問題の対処方法については、USB 機器の取扱説明書を参照してください。

再生が始まらない

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ (47 ページ)。
- ▶ を押して再生を開始する。

USB 機器を ψ (USB) ポートにつなげない

- USB 機器を上下逆さにつなごうとしている。USB 機器を正しい方向につなぐ。

エラーメッセージが表示される

- USB 機器に保存されているデータが破損している。
- 本機で表示できる文字コードは下記のとおりです。
 - 大文字 (A ~ Z)
 - 小文字 (a ~ z)
 - 数字 (0 ~ 9)
 - 記号 (‘ ’ = < > * + , ? ./ @ [\])
他の文字は正しく表示されないことがあります。

「読み込み中...」が長時間表示される、または再生までに時間がかかる

- 以下の場合は、読み出しに時間がかかることがあります。
 - USB 機器に多くのフォルダー やファイルが保存されている。
 - 非常に複雑なファイル構成になっている。
 - メモリー容量を超えている。
 - 内部メモリーが断片化している。
- 下記を目安にすることをおすすめします。
 - USB 機器の総フォルダーナー数： 256 以下 (「ROOT」フォルダーを含む)
 - フォルダーごとの総ファイル数： 256 以下

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO 形式の MP3 ファイルは再生できません。
- 複数のトラックがある音声ファイルを再生しようとしている。
- AAC ファイルは正しく再生できないことがあります。
- Windows Media Audio Lossless および Professional 形式の WMA ファイルは再生できません。
- FAT16 または FAT32 以外のファイルシステムでフォーマットされた USB 機器には、本機は対応していません。*

- パーティション分割した USB 機器をお使いの場合は、第 1 パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 8 階層のフォルダーまで再生できます (「ROOT」 フォルダー含む)。
- フォルダーナー数が 256 を超えている (「ROOT」 フォルダー含む)。
- フォルダー内のファイル数が 256 を超えている。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

* 本機は FAT16 および FAT32 に対応していますが、すべての FAT に対応していない USB 機器もあります。詳しくは各 USB 機器の取扱説明書を参照するか、製造元にお問い合わせください。

ネットワーク接続

無線 LAN 接続で WPS につなげない

- アクセスポイントが WEP に設定されているときは、WPS を使ってネットワークにつなぐことはできません。アクセスポイントスキャンでアクセスポイントを検索してから、ネットワークを設定してください。

エラーメッセージが表示される

- エラーの性質を確認する。「ネットワーク機能メッセージ一覧」(73 ページ)をご覧ください。

ネットワークにつなげない

- ネットワークの状態を確認する。Network Settings メニューの「Information」の「Connection Status」を参照してください (102 ページ)。「Not connected」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直す (38 ページ)。

- 無線ネットワークでシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、設定をやり直す。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの設定を確認して、設定をやり直す。機器の設定について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
- 必ず無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使う。
- 無線ネットワークは、電子レンジやその他の機器から放出される電磁放射線の影響を受けます。電磁放射線を放出する機器から離れたところに配置してください。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。

TV SideView 機器を使って本機を操作できない

- 本機の電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度 TV SideView を使って操作する。
- 本機の電源を入れたらすぐに TV SideView を使えるようにするには、Network Settings メニューの「Network Standby」を「On」にする。

Network Settings メニューを選べない

- 本機の電源を入れてからしばらく時間をおいて、Network Settings メニューを設定する。

ホームネットワーク

ネットワークにつなげない

- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。

- 本機のネットワーク設定が間違っている。ネットワークの状態を確認する。Network Settings メニューの「Information」の「Connection Status」を参照してください（102 ページ）。「Not connected」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直す（38 ページ）。
- サーバーが不安定な可能性があります。再起動する。
- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。
- サーバーが正しく設定されているか確認する（58 ページ）。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。
- 無線ネットワークにシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置する。
- パソコンで ICF (Internet Connection Firewall) 機能が働いていると、本機のパソコンへの接続の妨げになることがあります（パソコンをサーバーとして使用している場合のみ）。本機をパソコンにつなぐには、ファイアウォールの設定の変更が必要な場合があります。（ファイアウォールの設定の変更について詳しくは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。）
- 本機を初期化した場合、またはサーバーのシステム回復を行った場合は、ネットワーク設定をやり直す（38 ページ）。

サーバー（パソコンなど）がサーバーリストに表示されない（テレビ画面に「サーバーが見つかりません。」が表示される。）

- サーバーの電源を入れる前に本機の電源を入れた。サーバーリストをリフレッシュする（64 ページ）。

- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。
- サーバーが正しく設定されているか確認する（58 ページ）。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。
- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。ネットワーク設定情報を確認する（102 ページ）。
- お使いの無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書を参照して、マルチキャスト設定を確認する。マルチキャスト設定が無線 LAN ルーター、アクセスポイント上で有効になっている場合は、無効にする。

音声データを標準再生できない

- Shuffle Play が選ばれている。シャッフルをくり返し押して、「Shuffle On」を消す。
-
- #### 再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない
- 再生しようとしている音声ファイルが本機が対応しているフォーマットであることを確認する（47 ページ）。
 - DRM 著作権保護付きの WMA ファイルは再生できません。WMA ファイルの著作権保護の確認のしかたについては、67 ページを参照してください。

再生中に音が飛ぶ

- 無線 LAN の帯域幅が低すぎる。本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、間に障害物を置かない。

- パソコンをサーバーとして使用している場合は、パソコンで複数のアプリケーションが動作している可能性があります。パソコン上でアンチウィルスソフトがアクティブになっていると、システムリソースを大量に消費するため、一時的にソフトウェアを無効にする。
- ネットワーク環境によっては、1つ以上の機器で同時にトラック再生をできないことがあります。他の機器の電源を切って、本機がトラック再生ができるようにする。

「再生できません。」が表示される

- 音声ファイル以外のファイルを再生することはできません。
- サーバーが正しく設定されているか確認する（58 ページ）。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。
- サーバー上の音声ファイルが壊れていなか、または消去されているかを確認する。サーバーに付属の取扱説明書を参照してください。
- 以下のトラックは再生できません。
 - 再生制限に違反するトラック
 - 規格外の著作権情報が付いているトラック
 - ホームネットワークストリーミングを許可していないオンラインミュージックストアで購入したトラック
 - 本機が対応していないフォーマットのトラック（47 ページ）
- 選んだトラックがサーバーから消去されていないか確認する。トラックが消去されていたら、別のトラックを選ぶ。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。

- サーバーが不安定な可能性があります。再起動する。
- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。

「No Track」が表示される

- 選んだフォルダーの中にトラックやフォルダーがない場合は、フォルダーを拡張して内容を表示させることはできません。

著作権付きの WMA 形式のトラックを再生できない

- WMA ファイルの著作権保護の確認のしかたについては、67 ページを参照してください。

前回選んだトラックが選べない

- サーバー上でトラック情報が変更された可能性があります。サーバーリストでサーバーを選び直す(64 ページ)。

ホームネットワーク上の機器を本機につなげない

- 「Network Standby」が「Off」に設定されている。本機の電源を入れる、または Network Settings メニューで「Network Standby」を「On」に設定する(103 ページ)。
- ネットワークが正しく設定されていることを確認する。正しく設定されていない場合は、接続できません(102 ページ)。
- デバイスリスト上の機器が「Not Allow」(66 ページ) に設定されている、または機器がデバイスリストに追加されていない(66 ページ)。
- すでに 20 台(最大登録数)の機器が登録されている。デバイスリストから不必要的機器を削除して、「Auto Access」を「Allow」に設定する(66 ページ)。
- 本機が以下のいずれかの操作をしているときは、本機のサーバー操作が停止します。

- サーバー上に保存されたトラックを再生している(本機がプレーヤーとして働いている)
- ソフトウェアをアップデートしている
- システムをフォーマットしている

ネットワーク上の機器からアクセスすると、本機の電源が自動的に入らない

- 本機自体は Wake-on-LAN 標準に対応していません。そのため、Network Settings メニューで「Network Standby」が「Off」に設定されているときは、Wake-on-LAN で本機の電源を入れることはできません。本機がネットワーク経由で他の機器からの操作に反応できるように、「Network Standby」を「On」に設定する(103 ページ)。

ネットワーク上の機器で本機の電源を入れることができない

- ネットワーク上の他の機器で Wake-on-LAN を起動しても、本機の電源が入らない

AirPlay

iOS 機器からは本機の電源を入れることはできません

- セキュリティソフトウェアのファイアウォール設定を確認する。詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>
- iOS 機器または iTunes を使用しているパソコンがホームネットワークにつながっているか確認する。
- 本機の AirPlay ソフトウェアのバージョンをアップデートする、および iOS 機器を最新バージョンにアップデートする(71 ページ)。

音が飛ぶ。

- ネットワーク環境などの要因によって、無線ネットワークを使用しているときに音が飛びます。
- サーバーがオーバーロードしている。使用中の不要なアプリケーションすべてを閉じる。

本機を操作できない

- iOS 機器のソフトウェアを最新バージョンにアップデートする(72 ページ)。
- 本機のソフトウェアを最新バージョンにアップデートする(72 ページ)。
- 他の機器を使って AirPlay 対応機器に同時にストリーミングしないでください。

音量 +/-、▶、⏸、⏹、◀◀、▶▶、シャッフルやリピートなどのボタンが動作しない

- iTunes に本機からの操作を受け入れさせる設定を、有効にする。
- iOS 機器で本機がリモートスピーカーに選ばれていない。本機をネットワークスピーカーに選ぶ。

SEN

本機をサービスにつなげない

- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- ネットワークの状態を確認する。Network Settings メニューの「Information」の「Connection Status」を参照してください。「Not connected」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直す(38 ページ)。
- 無線ネットワークにシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置する。

- インターネットプロバイダーとの契約でインターネット接続が一度につき 1 つの機器に制限されている場合は、同時に 2 台の機器でインターネットにアクセスすることはできません。通信会社かサービスプロバイダーへお問い合わせください。

音が飛ぶ。

- 無線 LAN の帯域幅が低すぎる。本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、間に障害物を置かない。

Bluetooth 機器

ペアリングができない

- Bluetooth 機器を本機に近付ける。
- 他の Bluetooth 機器が本機の周りにあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他の Bluetooth 機器の電源を切る。
- Bluetooth 機器で入力したパスキーと同じパスキーを正しく入力する(77 ページ)。

Bluetooth 接続ができない

- 接続しようとしている Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していないため、本機とつなぐことができません。
- 本機の BLUETOOTH を押して、前回つないだ Bluetooth 機器につなぐ。
- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオンにする。
- Bluetooth 機器から接続を確立する。
- ペアリング登録情報が消去されている。もう一度ペアリング操作を行う(76 ページ)。
- Bluetooth 機器につないでいるときは、他の Bluetooth 機器から本機は検出されず接続を確立できません。

- Bluetooth 機器のペアリング登録情報を消去して（77 ページ）、もう一度ペアリング操作を行う。

音が飛んだり変動したりする、または接続が失われる

- 本機と Bluetooth 機器が離れてしている。
- 本機と Bluetooth 機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させる。
- 無線 LAN、他の Bluetooth 機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器が本機の近くにある場合は、遠ざけてください。

Bluetooth 機器の音声を本機で聞くことができない

- Bluetooth の音量を上げてから、音量 +（または本機の MASTER VOLUME つまみ）を使って音量を調節する。

ハム音またはノイズがひどい

- 本機と Bluetooth 機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させる。
- 無線 LAN、他の Bluetooth 機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器が本機の近くにある場合は、遠ざけてください。
- つないだ Bluetooth 機器の音量を下げる。

“ブラビアリンク”（HDMI 機器制御）

HDMI 機器制御機能が正しく働かない

- HDMI 接続を確認する（29、30 ページ）。
- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する（100 ページ）。
- つないだ機器が HDMI 機器制御機能に対応していることを確認する。

• つないだ機器の HDMI 機器制御設定を確認する。つないだ機器に付属の取扱説明書を参照してください。

- HDMI ケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「“ブラビアリンク”の準備をする」（80 ページ）の手順をくり返す。
- 「Control for HDMI」が「Off」に設定されているときは、機器が HDMI IN 端子に接続されている場合でも、“ブラビアリンク”は正しく機能しません。
- “ブラビアリンク”で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC 規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダーなど）：3 台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーなど）：3 台まで
 - チューナー関連機器：4 台まで（このうちの 1 台は、本機のメニュー操作に使用します。）
 - オーディオシステム（AV アンプ/ヘッドホン）：1 台まで

オーディオリターンチャンネル（ARC）が働かない

- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。
- TV 入力の「INPUT MODE」が「AUTO」に設定されているか確認する（85 ページ）。

MHL 対応機器が充電できない

- 本機の電源が入っているか確認する。
- 機器が確実につながっているか確認する。

MHL 対応ソース機器から画像を表示できない

- 機器の設定を確認する。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

- 機器が MHL ケーブルで HDMI / MHL (VIDEO 2) IN 端子につながっているか確認する (30 ページ)。

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作する (7 ページ)。
- リモコンと本体の間に障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、新しいものに交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。
- リモコンに設定した他社製の機器を操作する場合は、モデルや製造メーカーによってリモコンが正しく機能しないことがあります。

エラーメッセージ

本機に異常がある場合は、表示窓にメッセージが表示されます。メッセージによって本機の状態を確認できます。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

PROTECTOR

数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きている。電源コードを抜いて、30 分時間をおいてもう一度電源コードをつなぐ。
- 本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれている。本機の通気孔をふさいでいるものを取り除く。
- つないでいるスピーカーのインピーダンスが、本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりも低い。音量を下げる。
- 以下の対策を行っている間、電源コードを抜いて 30 分放置し、本機の温度を下げておく。

- すべてのスピーカーとアクティブラバーアウトプットのケーブルを抜く。
- スピーカーのワイヤーの先端がしっかりとねじってあるか確認する。
- まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも 30 分間、本機を操作する。その後、他のスピーカーを 1 台ずつつないでいき、各スピーカーをテストして、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確かめる。

以上の項目を確認して問題が解決したら、電源コードをつないで本機の電源を入れる。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

USB FAIL

USB ポートから過電流が検出されました。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。iPod/iPhone または USB 機器を確認して取りはずし、もう一度電源を入れる。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」(95 ページ)、「iPod/iPhone メッセージ一覧」(47 ページ)、「USB メッセージ一覧」(49 ページ) および「ネットワーク機能メッセージ一覧」(73 ページ) を参照してください。

メモリーを消去する

参照セクション

削除対象	参照ページ
メモリーに保存されたすべての設定	91 ページ
カスタマイズしたサウンド フィールド	57 ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- ・型名：STR-DN1040
- ・故障の状態：できるだけ詳しく
- ・購入年月日：
- ・お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード（6Ω、JEITA）：
165W + 165W

サラウンドモード（6Ω、JEITA）：

フロント部：165W + 165W

センター部：165W

サラウンド部：165W + 165W

サラウンドバック／フロントハイ
部：165W + 165W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、
サラウンドバック／フロントハイ
部：6Ω～16Ω

高調波ひずみ率

0.09%以下

20Hz～20kHz

（6Ω負荷）

100W + 100W

周波数特性

アナログ

10Hz～100kHz

+0.5/-2dB（6Ω時）（サウンドフィールド、イコライザ回避）

入力

アナログ

感度 : 500 mV/50 kΩ
S/N 比¹⁾ : 105 dB
(A、500 mV²⁾)

デジタル（同軸）

インピーダンス : 75 Ω
S/N 比 : 100 dB
(A、20 kHz LPF)

デジタル（光）

S/N 比 : 100 dB
(A、20 kHz LPF)

出力（アナログ）

ZONE 2

電圧 : 500 mV/1 kΩ
SUBWOOFER

電圧 : 2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル
±10 dB、1 dB 単位

1) INPUT SHORT (サウンドフィールド、
イコライザー回避時)

2) 重み付きネットワーク、入力レベル

ビデオ部

入力／出力

VIDEO :
1 Vp-p、75 Ω
COMPONENT VIDEO :
Y : 1 Vp-p、75 Ω
PB : 0.7 Vp-p、75 Ω
PR : 0.7 Vp-p、75 Ω

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 90.0 MHz

アンテナ

FM アンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡型

AM チューナー部

受信範囲

531 kHz ~ 1,602 kHz
(9 kHz 間隔)

アンテナ

ループアンテナ

HDMI 映像

入力／出力 (HDMI リピーター ブロック)

フォーマット	2D	3D		
		フレーム パッキング 方式	サイドバイ サイド方式 (ハーフ方式)	オーバー アンダー方式 (トップアンド ボトム方式)
4096 × 2160p @ 23.98/ 24 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/ 30 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/ 24 Hz	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/ 60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/ 30 Hz	○*	○	○*	○*
1920 × 1080p @ 25 Hz	○*	○	○*	○*
1920 × 1080p @ 23.98/ 24 Hz	○*	○	○*	○*
1920 × 1080i @ 59.94/ 60 Hz	○*	○	○*	○*
1920 × 1080i @ 50 Hz	○*	○	○*	○*
1280 × 720p @ 59.94/ 60 Hz	○*	○	○*	○*
1280 × 720p @ 50 Hz	○*	○	○*	○*
1280 × 720p @ 29.97/ 30 Hz	○*	○	○*	○*
1280 × 720p @ 23.98/ 24 Hz	○*	○	○*	○*
720 × 480p @ 59.94/ 60 Hz	○*	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○*	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/ 60 Hz	○*	—	—	—

* MHL 接続でも対応しているフォーマットです。

MHL 部

バージョン
MHL2

最大電流
900 mA

iPod/iPhone 部

DC 5V 1.0 A MAX

USB 部

対応フォーマット*

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :
32 kbps ~ 320 kbps、VBR

AAC :
16 kbps ~ 320 kbps、CBR、
VBR

WMA9 規格 :
40 kbps ~ 320 kbps、CBR、
VBR

WAV :
8 kHz ~ 192 kHz、16 ビット
PCM
8 kHz ~ 192 kHz、24 ビット
PCM

FLAC :
8 kHz ~ 192 kHz、16 ビット
FLAC
44.1 kHz ~ 192 kHz、
24 ビット FLAC

* あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。

転送速度

ハイスピード

対応する USB 機器
マスストレージクラス (MSC)

最大電流
500 mA

NETWORK 部

イーサネット LAN
10BASE-T/100BASE-TX

無線 LAN

対応規格 :
IEEE 802.11 b/g

セキュリティ :
WEP 64 ビット、
WEP 128 ビット、
WPA/WPA2-PSK (AES),
WPA/WPA2-PSK (TKIP)

無線周波数 :
2.4 GHz

Bluetooth 部

通信システム

Bluetooth 標準規格 Ver.3.0 準拠

出力

Bluetooth 標準規格 Power Class
2

最大通信範囲

見通し線およそ 10 メートル¹⁾

周波数帯

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz ~
2.4835 GHz)

変調方式

FHSS (Freq Hopping Spread
Spectrum)

対応 Bluetooth プロファイル²⁾

A2DP (Advanced Audio
Distribution Profile)

AVRCP 1.3 (Audio Video
Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T 方式

伝送距離 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz
(サンプリング周波数 44.1 kHz)

¹⁾ 実際の通信範囲は、機器間の障害物、電子レンジの周りの磁場、静電気、コードレス電話、受信感度、アンテナの性能、オペレーションシステム、ソフトウェアアプリケーションなどの要因によって異なります。

- 2) Bluetooth 標準プロファイルは、機器間の Bluetooth 通信の目的を示しています。
- 3) コーデック：音声信号伝達とフォーマット変換
- 4) サブバンドコーデック

電源、その他

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

180 W

消費電力（スタンバイ状態時）

0.3 W（「Control for HDMI」、「Pass Through」、「Network Standby」、「Bluetooth Standby」を「Off」に設定、およびゾーン 2 の電源切時。）

寸法（幅／高さ／奥行き）（約）

430 mm × 172 mm ×
329.4 mm（最大突起部を含む）

質量（約）

10.0 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。



省エネルギー • オートオフ機能搭載

索引

数字

2 チャンネル 52
4K アップスケール 100
5.1 チャンネル 22
7.1 チャンネル 22

あ行

アクセスポイントスキャン 38
アップコンバート 20
アルファベットサーチ 15
エフェクトレベル 53, 107
オーディオ機器コントロール 83
オートジャンルセレクター 82
オートスタンバイモード／ Auto Standby 103, 109
音楽サービス 68
音響効果 52

か行

距離の単位／ Distance Unit 98, 106
クロスオーバー周波数 98, 106
ケーブルテレビチューナー 29, 31
高域／ Treble 56, 107
固定 IP アドレス 39

さ行

サーバー 58
サーバーリスト 64
サウンドフィールド 52
サラウンド設定 107
シーンセレクト 83

システムオーディオコントロール 81
システム設定 103, 109
自動位相マッチング 96
自動音場補正設定 104
自動音場補正の種類 104
自動選局 50
消音 44
消去
メモリー 91
サウンドフィールド 57
リモコン 115
スーパー オーディオ CD プレーヤー 29, 31
スピーカー設定／ Speaker Settings 94, 105
スピーカーパターン／ Speaker Pattern 96, 105
スピーカー接続 96
スリープタイマー 13
接続
アンテナ 32
スピーカー 24
テレビ 26
ネットワーク 33
無線 34
有線 34
iPod/iPhone 32
MHL 機器 30
USB 機器 32
センタースピーカーリフトアップ 98
ゾーン 2 88
ソフトウェアバージョン 104

た行

- ダイナミックレンジの圧縮 100,
108
ダイレクト選局 51
チューナー 50
チューナー設定 108
低域／Bass 56, 107
デジタル CS チューナー 29, 31
テストトーン／Test Tone 98
テレビ 26
テレビリモコンからのメニュー
操作 83

な行

- 二重音声／Dual Mono 100,
108
入力 43
入力設定／Input Settings 101,
107
入力割り当て 86
ネットワーク設定／Network
Settings 102

は行

- バイアンプ接続 88
パスキー 76
ビデオデッキ 29, 31
ピュアダイレクト 57
表示窓 9
表示窓に情報を表示する 110
“プラビアリンク”
準備する 80
プリセットメモリー 51
プリセット放送局 51
ブルーレイディスクレコーダー／
プレーヤー 29

ま行

- マルチゾーン 88
ミュージックモード 54
ムービーモード 53
無線 LAN アンテナ 11
無線 LAN 信号強度 10
メッセージ
エラー 130
ネットワーク機能 73
iPod/iPhone 47
USB 49
自動音場補正 95
メニュー 91, 104

や行

- 有線ネットワーク 41

ら行

- リモコン 12, 110
レベル設定 104

わ行

- ワンタッチプレイ 80

A-Z

Advanced Auto Volume 99
AirPlay 71
AM 50
Audio Out 101, 108
Audio Settings 98, 108
A/V Sync 99, 108
Bluetooth AAC 79, 109
Bluetooth 設定 109
BS デジタルチューナー 29, 31
CD プレーヤー 29
Center Speaker Lift Up 98
DCAC (デジタルシネマ自動音場補正) 36
Device Name 103
DLNA 58
Dolby Digital EX 21
DVD プレーヤー 29, 31
DVD レコーダー 29
D.L.L. (Digital Legato Linear) 98, 108
Easy Setup (かんたん設定) 35
EQ 設定／EQ Settings 56, 107
Fast View 101
FM 50
FM モード／FM Mode 50, 108
GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) 42
HD-D.C.S. 53
HDMI 27
HDMI アクティブサブウーファー レベル 101, 108
HDMI 機器制御／Control for HDMI 100, 108
HDMI 設定／HDMI Settings 100, 108
HOME NETWORK 64
INPUT MODE 85
IP Setting 102

iPod/iPhone 32
充電する 46
対応モデル 45
Language 103
Listen 43
MHL 30
Name Input 52
Network Standby 103
Network Update 104
Pass Through 100, 108
PlayStation®3 29
PROTECTOR 130
SEN 68
Settings メニュー 91
Software Update Notification 103
Sound Field 82, 101
TV SideView 66
USB FAIL 130
USB 機器 32, 47
Wake-on-LAN 65
Watch 43
Wireless network 38
WPS
　　プッシュボタン 40
PIN コード 40

ソニーソフトウェアの使用許諾契約書

(下記に定義するとおり) ソニーソフトウェアを使用する前に本契約書をよくお読みください。ソニーソフトウェアを使用すると、本契約書に同意したものとみなされます。本契約書の条項に同意できない場合、ソニーソフトウェアを使用することができません。

重要：よくお読みください。このソフトウェア使用許諾契約書（「EULA」）は、お客様と、ソニー製ハードウェアデバイス（「本製品」）の製造元かつソニーソフトウェアのライセンサーである Sony Corporation（「Sony」）との間で締結される法的な契約書です。本製品に含まれているソニーソフトウェアと第三者ソフトウェア（別途ライセンス付きのソニー製ソフトウェア以外のソフトウェア）および更新プログラムやアップグレードプログラムも以降「ソニーソフトウェア」とします。ソニーソフトウェアは本製品でのみ使用できます。

お客様がソニーソフトウェアを使用すると、本 EULA の条項に拘束されることを承諾したものです。本 EULA の条項をご承諾いただけない場合は、ソニーソフトウェアのライセンスを発行できません。その場合は、ソニーソフトウェアをご使用いただけません。

ソニーソフトウェアライセンス

ソニーソフトウェアは、国内外の著作権法、およびその他の知的財産権に関する法律や条例によって保護されています。ソニーソフトウェアは販売されるものではなく、使用が許諾されるものです。

ライセンス許諾

ソニーソフトウェアに対するすべての著作権およびその他の権利は、ソニーまたはソフトウェアのライセンサーが保有しています。本 EULA は、ソニーソフトウェアの個人的利用の権利を付与するものです。

要求、権利、制約および制限事項

制約：ソニーソフトウェアの全体または一部の複製、変更、リバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルは許可されていません。

コンポーネントの分離：ソニーソフトウェアは一製品として使用が許諾されています。ソニーソフトウェアのコンポーネント部分を分離させることはできません。

本製品一台で使用する：ソニーソフトウェアは本製品一台のみで使用できます。

貸与：ソニーソフトウェアの貸与またはリリースは許可されていません。

ソフトウェア移行：ソニーソフトウェアのコピーを保持することなく、すべてのソニーソフトウェア（すべてのコピー、コンポーネント部品、メディア、取扱説明書、その他の印刷版および電子版ドキュメント、リカバリーディスクと本 EULA を含むがこれらに限定されない）を移行させ、受取人が本 EULA の条項に同意することを条件に、本 EULA に規定するお客様のすべての権利を永久に譲渡することができます。

終結：本 EULA の条項を順守して使用いただけない場合は、他の権利を侵害することなく、ソニーは本 EULA を終結します。この場合、お客様はソニーからの要求にしたがって本製品をソニー指定の住所に送るものとします。ソニーソフトウェアを本製品から削除次第、本製品をお客様へ返送するものとします。

機密性：お客様は、公然に知られていないソニーソフトウェアに含まれる情報を機密保持すること、およびこれらの情報をソニーに事前許可を得ずに漏えいしないことに同意するものとします。

リスクの高い活動

ソニーソフトウェアは耐故障製品ではありません。また、ソニーソフトウェアの障害が死亡、障害、その他の重大な身体的損害または環境的損害につながるような（「リスクの高い活動」）、フェイルセーフ機構が必要とされる危険な環境（原子力施設、航空機航行、通信システム、航空管制、直接的な救命装置、軍事システムなど）で、オンライン制御装置として使用したり再販したりすることを目的とした設計および製造を行っていません。ソニーおよびサプライヤーは、「リスクの高い活動」に対していかなる適合性の明示または默示保証を明確に否認します。

ソニーソフトウェア保証の除外

ソニーソフトウェアは自己責任で使用してください。ソニーソフトウェアは、「現状有姿」かつ「現状渡し」で、いかなる保証を設けることなく提供され、ソニー、販売会社、およびソニーのライセンサー（この章でのみ包括的に「ソニー」と呼ぶ）は、市販性および特定目的との適合性の暗黙保証を含むがこれらに限定せず、明示あるいは默示を問わざいかなる保証を明確に否認します。ソニーは、ソニーソフトウェアに含まれている機能にエラーやバグがないこと、またはお客様の要件を満たしていること、および操作が改善される可能性を保証しません。また、ソニーは、ソニーソフトウェアの使用や使用結果に関わる正確性、信頼性などを保証せず、明言しません。ソニーまたはソニーの認定代理店が口頭または書面で伝えた情報が、新たな保証を設定したり、この保証の範囲を広げたりすることはできません。默示保証の除外を認めていない地域の場合は、上記除外は適用されません。

上記の一般性を制限することなく、ソニーソフトウェアは本製品以外の他の製品での使用を目的に設計されてはいないことを特に定めます。お客様自作または第三者が製作したいかなる製品、ソフトウェア、コンテンツまたはデータがソニーソフトウェアによって破損しても、ソニーは保証しません。

責任の制限

ソニー、ソニー販売店およびソニーのライセンサー（この章でのみ包括的に「ソニー」と呼ぶ）は、明示または默示保証の不履行、契約不履行、怠慢、厳格責任またはその他の法理論に基づきまたは起因して、付隨的または結果的に生じるソニーソフトウェアに関連する損害に対して一切の責任を負いません。ソニーが損害の可能性をアドバイスしたか否かに関わらず、これらの損害は、財産損害、収益損害、データ損害、本製品または他の関連機器使用の損害、ダウンタイムおよび操作時間を含み、かつ制限しません。いかなる場合も、本EULAの規定において、お客様に対する全債務を合わせた総額は、ソニーソフトウェアに実際に支払われた価格を超えないものとします。

輸出

ソニーソフトウェアをお客様の居住地外の国で使用、または居住地から他国へ持ち出すにあたり、輸入、輸出および通関に関する法律および規制を遵守するものとします。

準拠法

本EULAは、法の条項の抵触があろうと、日本国法が適用されかつ当該日本国法に準拠して解釈するものとします。本EULAから生じる論争は、東京の専属的合意管轄裁判所において行われるものとし、ソニーはこの契約書によって裁判地と裁判所の管轄に同意するものとします。お客様およびソニーは、本EULAから生じる、または本EULAに関わるいかなる問題に対する陪審裁判の権利を放棄するものとします。

契約の分離

本EULAの一部が無効または法的強制力を持たなくなった場合でも、他の部分は有効です。

本EULAまたはここで提示される限定的保証に関しては、本製品に付属の保証書に記載されている指定の住所に書面でソニーへお問い合わせいただけます。

サポート情報について

本機の最新情報について詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<http://www.sony.jp/support/faq.html>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話…0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話…0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。



ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for



Bluetooth®

HDMI™

MHL™



* 4 4 5 4 4 4 3 0 1 * (1)